

## がん治療・がん関連症状と就労等に関する実態調査

研究代表者 遠藤 源樹 順天堂大学公衆衛生学講座 准教授

### <研究協力者>

佐藤 准子 順天堂大学医学部公衆衛生学講座 助教  
三井 清美 昭和大学医学部衛生学公衆衛生学講座

#### 研究要旨

がん患者の治療と就労の両立は喫緊の課題である。しかしながら、がん患者の治療やがん関連症状と就労に関するがんサバイバーシップ研究は日本ではほとんどない。本調査では、がん腫、がん治療、がん関連症状、就労状況についての実態を把握するために、がん患者を対象に Web 患者調査を実施した。

がん腫は乳がん、大腸がん、胃がんの割合が多く、ステージはⅠとⅡの比較的進行度が低い人の割合が多かった。症状については、不安状態にある人が 25%、疲労の度合いは中等度の人 が 42.2%の割合で見られた。睡眠パターンに満足している人は 18.5%と低い傾向が認められた。現在の症状は、便秘・下痢や頭痛、しびれやむくみの順で割合が高かった。症状、不安状態、疲労、睡眠障害等の所見は、女性の方が男性よりも認める割合が高かった。

就労状況は、診断時に働いていた人のうち調査実施時まで就労継続できていたがん患者は 69%であり、その半数以上が正社員で事務職等、座り作業ベースの職場で働いている人の割合が多かった。勤務形態は 80%以上の人フルタイム勤務で、短時間勤務を行っている人は 15.9%で、離職率が約 31.0%であった。今後、更なる解析と、縦断研究を継続していく予定である。現在、外来におけるがんサバイバーシップ研究の実施に向け、準備を進めている。

#### A. 研究背景および目的

本研究の目的は、がん治療、抑うつ、不安、疲労、睡眠状況等のがん関連症状と就労状況の実態調査を行い、がん患者の就労継続及び就労継続に資する疫学的知見を得ることである。

#### B. 方法

1) 対象者、実施年月日：患者の Web 調査会社に登録している全てのがん患者を対象にして、平成 29 年 11 月にパネル調査を実施した。

2) デザイン、方法：縦断研究、各項目毎に回答者全員の割合と男女毎等の割合を算

出した。就労状況の変化については回答者全員の人数を算出した。

3) 基本的属性:性、年齢、住所(都道府県)、

婚姻状況、子どもの有無、世帯年収、職業

4) がん腫、がんの病期、入院の有無、手術

(していない・手術(開腹・開胸術・腹腔鏡術)・(胃・大腸内視鏡術))、抗がん剤治療の有無、放射線治療の有無、抗がん剤や放射線治療以外の治療(ホルモン治療・その他・治療していない)

5) 既往歴:脳卒中、心筋梗塞、メンタルヘルス不調、気管支喘息、糖尿病、高血圧、脂質異常症、胃潰瘍、その他、

6) 体力(療養前の元気な時の体力を100%とした時の現在の体力)

7) ここ最近2週間の体調

8) Hospital Anxiety and Depression scale(以下HADS):HADSは、14項目から構成され、質問の奇数番号がanxiety、偶数番号がdepressionの質問であり、各項目が0~3点の尺度である。奇数番号の合計得点が8点以上を不安状態、偶数番号の合計得点が11点以上を抑うつ状態と定義される。また、不安状態と抑うつ状態の合計得点を総合評価として20点以上を不安・抑うつ状態とされる。

9) 現在の症状:頭痛、背部痛、腹痛、その他の痛み、便秘・下痢、めまい、風邪(鼻水)・風邪(のどの痛み)・風邪(咳)・動悸・息切れ・むくみ・その他・特になし

10) 睡眠状況について:不眠症重症度質問票(ISI)を用いた。ISIは、過去2週間の不眠症状についての自記式質問紙で、7項目より構成されている。各項目は0-4点で、合計得点は0-28点で、得点が高いほど不眠の重症度が高い。カットオフ値は7

点である。各項目毎に全体の割合、男女毎の割合の算出と、カットオフ7点以上と6点以下の2つの群に分けて、全体の割合と男女別の割合を算出した。

11) 疲労、倦怠感: Brief Fatigue Inventory(以下BFI):倦怠感の有無、倦怠感の強さ、倦怠感の生活への支障の10項目から構成されている。倦怠感の強さと生活への支障0-10点の平均点を算出して、総合的倦怠感スコアとした。1-3点を軽症、4-6点を中等症、7-10点を重症と定義されている。

12) 就労状況:がんと診断された日に仕事についていたかどうか、がんと診断された後の状況、がんと診断されてからしばらくしてから働き始めたかどうか、職場の人にがんであることを伝えたかどうか、通勤時間、職位(管理職・管理職でない)、社員区分(正社員・契約社員・派遣社員・その他)、職種(事務職・営業職・技術職・研究職、その他)、仕事内容(立ち作業ベース・座り作業ベース・熱中症の恐れのある熱源のある職場・ものを運ぶ職場・長時間の運転・神経を集中しなければならない作業を伴う職場・夜勤がある・その他)、業種(建設業・製造業・(電気・ガス・熱供給・水道業)・情報通信業・(運輸・郵便業)・(卸売業・小売業)・(金融業・保険業)・不動産業・飲食業・(医療・福祉)・(教育・学習支援業)・その他・働いていない)、働いていた職場の社員数、会社全体の社員数について質問した。

## C. 研究結果

1) 対象者の選定と属性(図1~図13)

平成29年11月15日、16日にがん患者

web 調査を実施した。回答数は 1648 名、そのうち、がん診断時期やがん腫不明 63 名を除いた 1585 名 (96.2%) を対象とした。

対象者の性別は、男女がほぼ半数ずつで (男性 : 53.1%、女性 : 46.9%)、年齢層は、60 歳以上 (43.3%) が最多であるが、半数以上が 60 歳未満の就労世代の人が占めていた。地域は、関東が最も多かった (35.3%) が、沖縄を除く北海道から九州までほぼ全国に渡っていた。既婚者が多く (74.7%)、70% の人が子供を持っていた。世帯収入は、便宜上、①400 万未満、②400-800 万、③800-1200 万、④1200 万以上の 4 群に群分けを行った。400-800 万が最も多く (32.6%)、次いで 400 万未満 (32.4%)、800-1200 万 (14.0%) であった。調査実施時の職業はフルタイムで働いている人が 43.0% で最も多く、次いでパートの人が 11.9% で、回答者の半数以上の人が働いている結果であった。

## 2) がんについて (図 14~図 29)

療養となったがん腫は、その他を除いて乳がんが最も多く (17.7%)、次いで大腸がん (15.0%)、胃がん (11.8%) の割合が多く、少ないのは白血病 (2.4%)、悪性リンパ腫 (2.9%) であった。性別では、男性では大腸がん (22.4%)、胃がん (18.1%) の順で多く、女性では乳がん (37.5%)、子宮頸がん (19.8%) の順で多かった。進行度は多い順にステージⅠ、ステージⅡ、ステージⅢ、ステージⅣの順で、進行の度合いが低い人が多い結果であった。診断時からの年数は 10 年以上の人が最も多く (30.8%)、次いで 2~4 年未満

(19.4%)、4~6 年未満 (14.8%) で、回答者の半数以上が診断時から 6 年以上経過していた。

がんのために入院したことがある人/している人は 88.6% で、男女ともに 80% 以上の人に入院の経験を認めた。治療においては、男女と同様に 80% 以上の人が開腹・開胸・腹腔鏡等の手術を受けているが、抗がん剤治療、放射線治療、抗がん剤・放射線治療以外の治療に関しては半数以上の人を受けていなかった (抗がん剤なし : 65.7%、放射線なし : 78.2%、抗がん剤・放射線治療以外の治療なし : 74.3%)。抗がん剤・放射線治療以外の治療では、ホルモン治療が 18.0% であった。

## 3) がん以外の既往歴 (図 30、31)

今までにがん以外の病気がかかったことのある病気は、「がん以外の病気はない」と答えた人が 39.4% で最も多く、がん以外の病気に罹患したことがない人の割合が多い結果となった。高血圧 (23.2%)、胃潰瘍 (13.1%) の順に多かった。

4) 体力 (療養前の元気な時の体力を 100% とした時の現在の体力) : 得られた回答を①90% 以上、②70~89%、③40~69%、④39% 以下の 4 群に群分けを行った。(図 32、図 33) その結果、90% 以上の人 が 43.7% と最も多く、次いで 70~89% (33.2%) で回答者の 70% 以上の人 が元気な時の体力に比べて現在の体力は 70% 以上であると回答していた。

## 5) ここ最近 2 週間の体調 (図 34、図 35)

ここ最近 2 週間の体調はいかかですか、

という質問に対して、「まあ良い」と答えた人が 48.3%と最も多く、「良い」と答えた人が 31.4%で、体調が悪い人の割合は少なかった。

#### 6) HADS (図 36、図 37)

HADS については、抑うつ状態、不安状態、不安・抑うつ状態、それぞれについて回答者全体の割合を算出し、抑うつ状態の人は 13.4%、不安状態の人が 25.0%、不安・抑うつ状態の人が 13.6%であった。抑うつ状態に比べて不安状態にある人の割合が高いことが示された。また、女性の方が男性より不安状態にある人の割合が多い傾向が認められた。

#### 7) 現在の症状 (図 38、図 39)

現在の症状については、特になしと答えた人が 31.9%で最も多かったが、便秘・下痢 (26.1%)、頭痛 (19.4%)、むくみ (15.6%) の順で割合が高かった。男女別では、男性は、特にない人が 38.6%であったが、便秘・下痢 (24.5%)、しびれ (16.4%) の順で多かった。女性では、特にない人より頭痛が最も多く (29.6%)、次いで、便秘・下痢 (28%)、むくみ (22.6%) の順で認められた。

#### 8) 睡眠状況について (図 40～図 57)

平均睡眠時間は、5～6 時間 (32.5%)、6～7 時間 (30.9%) の順に割合が高かった。男女別にみると 5～6 時間が最も多いが、女性の方が男性より 4～5 時間の割合が多く、8 時間以上の割合が少ないことが認められた。

寝つきの困難、睡眠維持の困難、目が覚

めるのが早すぎるのが問題は「ない」人が最も多かった (それぞれ 50.1%、42.6%、39.2%)。いずれの問題も「重い」「深刻」と答えた人の割合は少ない一方で、約半数の人が「軽い」「中程度」の問題を感じていた。

睡眠パターンの満足度については、「普通」と「不満足」が「満足」を超えており (それぞれ 39.1%、31.2%)、男女別に見ると、女性より男性の方が「満足」や「普通」と答えた人の割合が多く、「非常に不満足」と答えた人の割合は男性より女性の方が多い傾向が認められた。

「集中力が日中の機能を妨げていますか」の質問に対しては、「全く妨げていない」に答えた人 (35.1%) に対して、「とても妨げている」、「極めて妨げている」人の割合は少なく (それぞれ 7.1%、1.4%)、日常生活において集中力を問題としている人が少ない結果であった。

「他の人から見て、睡眠時間の問題があなたの生活の質を妨げている程度はどの位ですか」の質問に対しては、「全く顕著でない」と答えた人の割合が 51.5%で、約半数の人が問題としていないことが示された。男女別に見ると、「全く顕著でない」と答えた人の割合は男性の方が女性より多く、「とても顕著」と答えた人の割合は女性の方が多い傾向が認められた。

現在の睡眠時間の問題は、「全く心配でない」と答えた人が 39.2%と最も多かったが、「少し心配」と「いくらか心配」に回答した人の合計 (それぞれ 33.6%、17.0%) が約半数である結果となった。

次に、ISI をカットオフ値 7 点以上と 6 点以下に分けて検討した。その結果、7 点

以上の人の割合の方が6点以下の人の割合を超えており、不眠症に分類される人の方が多結果となった。男女別に見ると、男女とも7点以上の割合が多い結果であったが、女性の方が7点以上の割合が多い傾向が認められた。

昼寝は(図58～図61)、半数近くの人(47.2%)が昼寝をし、昼寝をする日数は多い順から2日が24.1%、1日が20.5%であるが、毎日昼寝をする人の割合も11.5%であった。男女別にみると、女性の方は週の昼寝日数が少ない人が多いのに対して、男性は週に5日、6日、7日と週の昼寝日数が多い人の割合が高いことが示された。

#### 9) 疲労・倦怠感(図62～図65)

「この1週間の普通とは異なる疲れやだるさを感じましたか」という質問に対して「はい」と答えた人は37.5%で、「いいえ」と答えた人より少なかった。男女別では、女性は「はい」と答えた人が41.9%で半数近い人がこの1週間に普通とは異なる疲れやだるさを感じていた。一方で、男性は「はい」と答えた人は33.7%であった。

BFIについては、疲労・倦怠感が、軽症に該当する人の割合が45.0%と最も多い結果となったが、中等症(42.2%)、重症(12.8%)の割合も少なくない。男女別に見ると、女性は中等症に該当する人の方が軽症に該当する人より多く、それに対して男性は、軽症に該当する人が49.5%で、半数が軽症であった。

#### 10) 就労状況(図66～図91)

がんと診断された日に働いていた人は

全体で71.7%であった。男女別に見ると、男性は80%、女性は62.4%の人が、がんと診断された日に働いていた。また、その89.4%の人が職場の人に、自分ががんであることを伝えており、男性の方が女性より高い割合で会社に伝えていた。

通勤時間は、通勤時間は、得られた回答から単位を「分」に直し、0～108分に対して15分ごとに群分けを行った。その結果、16～30分(28.4%)、0～15分(28.1%)、46～60分(16.1%)の順で多く、121分以上(0.7%)、106～120分(2.7%)と通勤時間が長い人の割合は少なかった。男女別に見ると、女性の方が男性より通勤時間が短い人の割合が高い結果となった。

職位、社員区分、職種、労働形態は、管理職でない人の割合が68.1%であった。社員区分は正社員が63.3%で最も多く、男女別では、男性は78.0%の人が正社員であるのに対して女性の正社員の割合は41.7%であった。また、労働形態では残業なしのフルタイム勤務が46.0%で最も多く、残業ありのフルタイム勤務(38.2%)を合計すると80%以上の人の労働形態はフルタイム勤務であった。男女別に見ると、男性は短時間勤務が6.9%であるのに対して、女性における短時間勤務は、29.0%と、残業ありのフルタイム勤務29.3%とほぼ同じ割合であった。職種は、多い順から事務職(36.3%)、技術職(26.1%)、営業職(14.4%)で、男女別に見ると、女性は事務職の割合が最も多く、男性では技術職の割合が高かった。

診断時に働いていた業種は、製造業が18.9%で最も多く、次いで卸売業・小売業、医療・福祉の順であった。男女毎に見ると、

男性では製造業が最も多いのに対して、女性では医療・福祉と卸売業・小売業の割合が共に 13.5 % と最も割合が高かった。仕事内容は、座り作業がベースの職場が 699 人と最も多く、熱源のある職場、長時間運転の割合は低い傾向が見られ、男女別に見ても同様の傾向が認められた。

企業規模は、職場の社員数、会社全体の社員数について、どちらも 50 名未満が最も多く（それぞれ 62.3%、36.6%）、次いで 50～999 名（それぞれ 29.2%、31.3%）であった。男女別にみると、男性では職場の社員数が、50 名未満が 56.8%と最も多く、会社全体の社員数では 1000 名以上が最も多いこと、女性では職場の社員数、会社全体の社員数ともに 50 名未満が最も多いことが示された。

がん診断時と調査実施時の就労状況の変化を検討した結果、診断時に働いていた人は 1137 人、働いていない人は 448 人であった。働いていた人のうち、調査実施時においても働いていた人は 784 人 (69%)、働いていない人（離職した人）は 353 人 (31.0%) であった。診断時に働いていた人の多くが調査時においても働いていることが示された。一方で、診断時に働いていなかった人のうち、調査実施時に働いていた人は 87 人 (19.4%)、働いていない人は 361 人 (80.6%) であった。また、診断時に働いていた 1137 人の復職状況について図 89 に示した。

#### D. 結論

がん腫、がん治療、がん関連症状、就労状況についての実態を把握するためにがん患者 Web パネル調査を実施した。がん

関連症状は、便秘・下痢、頭痛、むくみの症状の訴えが多く、不安状態、疲労や睡眠に問題を感じている人がいることが分った。また、そのいずれの症状も女性の方が男性より問題を抱えている割合が高い傾向が認められた。就労状況は、がん診断時に働いていた人の多くが調査時においても働いている、一方で、31.0%の割合で離職していることが示された。がん腫、がん関連症状と就労の関連を検討することが今後の課題である。

#### E. 学会発表

##### 1. 論文発表

今後、論文投稿を予定している。

##### 2. 学会発表等

今後、学会発表を予定している。

##### 3. 知的財産権の出願・登録状況

なし

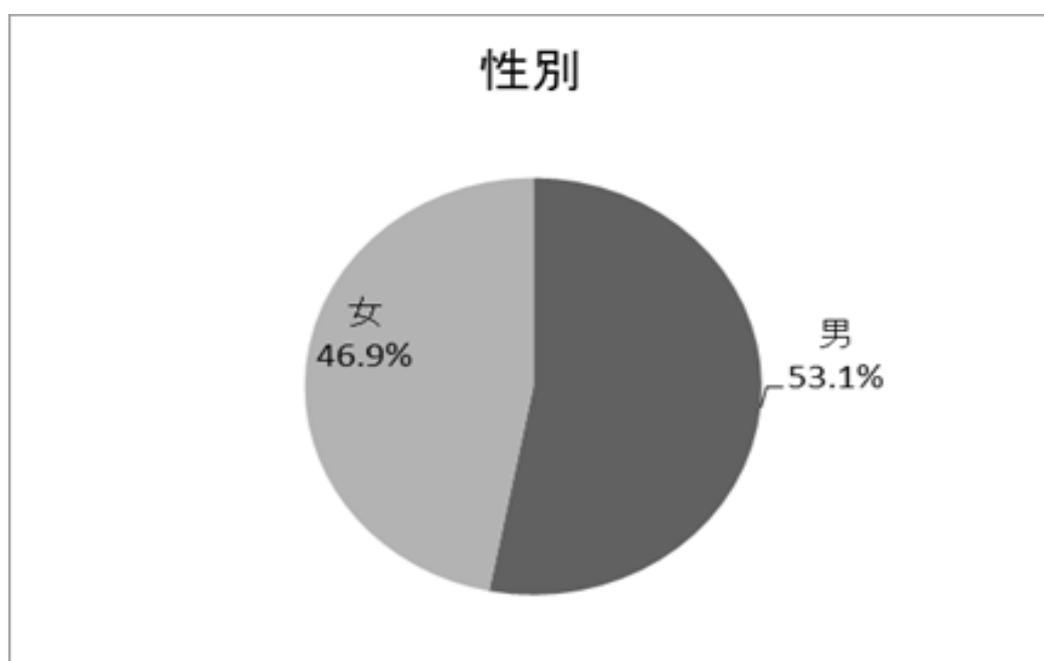
#### (参考文献)

1. 角田ゆう子、福間英祐、和田守憲二、比嘉国基ほか. 乳癌術後外来患者の HADS score による精神的 QOL の検討. 日本臨床外科学会. 66(1). 1-6. 2005.

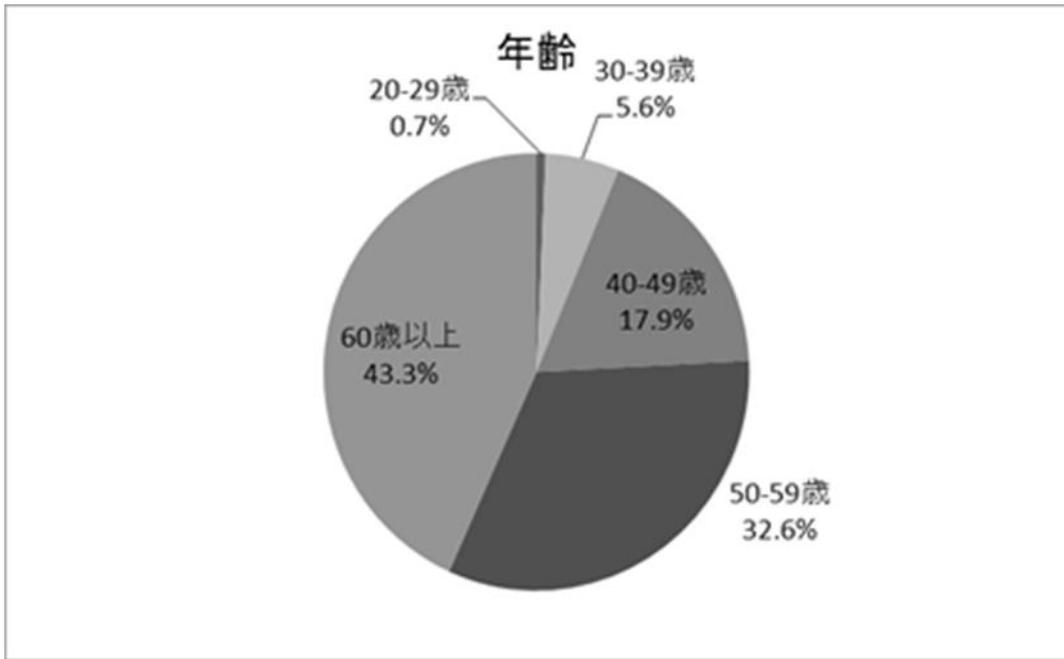
2. Okuyama T, Wang XS, Akechi T, Mendoza TR, Hosaka T, Cleeland CS, Uchitomi Y. Validation study of the Japanese version of the brief fatigue inventory. J Pain Symptom Manage. 25(2). 2003.

3. 伊藤光、平松哲夫. 睡眠障害に対するプロトコールに基づく薬物治療管理 (PBPM) 後の睡眠状況の変化と患者満足度の評価. 日本プライマリ・ケア連合会誌. 40(2). 79-85. 2017.

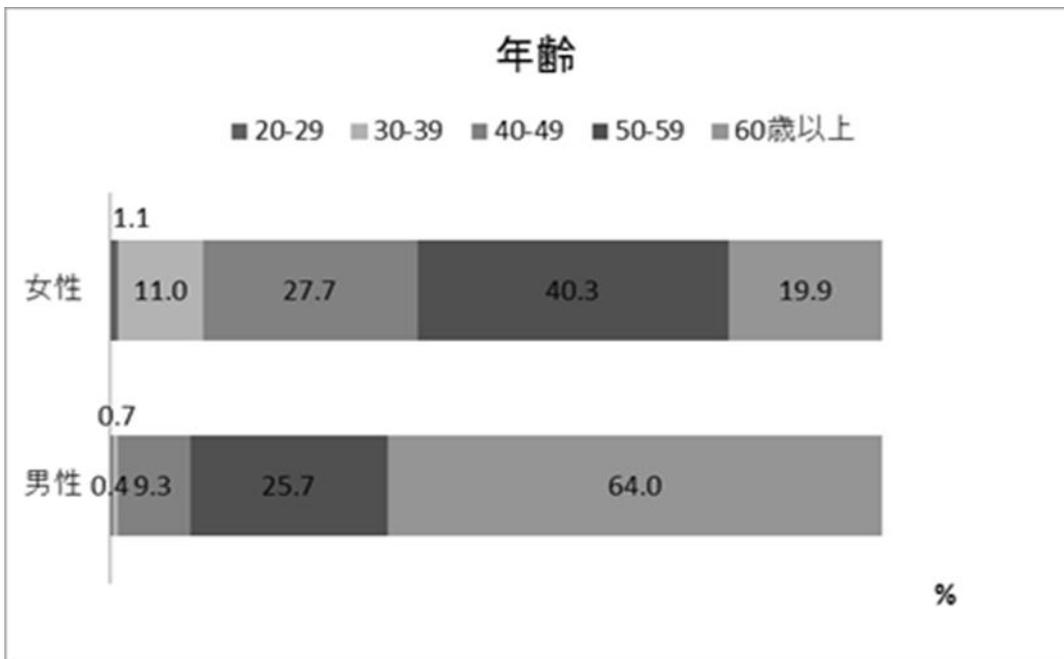
4. Motoki Endo, Yasuo Haruyama, Go Muto, Tetsuya Mizoue, Noriko Kojimahara, Naohito Yamaguchi. Work sustainability among male cancer survivors after returning to work. J Epidemiology 2017
5. Motoki Endo, Yasuo Haruyama, Miyako Takahashi, Chihiro Nishiura, Noriko Kojimahara, Naohito Yamaguchi. Returning to work after sick leave due to cancer: A 365-day cohort study of Japanese cancer survivors. J Cancer Survivorship.



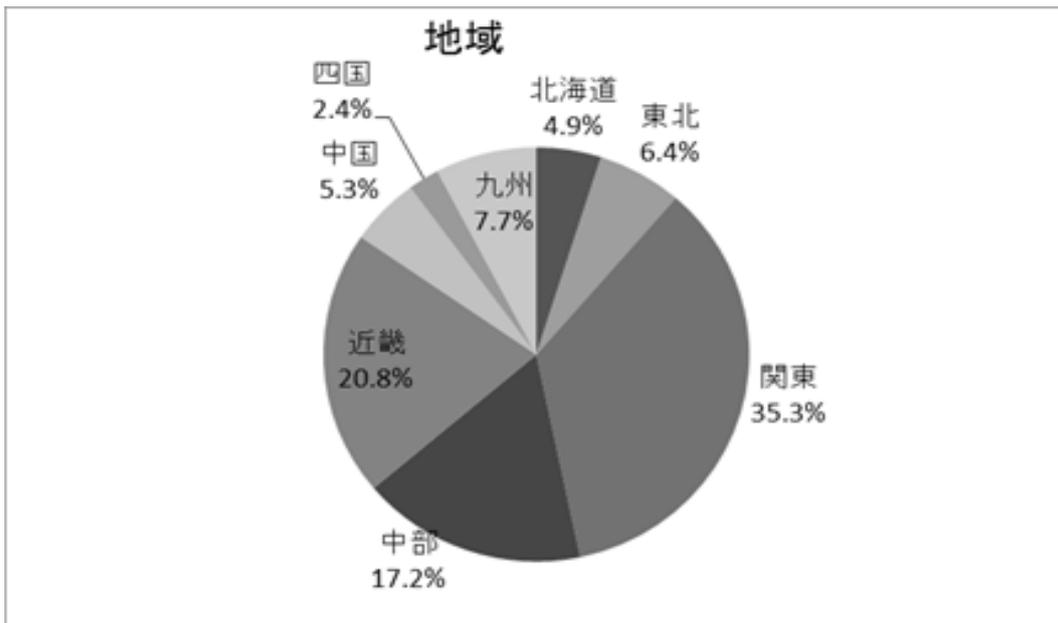
(図 1 : 性別(n=1585))



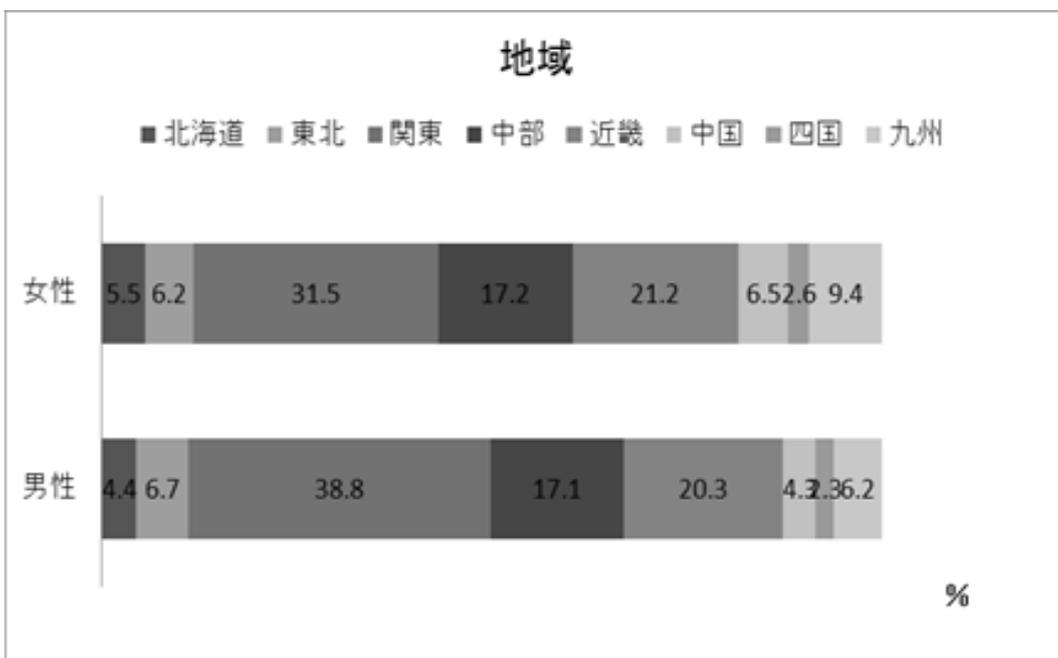
(図2：年齢(n=1585))



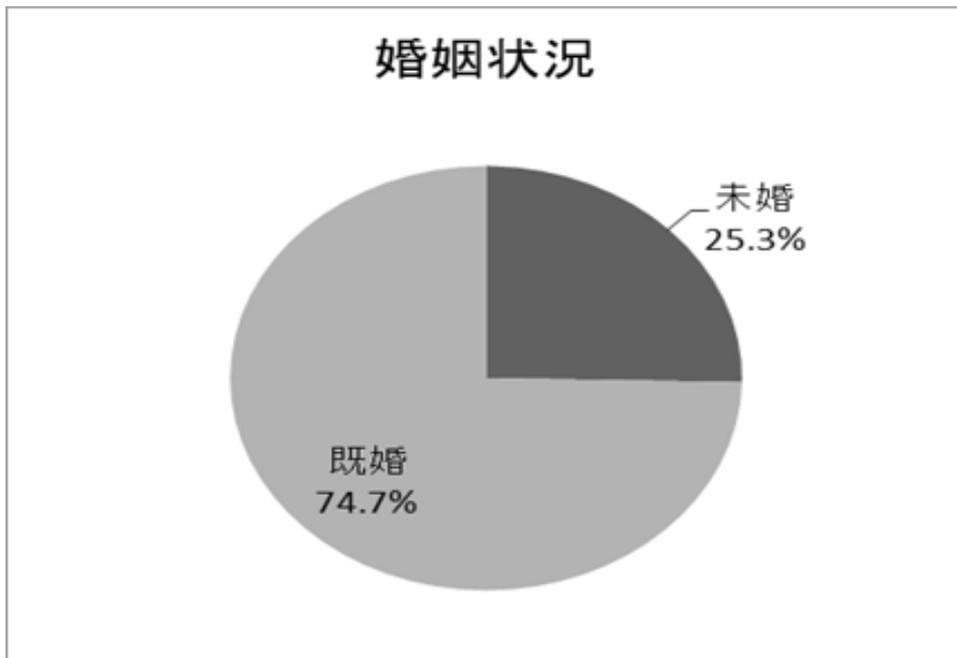
(図3：男女別年齢(男性：841，女性：744))



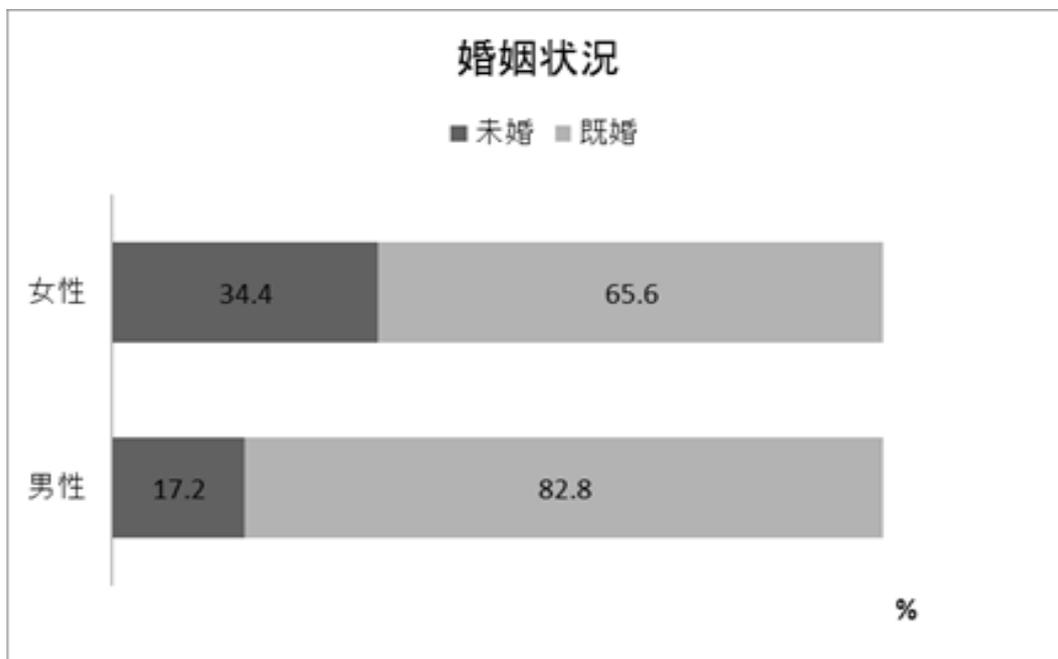
(図4：地域(n=1585))



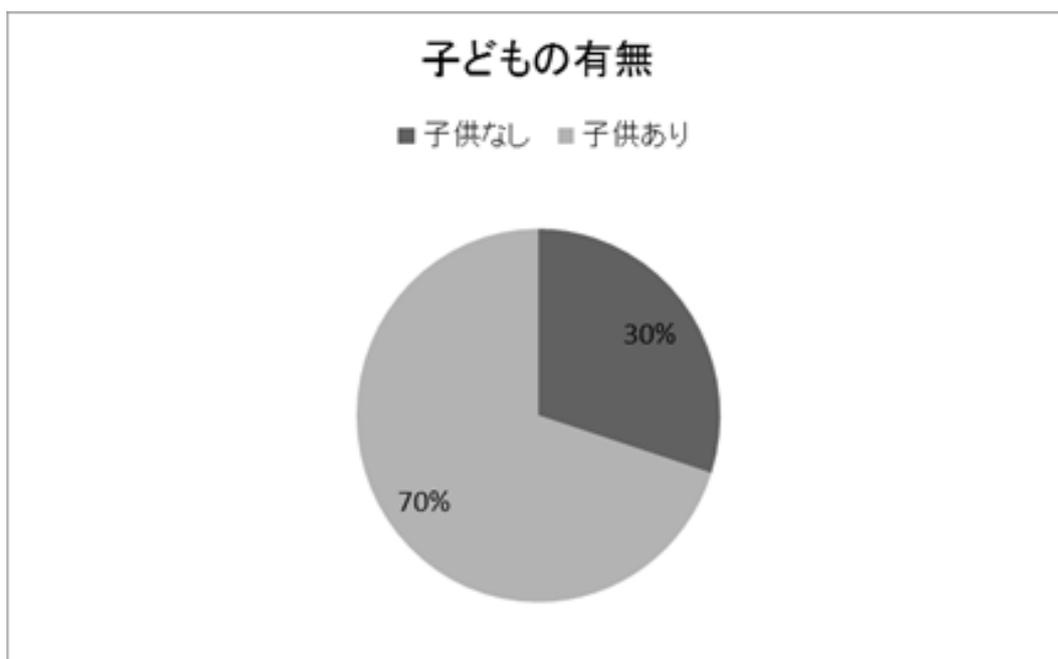
(図5：男女別地域(男性：n=841, 女性：n=744))



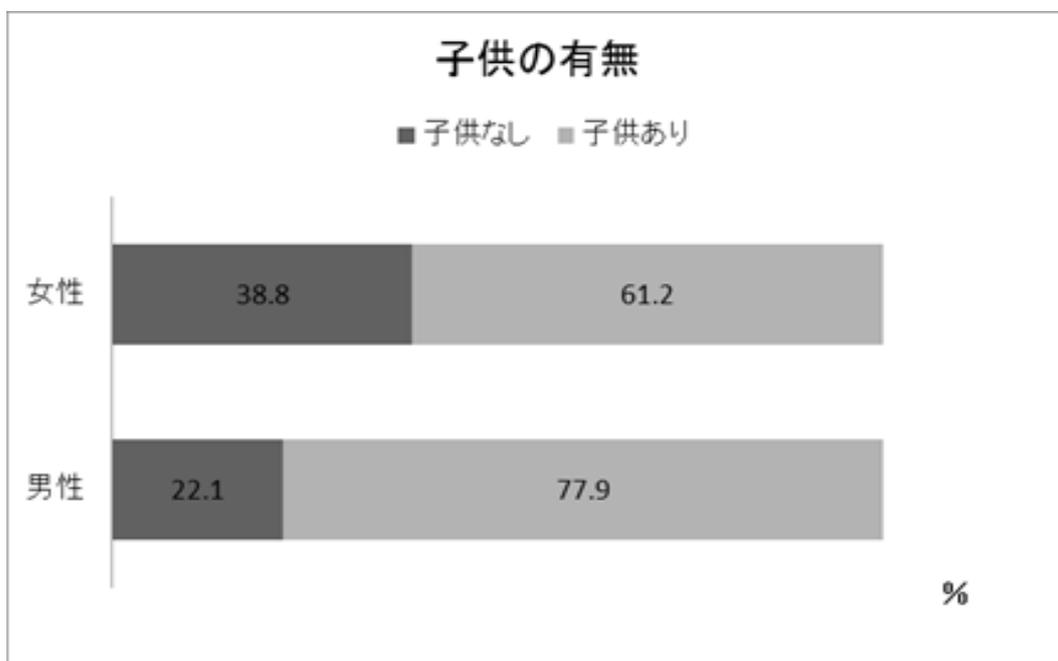
(图 6 : 婚姻状况(n=1585))



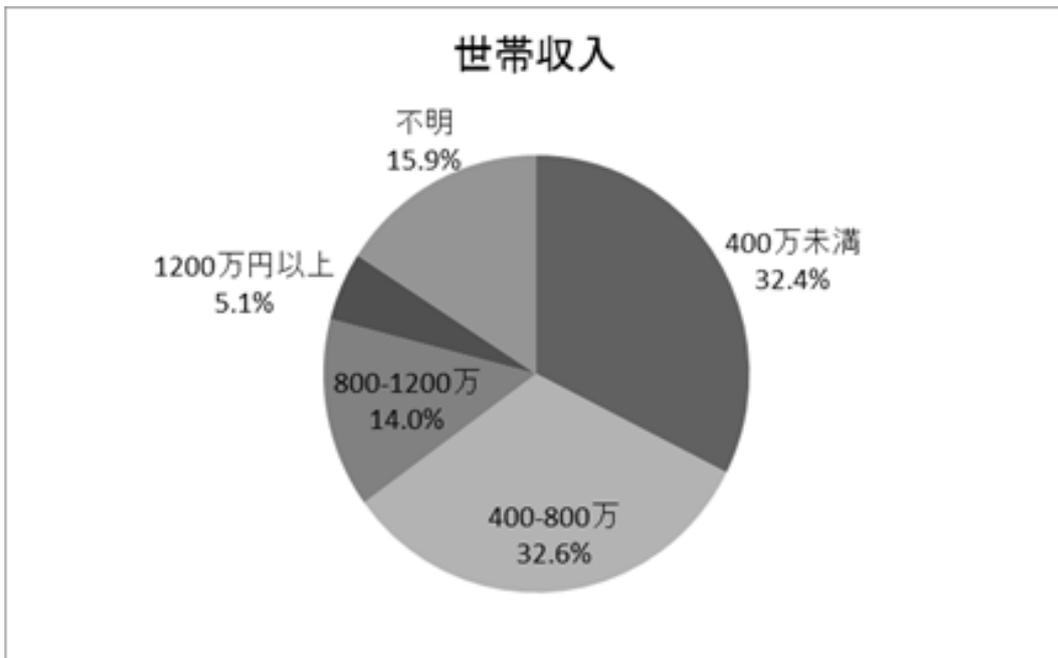
(图 7 : 男女别婚姻状况(男性 : n=841, 女性 : n=744))



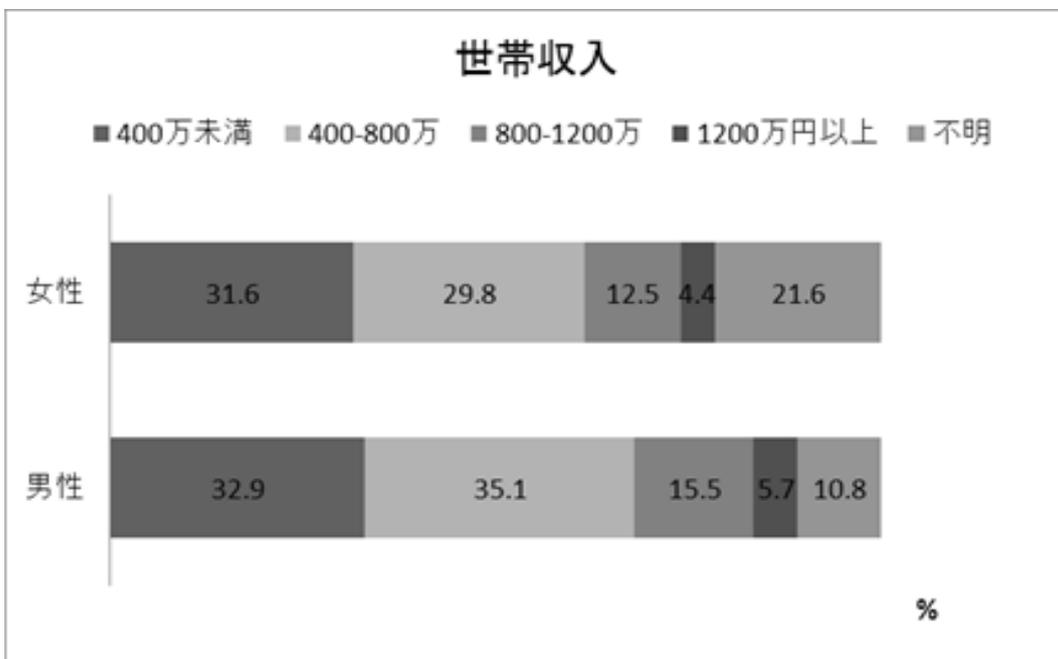
(図8：子供の有無(n=1585))



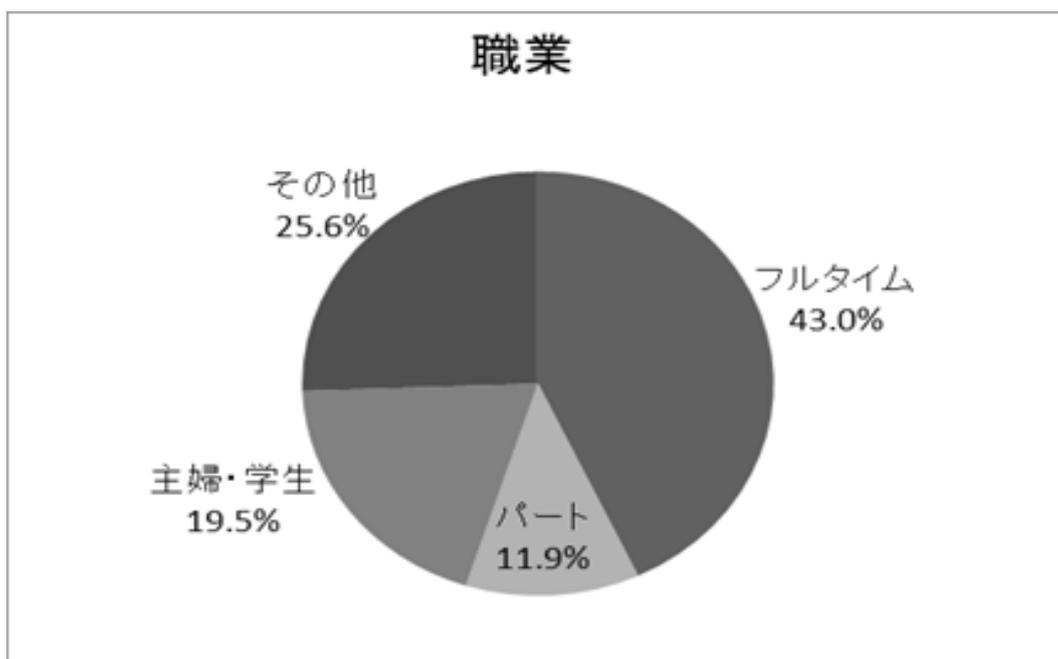
(図9：男女別子供の有無 (男性：n=841, 女性：n=744))



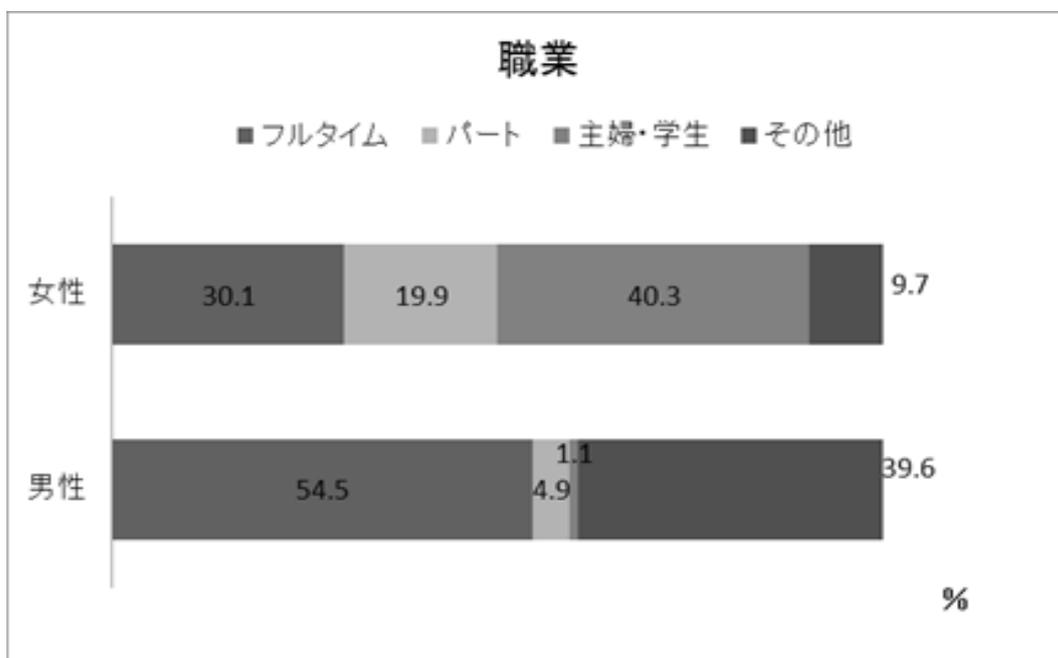
(図 1 0 : 世帯収入 (n=1585))



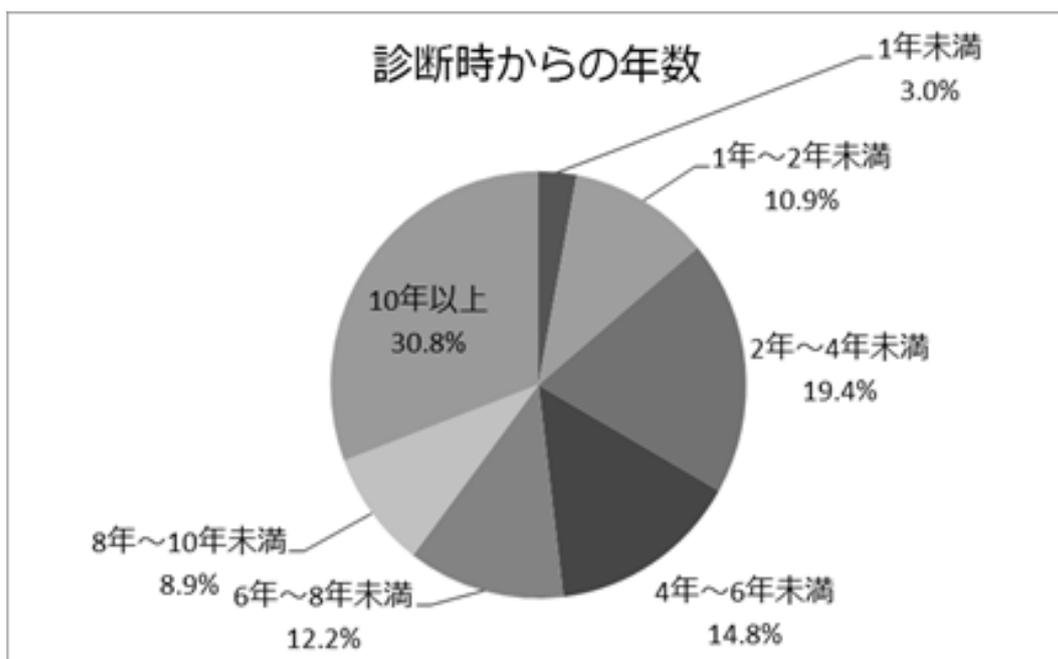
(図 1 1 : 男女別世帯収入 (男性 : n=841, 女性 : n=744))



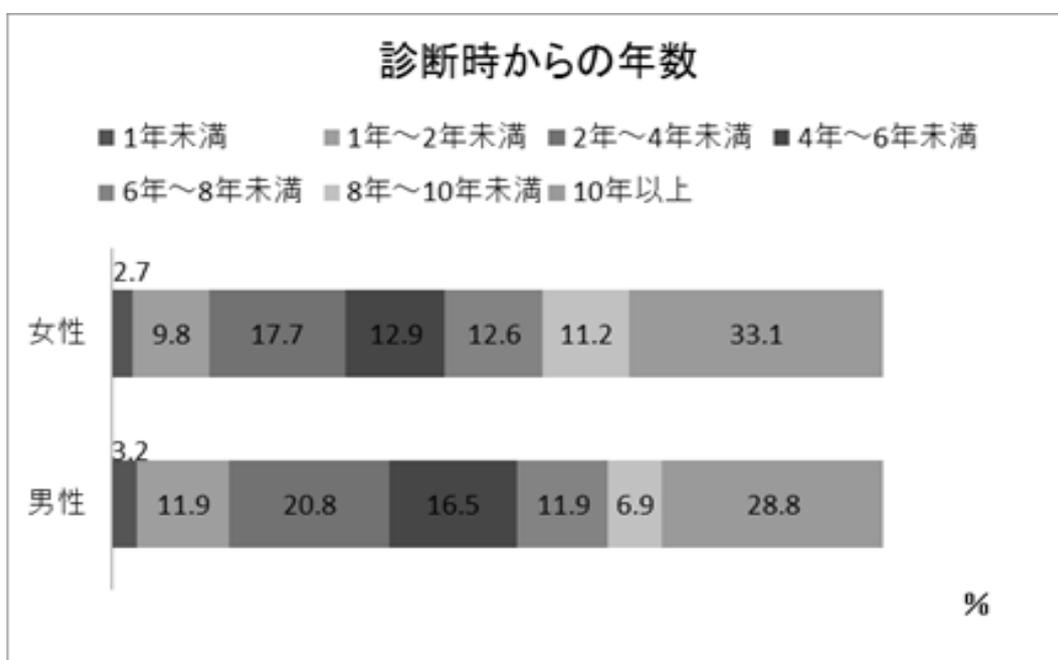
(図 1 2 : 職業 (n=1585))



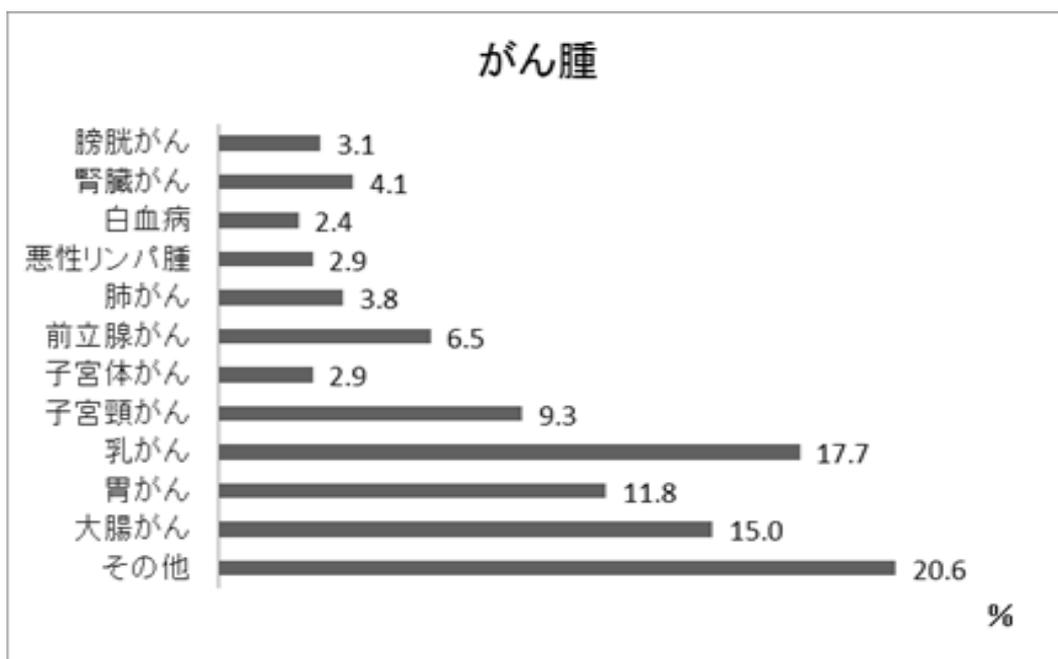
(図 1 3 : 男女別職業(男性 : n=841, 女性 : n=744))



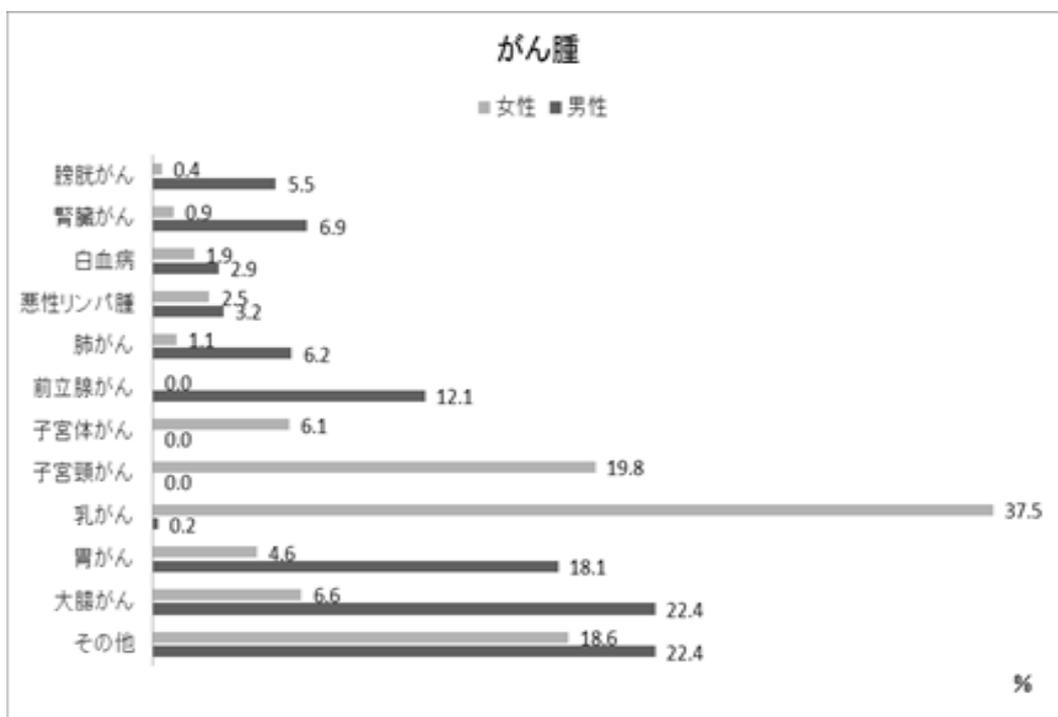
(図 1 4 : 診断時からの年数 (n=1585))



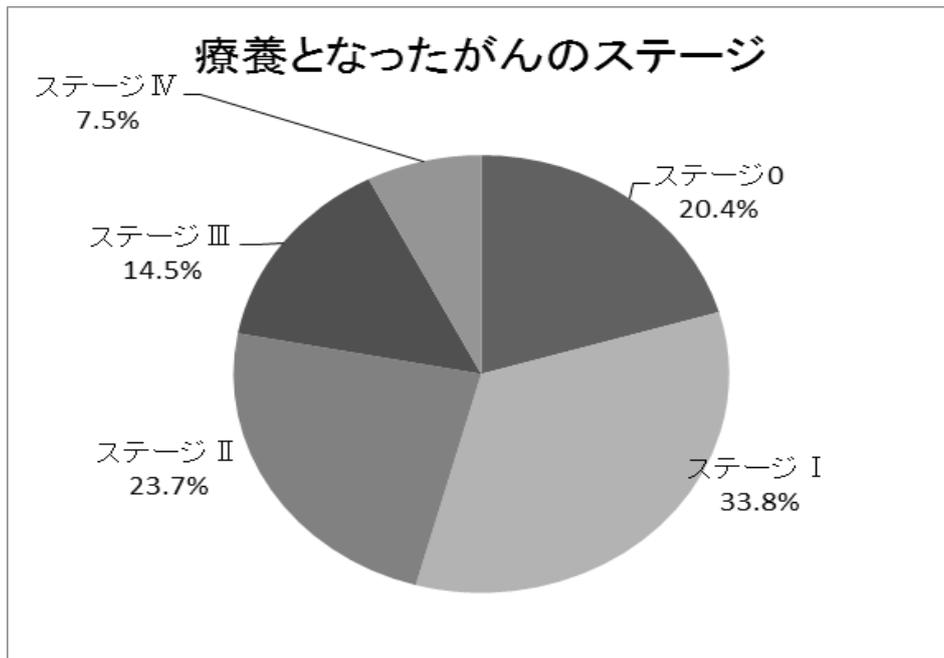
(図 1 5 : 男女別診断時からの年数(男性：n=841, 女性：n=744))



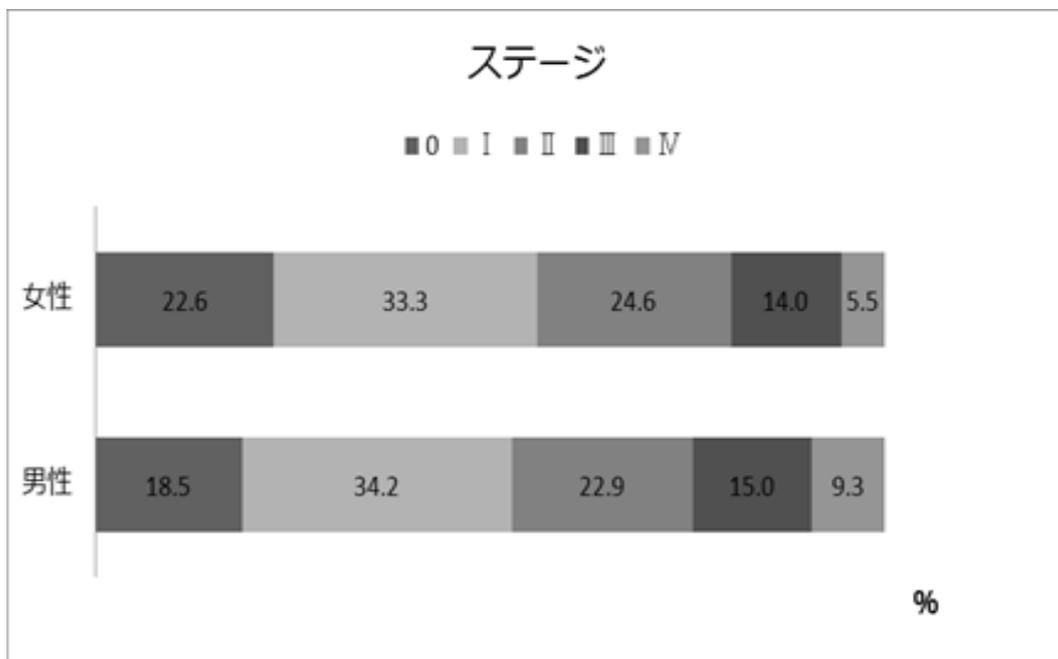
(図 1 6 : がん腫 (n=1585))



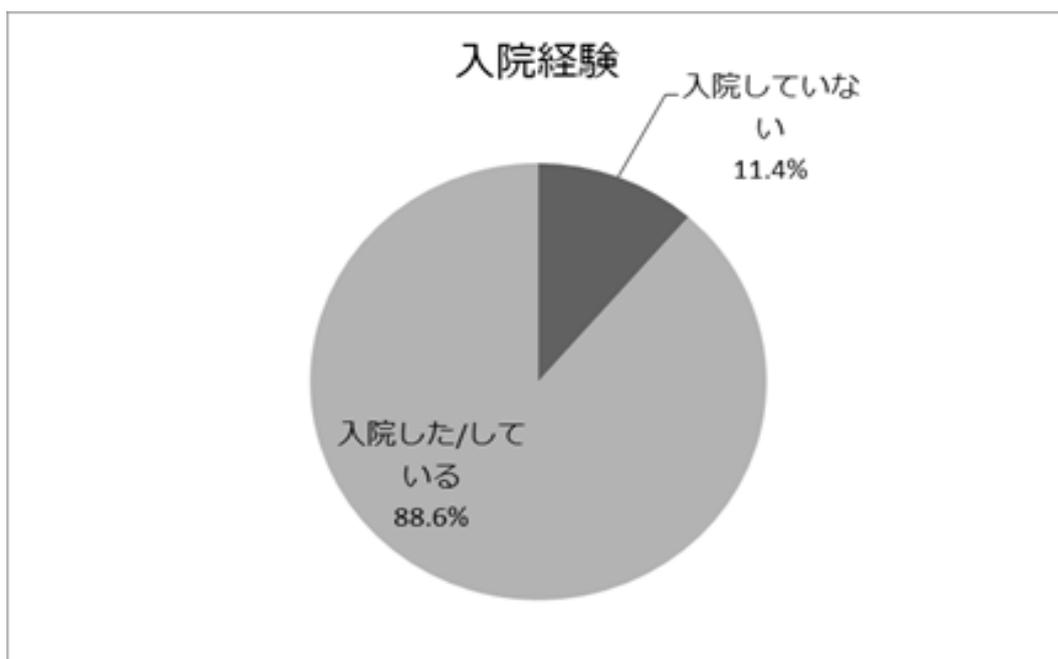
(図 1 7 : 男女別がん腫 (男性 : n=841, 女性 : n=744))



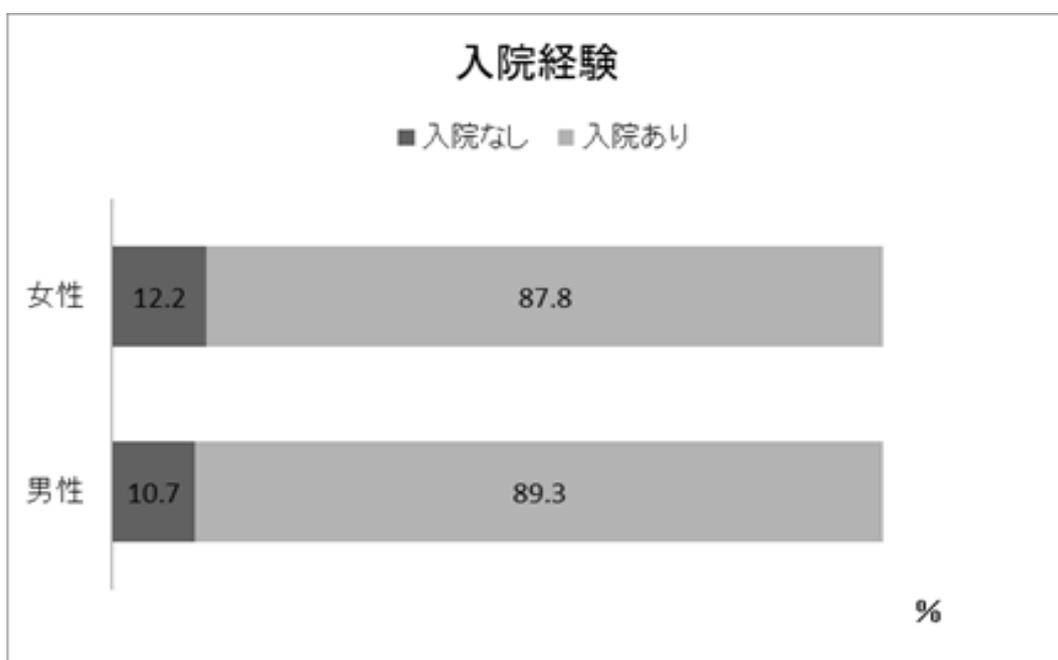
(図 1 8 : 療養となったがんのステージ (n=1585))



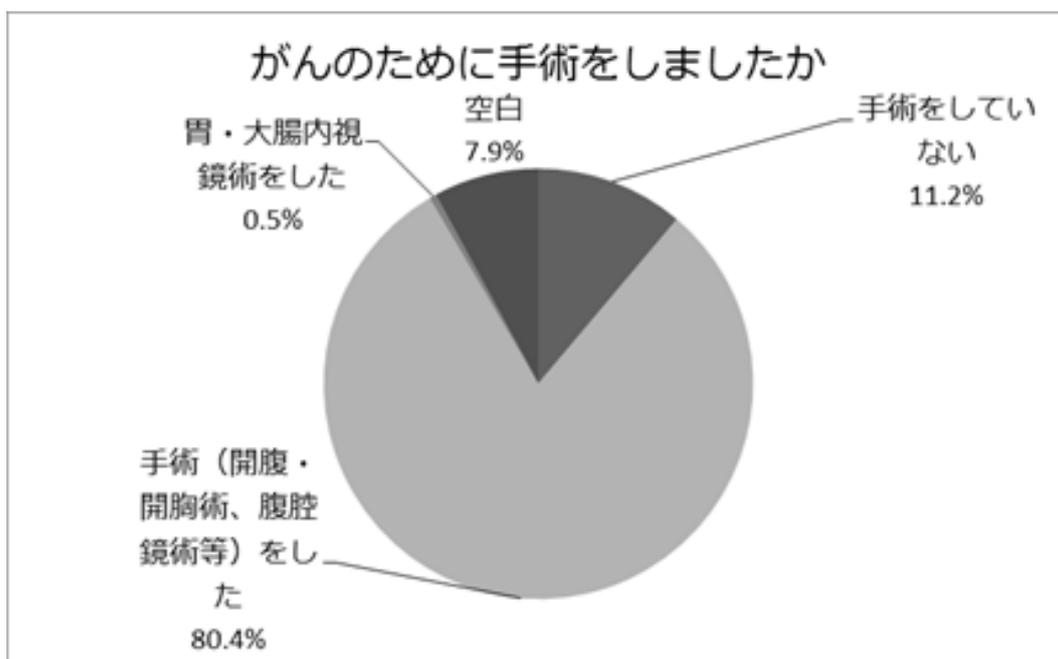
(図 1 9 : 男女別療養となったがんのステージ(男性 : n=841, 女性 : n=744))



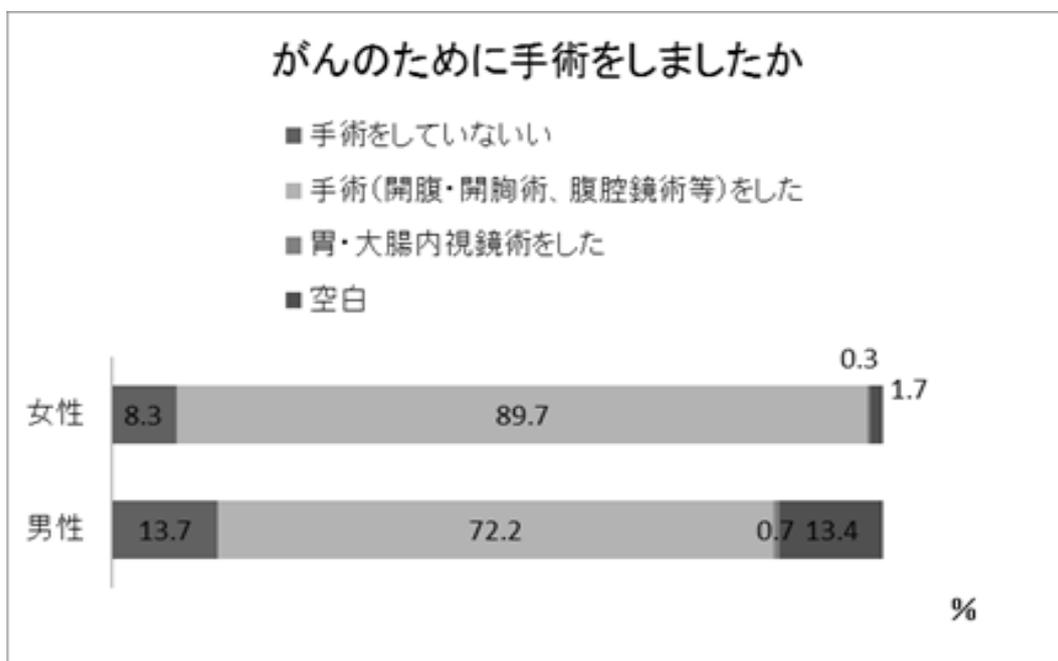
(図 2 0 : 入院経験 (n=1585))



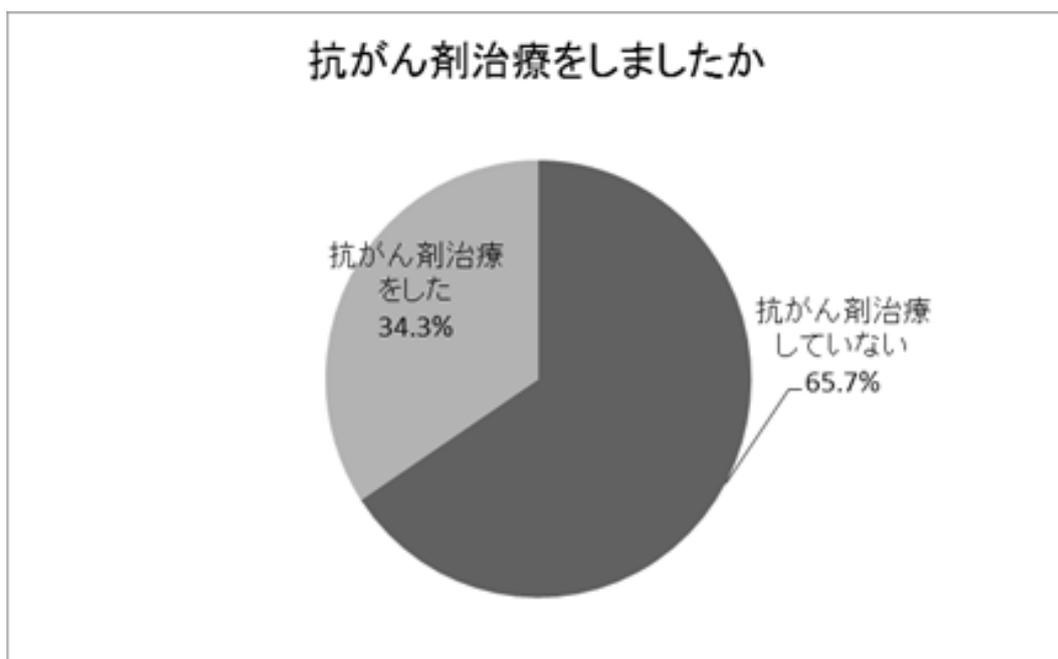
(図 2 1 : 男女別入院経験 (男性 : n=841, 女性 : n=744))



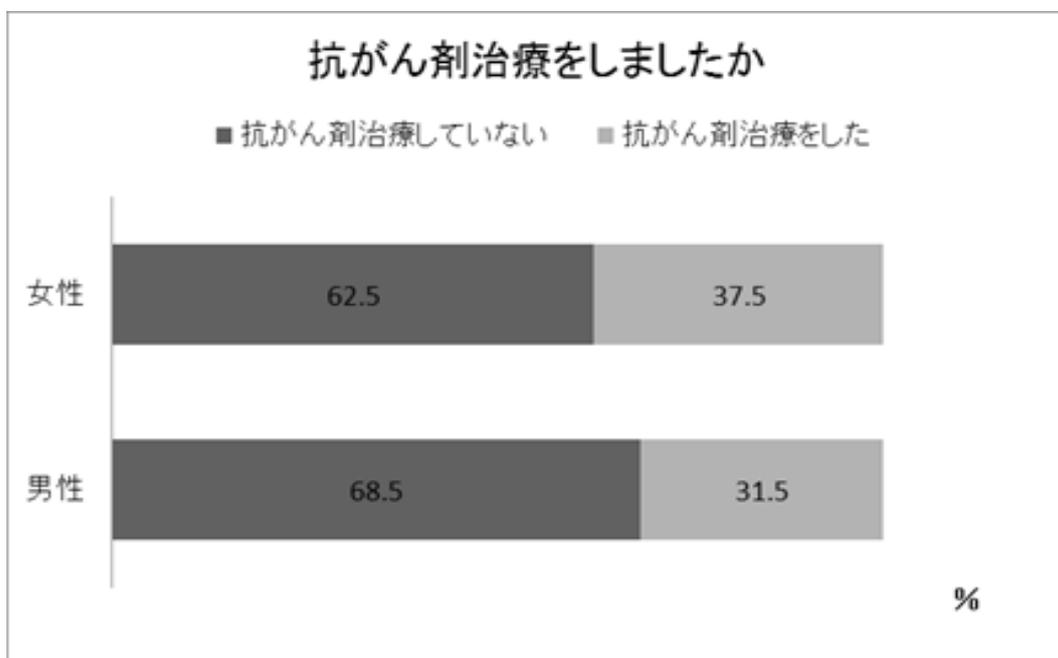
(図 2 2 : がんのために手術しましたか (n=1585))



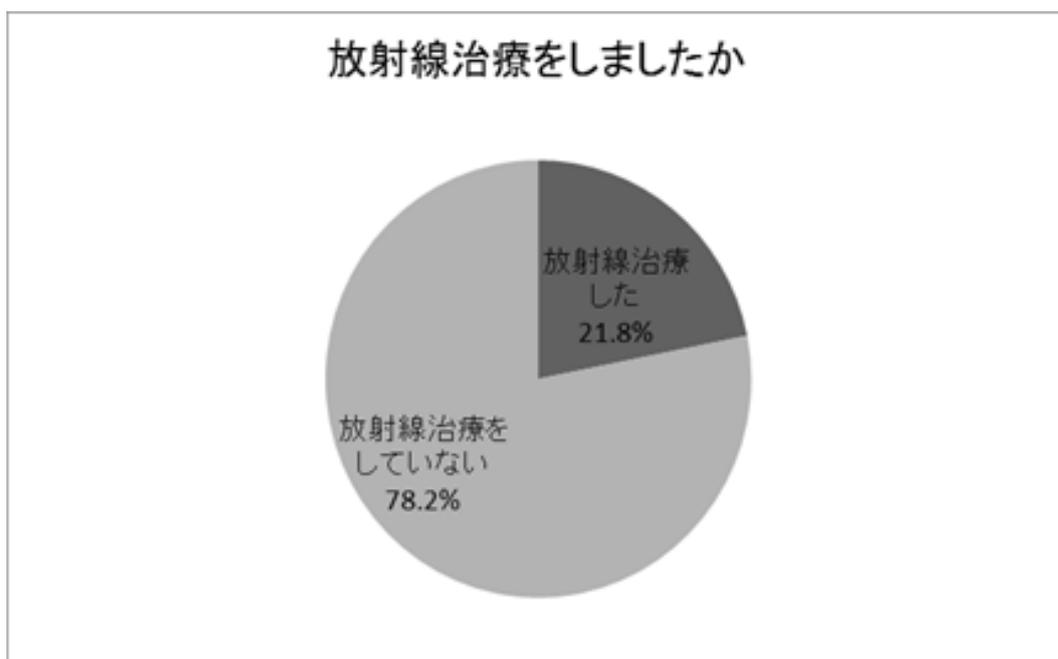
(図 2 3 : 男女別がんのために手術しましたか(男性 : n=841, 女性 : n=744))



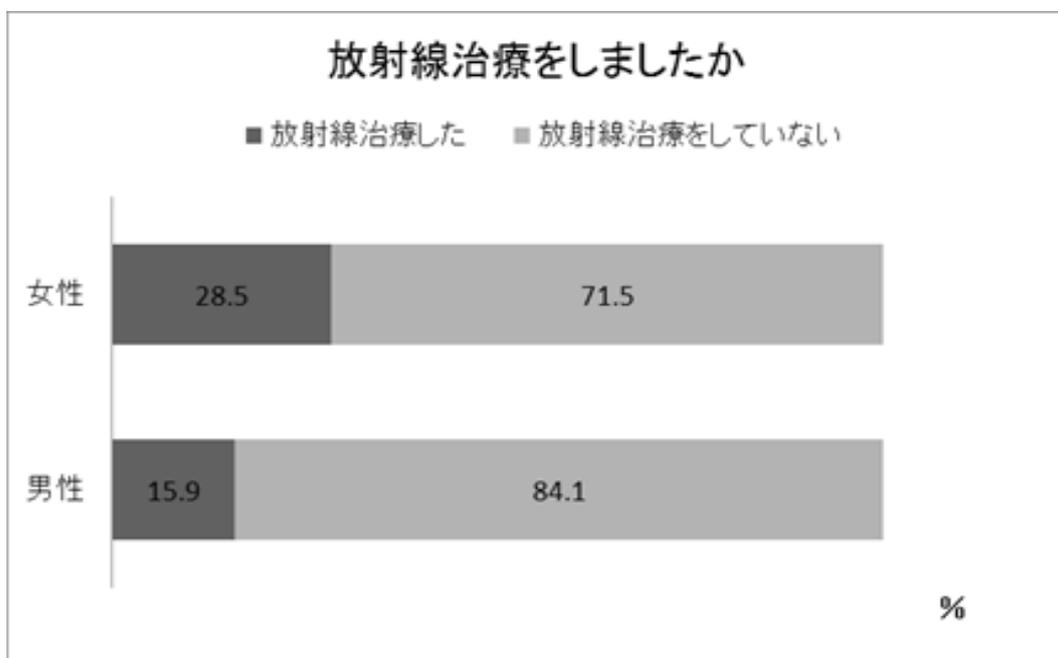
(図 2 4 : 抗がん剤治療をしましたか (n=1585))



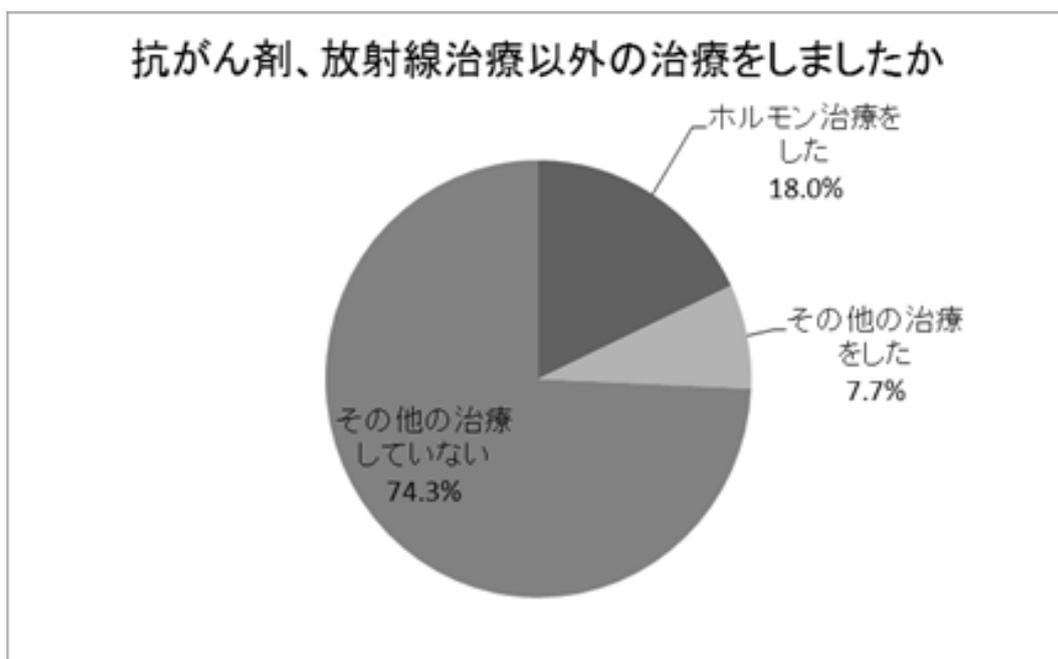
(図 2 5 : 男女別抗がん剤治療をしましたか (男性 : n=841, 女性 : n=744))



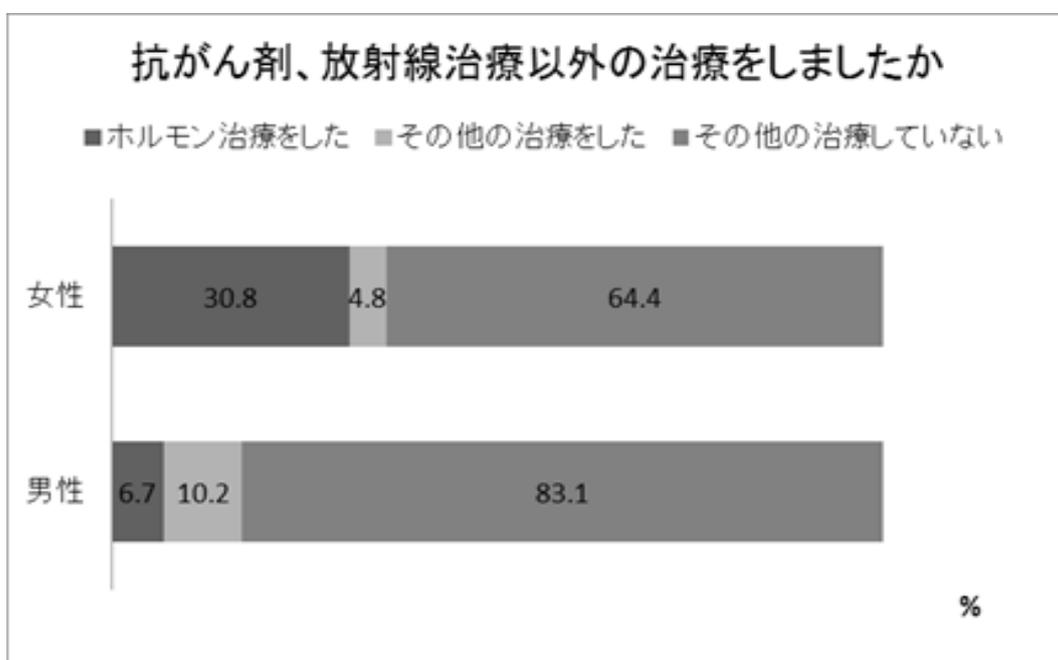
(図 2 6 : 放射線治療をしましたか (n=1585))



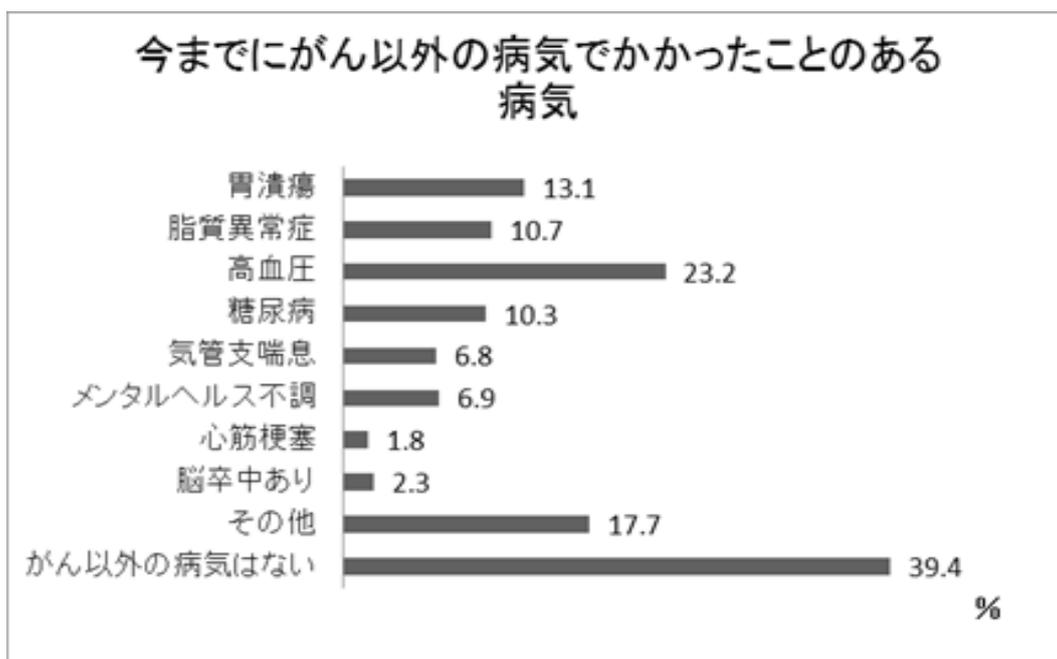
(図 2 7 : 男女別放射線治療をしましたか(男性：n=841, 女性：n=744))



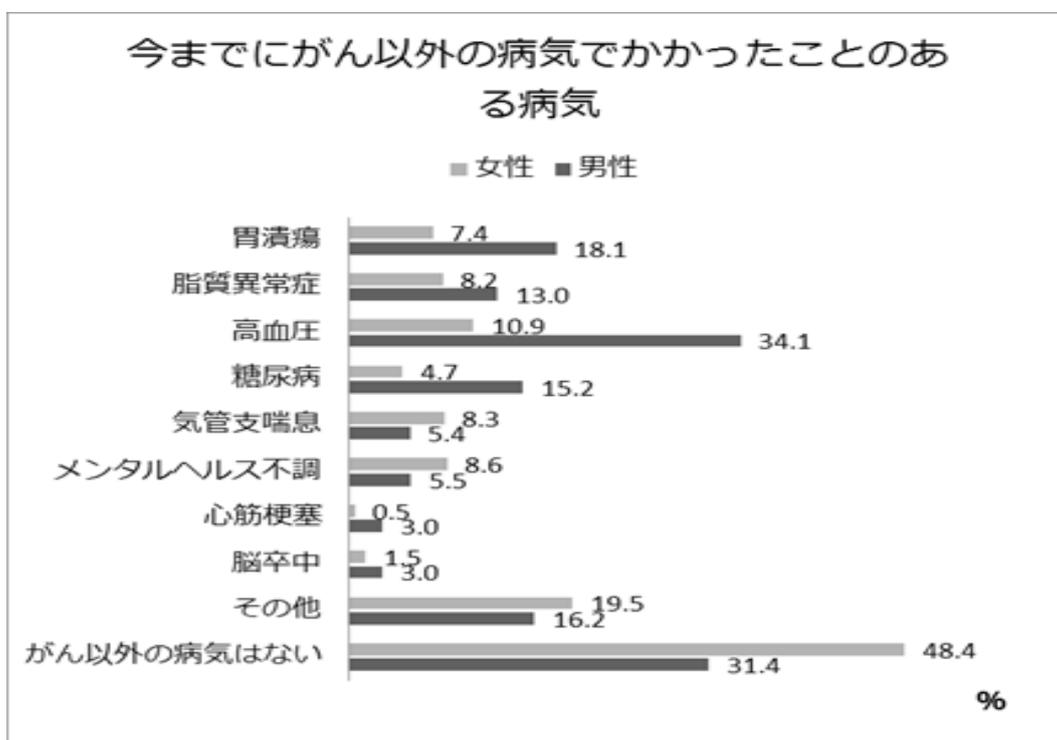
(図 2 8 : 抗がん剤・放射線治療以外の治療をしましたか (n=1585))



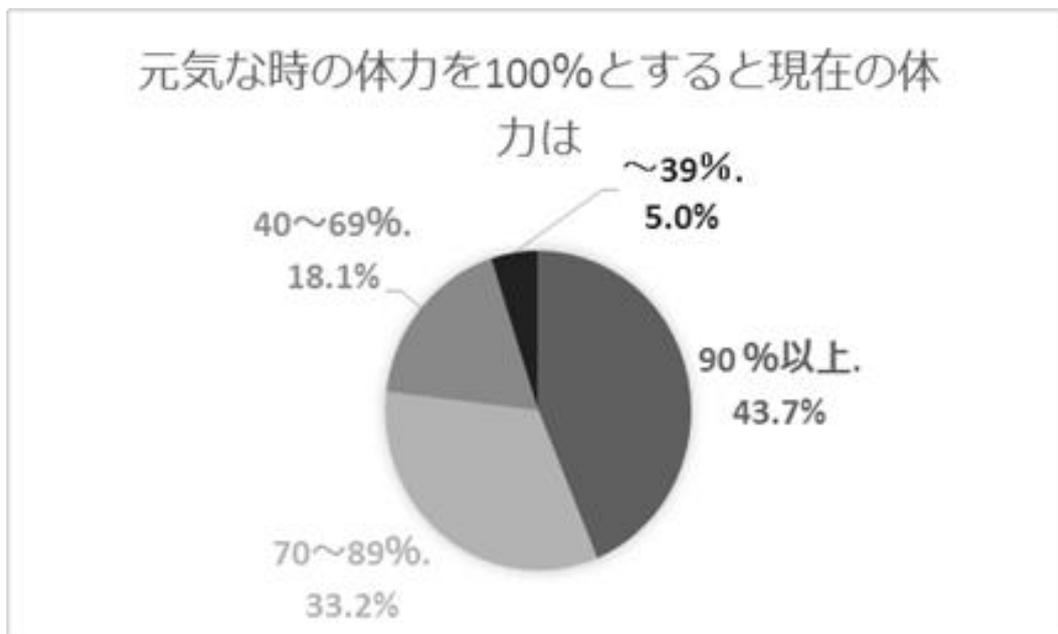
(図 2 9 : 男女別抗がん剤・放射線治療以外の治療をしましたか (男性：n=841, 女性：n=744))



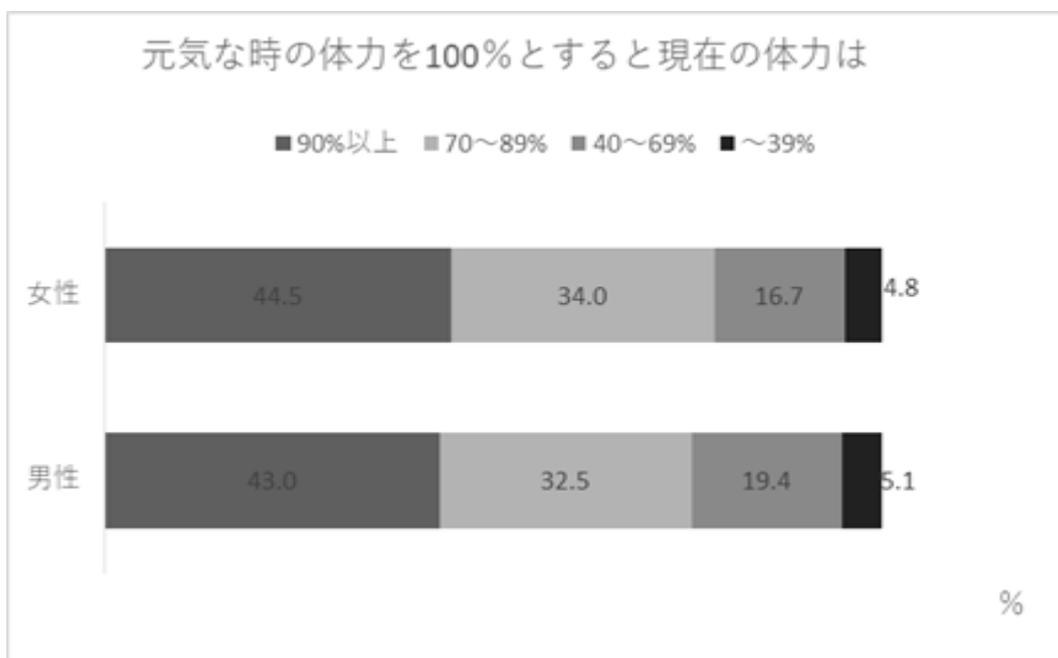
(図30：今までにがん以外の病気でかかったことのある病気 (n=1585))



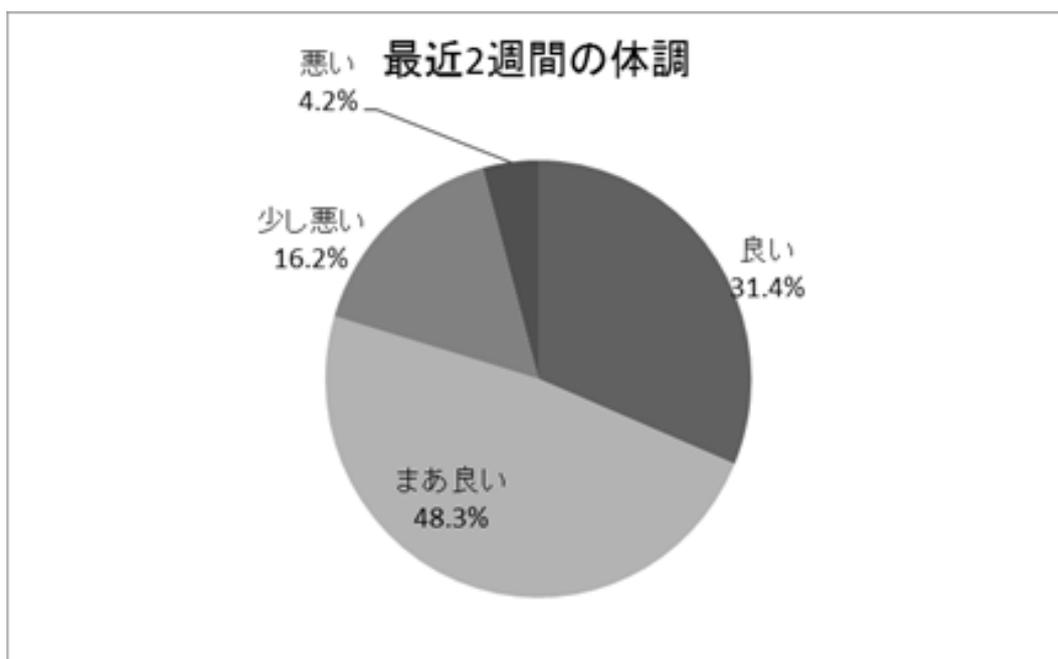
(図31：男女別今までにがん以外の病気でかかったことのある病気(男性：n=841, 女性：n=744))



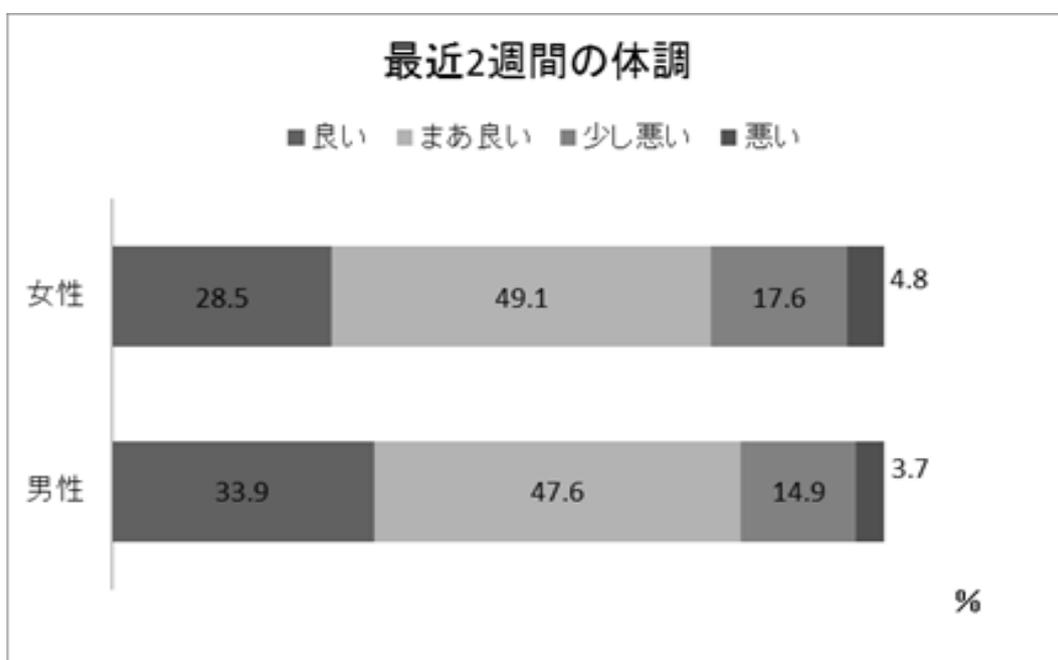
(図 3 2 : 元気な時の体力を 100%とすると現在の体力は (n=1585))



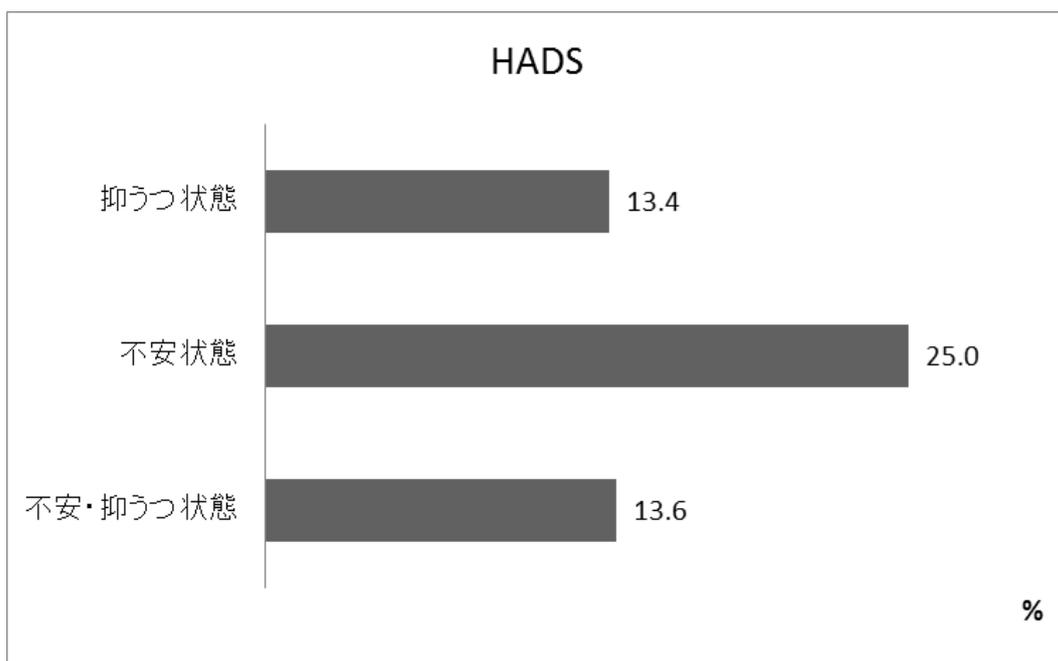
(図 3 3 : 男女別元気な時の体力を 100%とすると現在の体力は (男性：n=841, 女性：n=744))



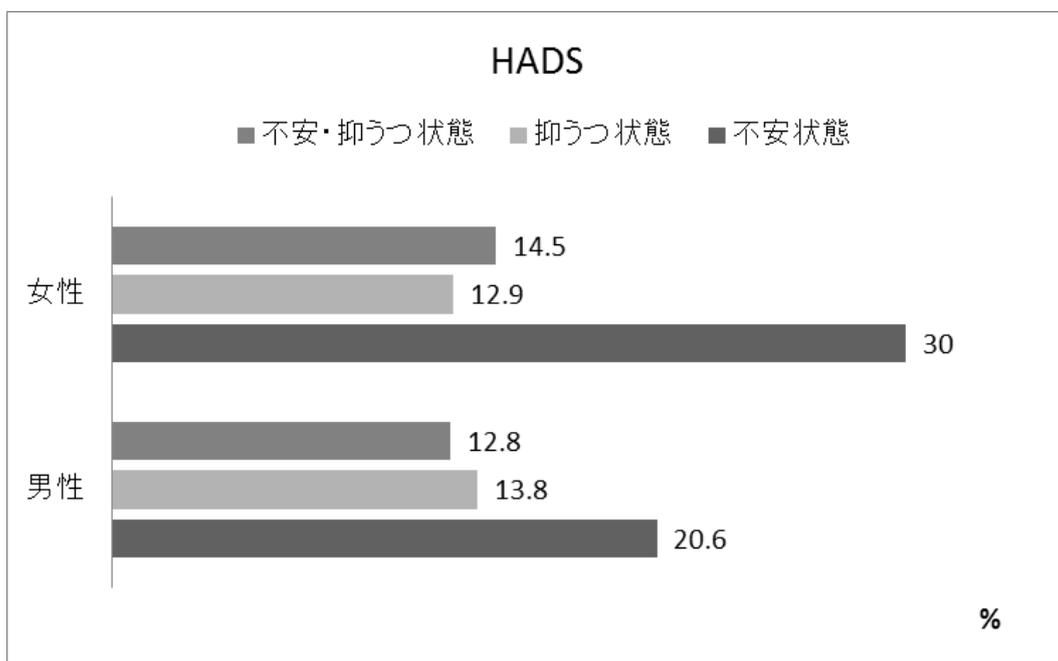
(図 3 4 : 最近 2 週間の体調 (n=1585))



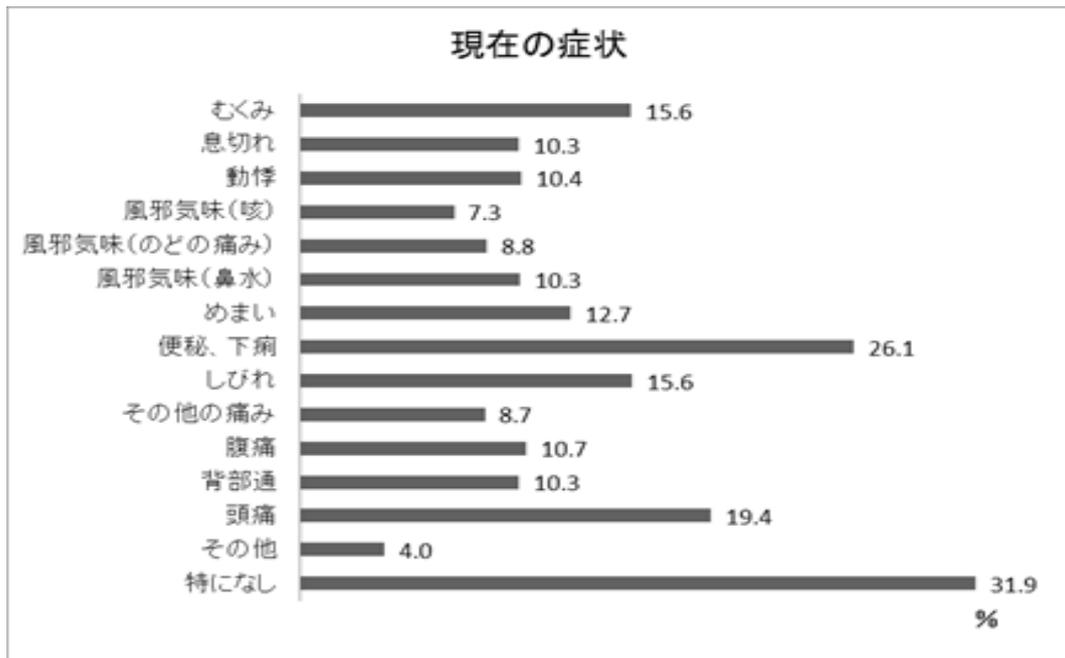
(図 3 5 : 男女別最近 2 週間の体調(男性 : n=841, 女性 : n=744))



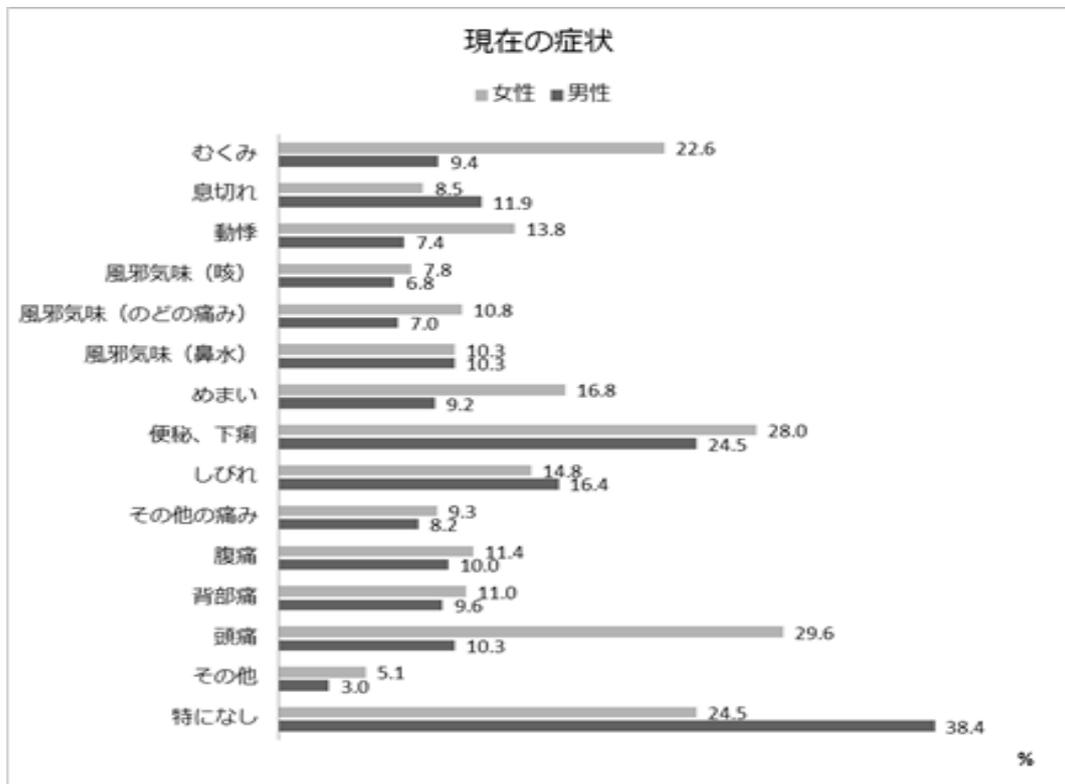
(図 3 6 : HADS (n=1585))



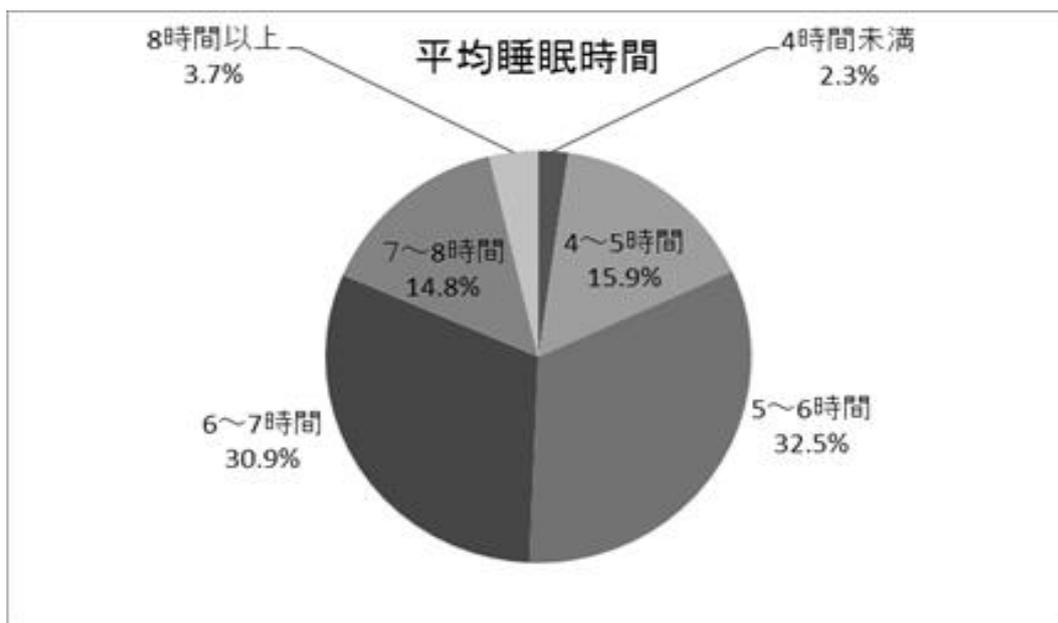
(図 3 7 : 男女別 HADS (男性 : n=841, 女性 : n=744))



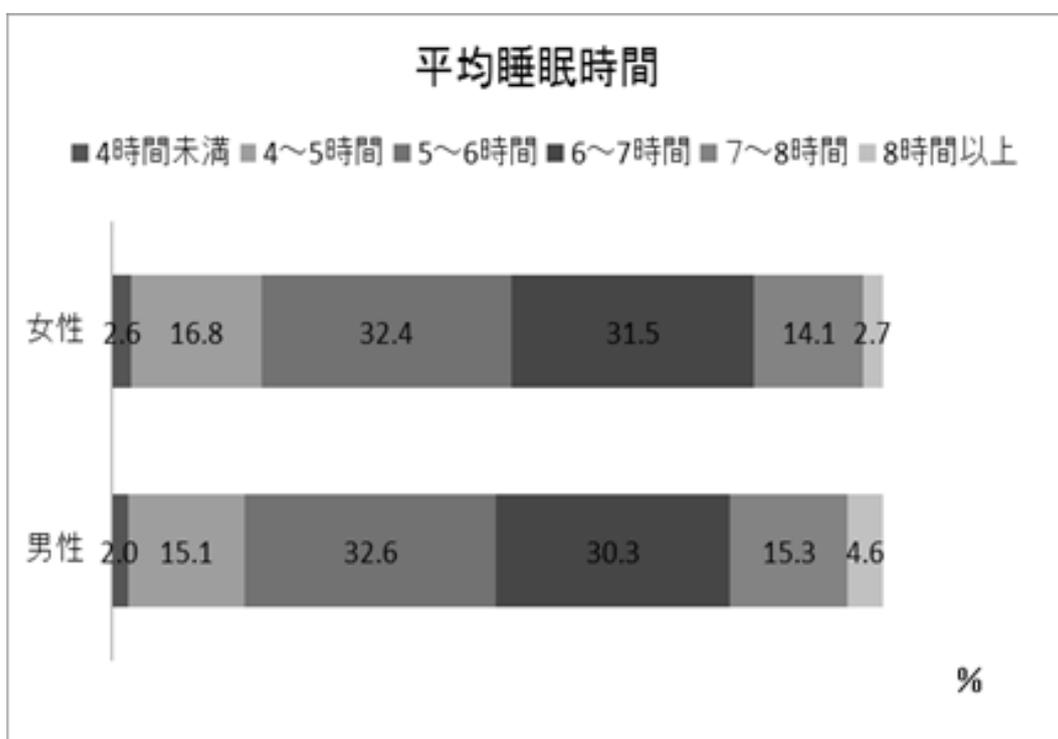
(図 3 8 : 現在の症状 (n=1585))



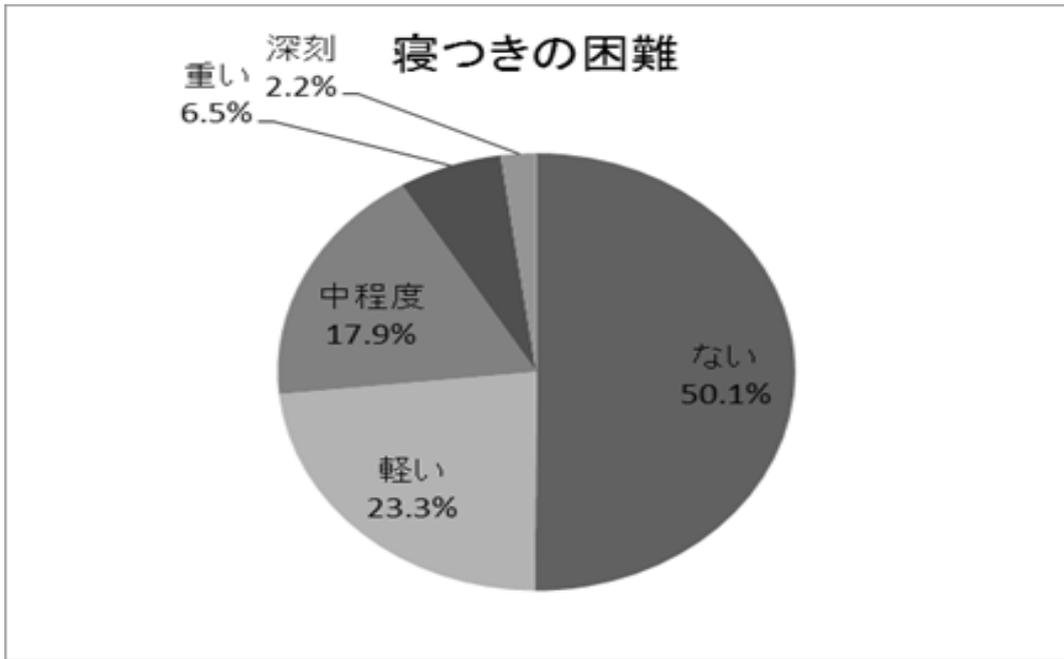
(図 3 9 : 男女別現在の症状(男性 : n=841, 女性 : n=744))



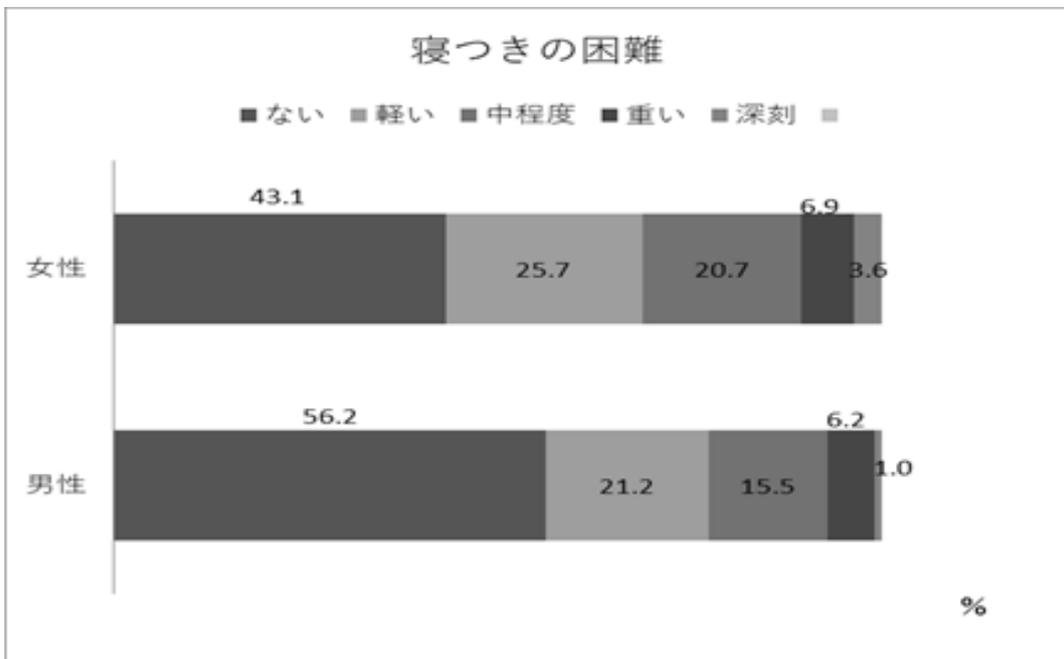
(図 4 0 : 平均睡眠時間 (n=1585))



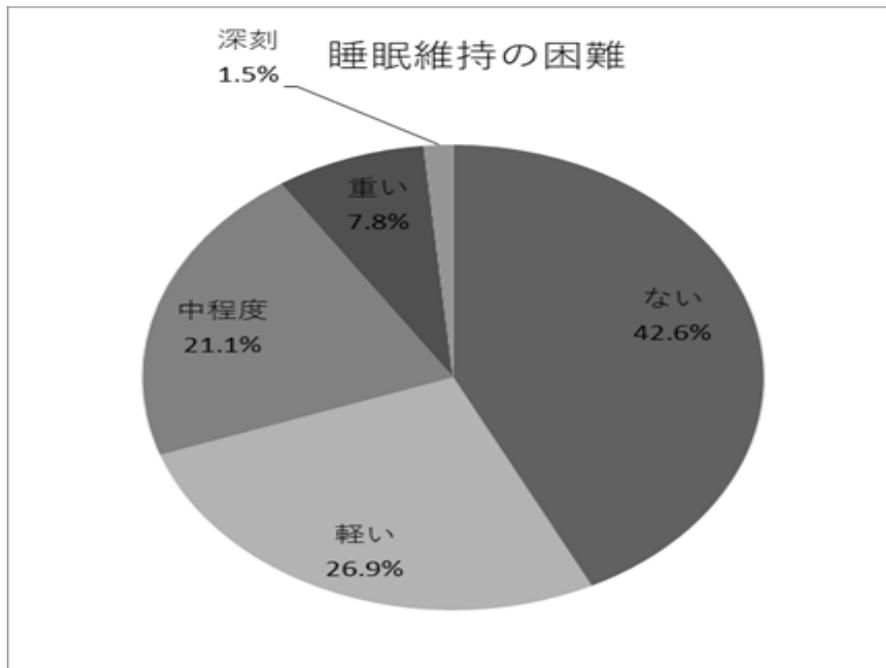
(図 4 1 : 男女別平均睡眠時間 (男性 : n=841, 女性 : n=744))



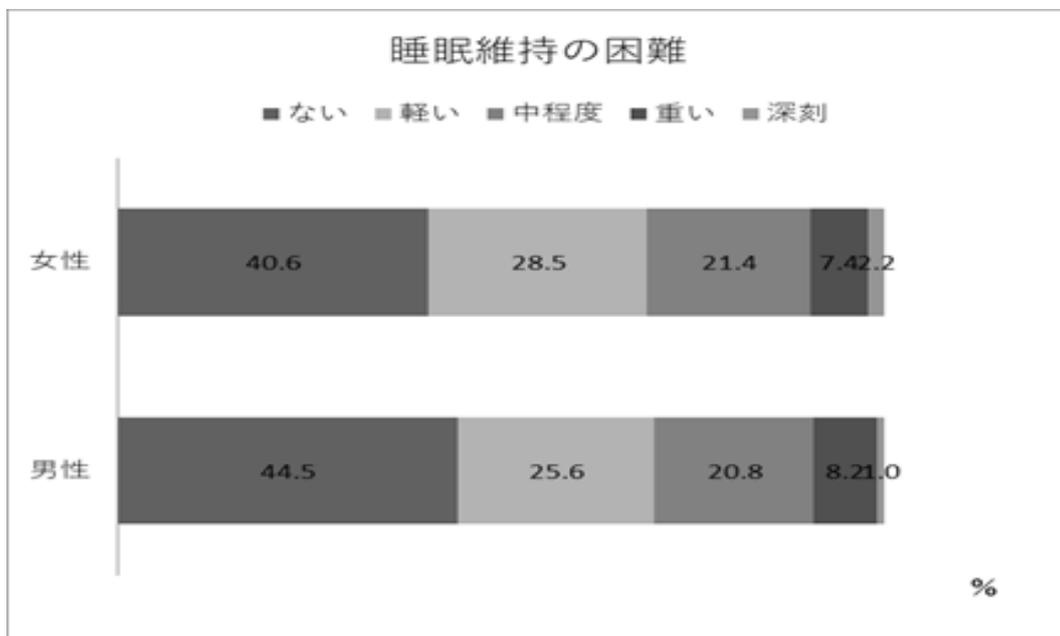
(図 4 2 : 寝つきの困難 (n=1585))



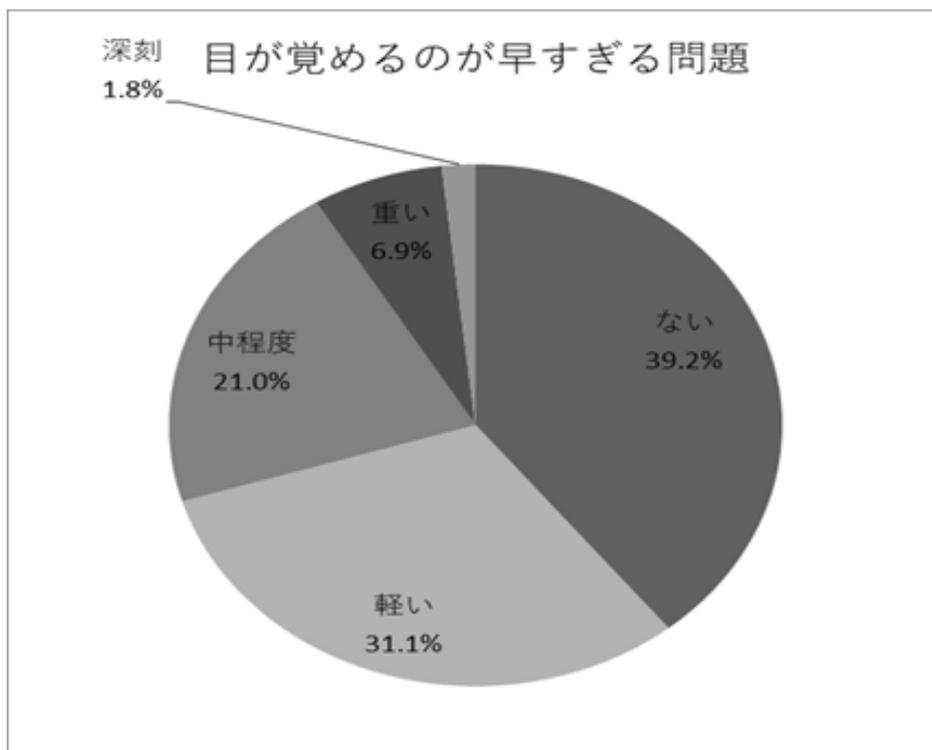
(図 4 3 : 男女別寝つきの困難(男性 : n=841, 女性 : n=744))



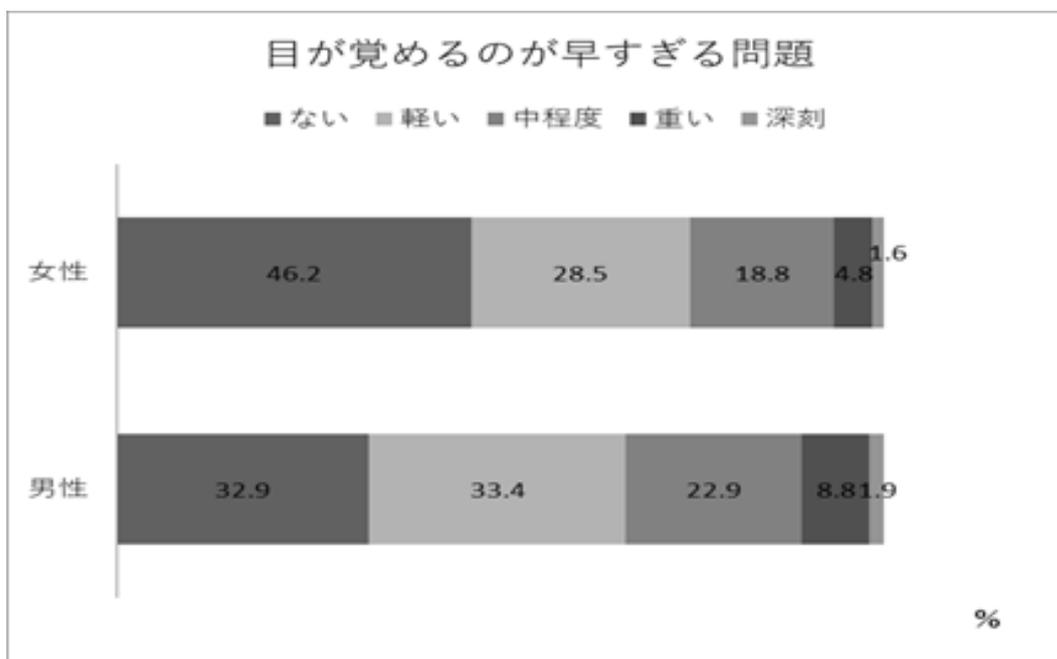
(図 4 4 : 睡眠維持の困難 (n=1585))



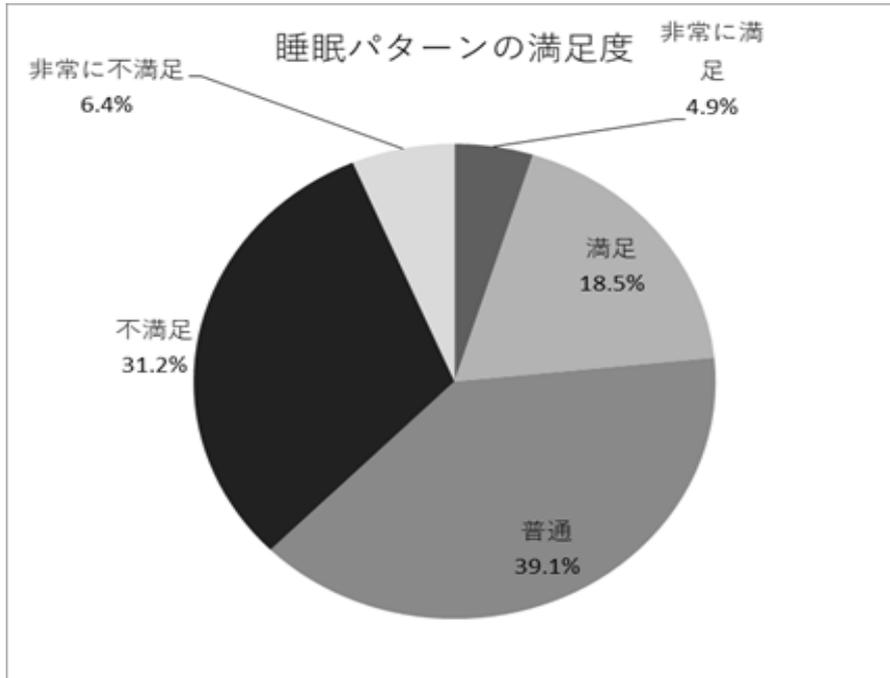
(図 4 5 : 男女別睡眠維持の困難(男性 : n=841, 女性 : n=744))



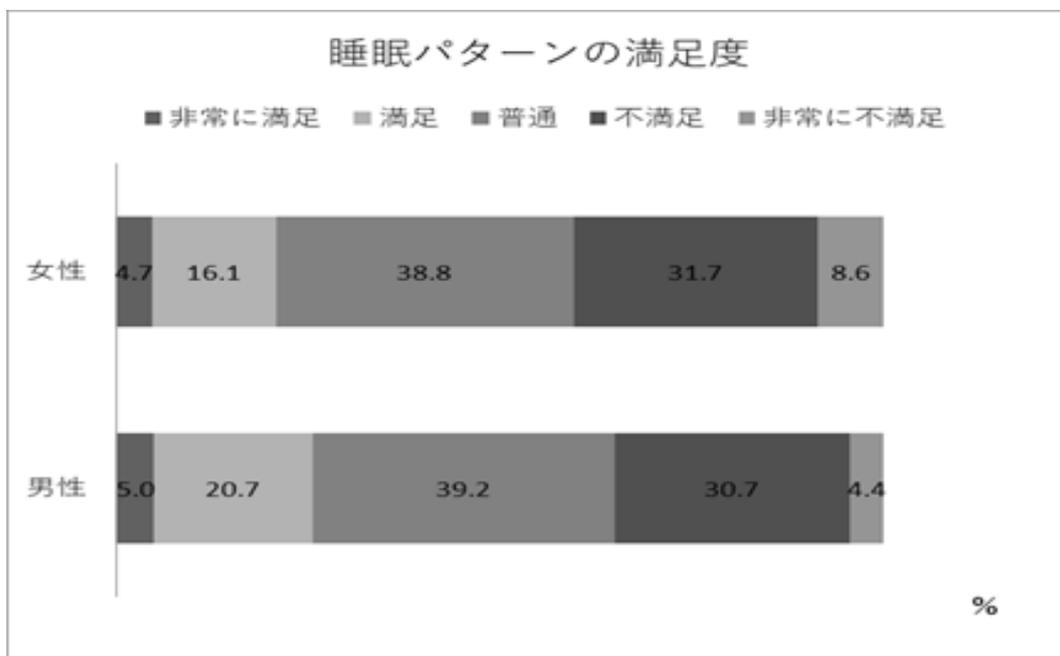
(図 4 6 : 目が覚めるのが早すぎる問題 (n=1585))



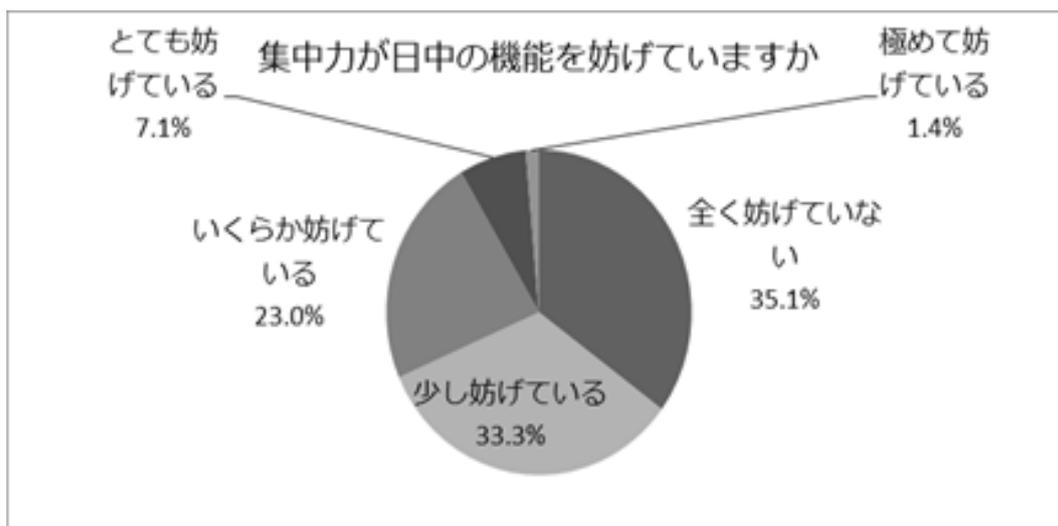
(図 4 7 : 男女別目が覚めるのが早すぎる問題(男性 : n=841, 女性 : n=744))



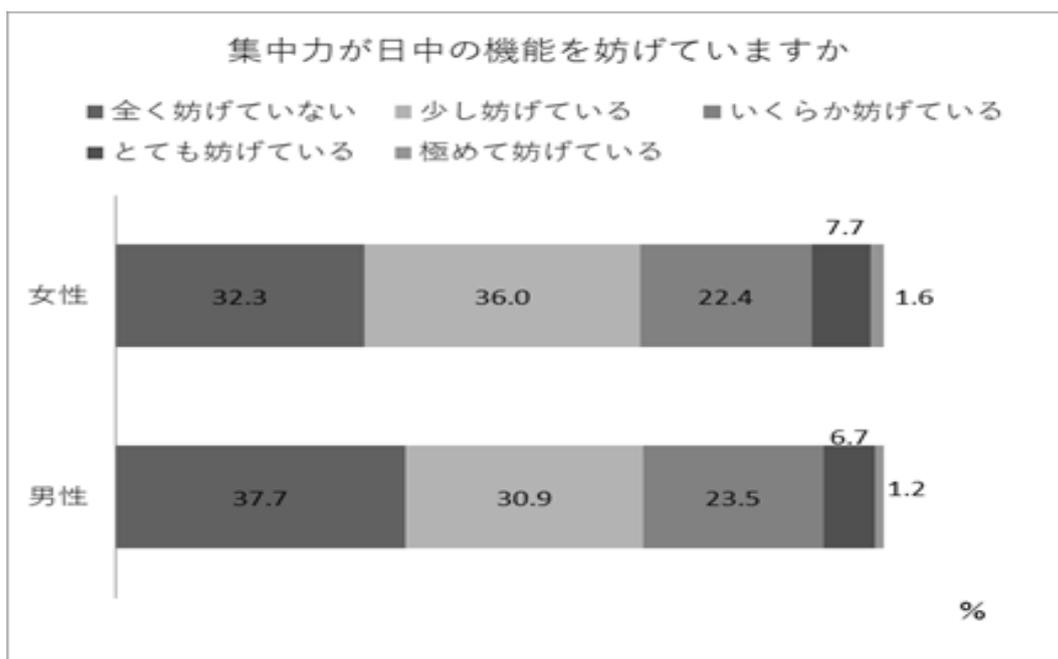
(図 4 8 : 睡眠パターンの満足度 (n=1585))



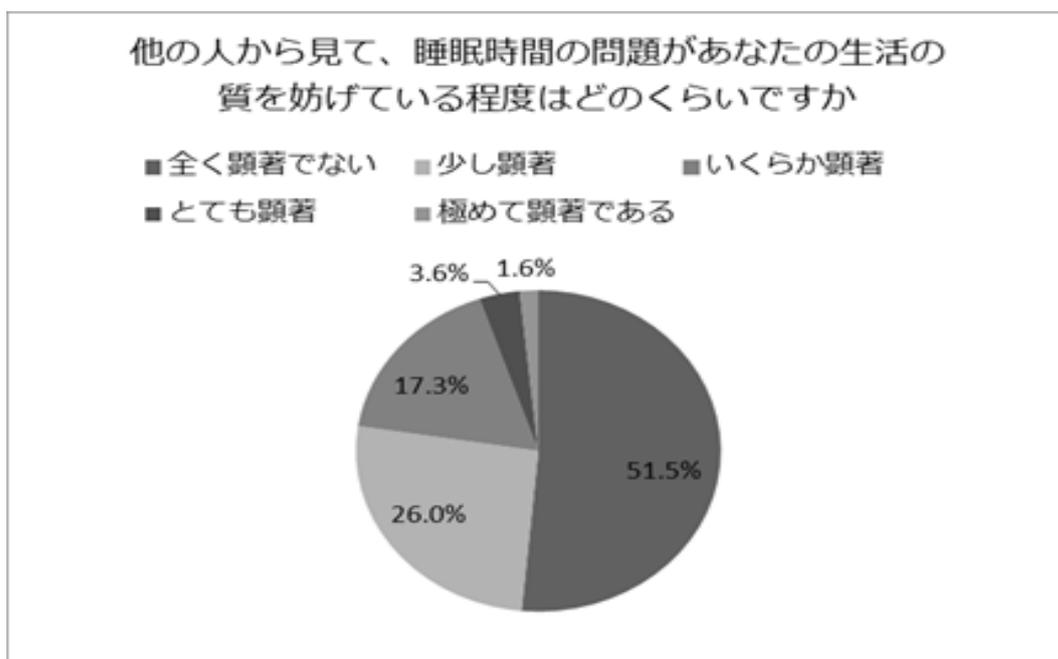
(図 4 9 : 男女別睡眠パターンの満足度(男性 : n=841, 女性 : n=744))



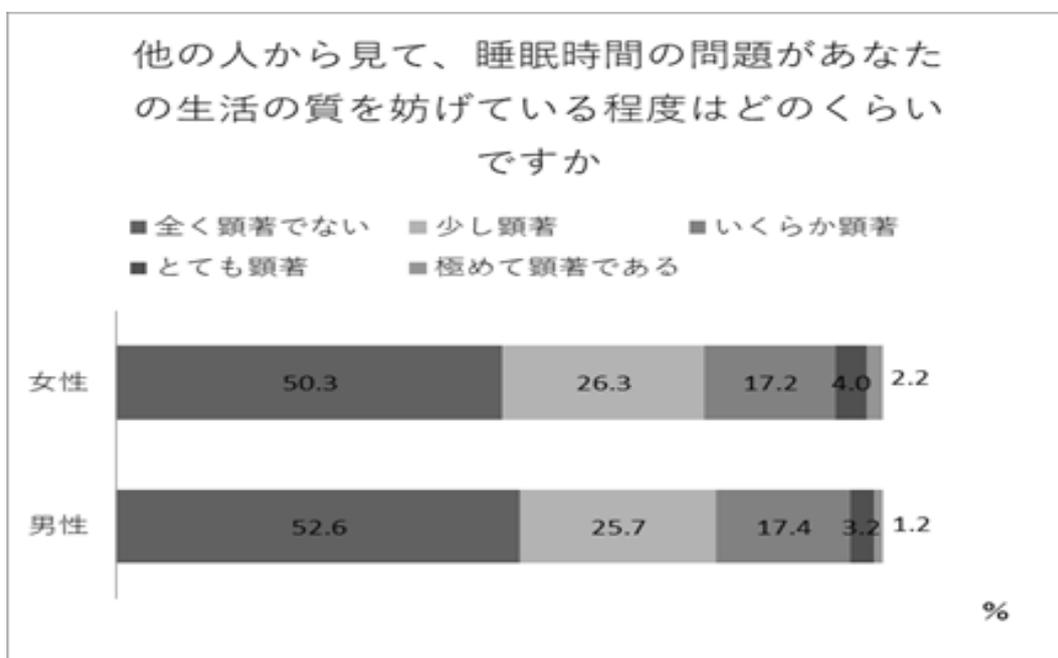
(図 5 0 : 集中度が日中の機能を妨げていますか (n=1585))



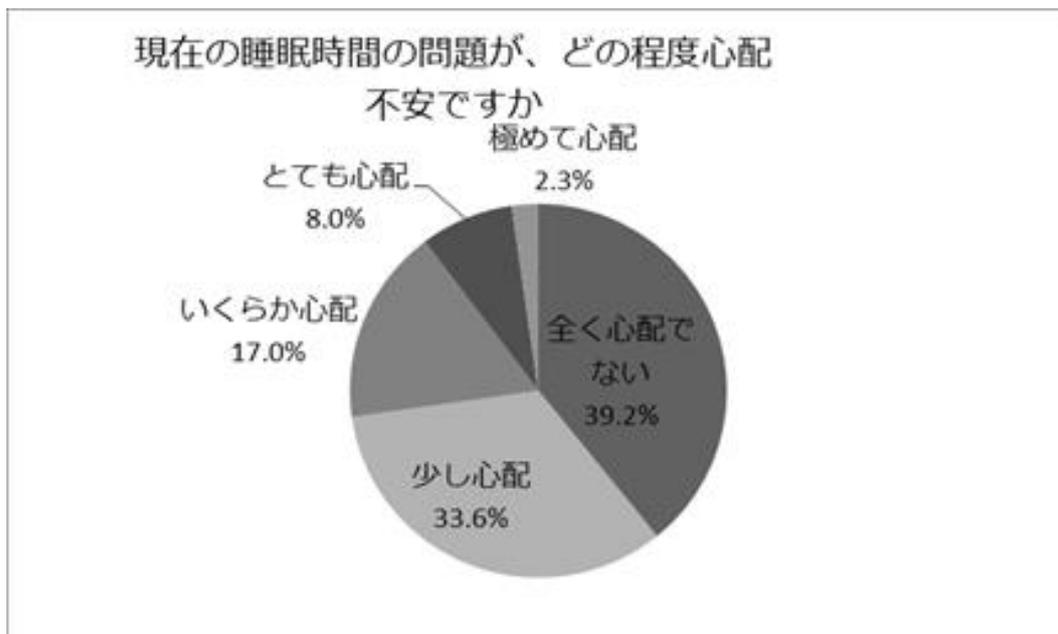
(図 5 1 : 男女別集中度が日中の機能を妨げていますか(男性：n=841, 女性：n=744))



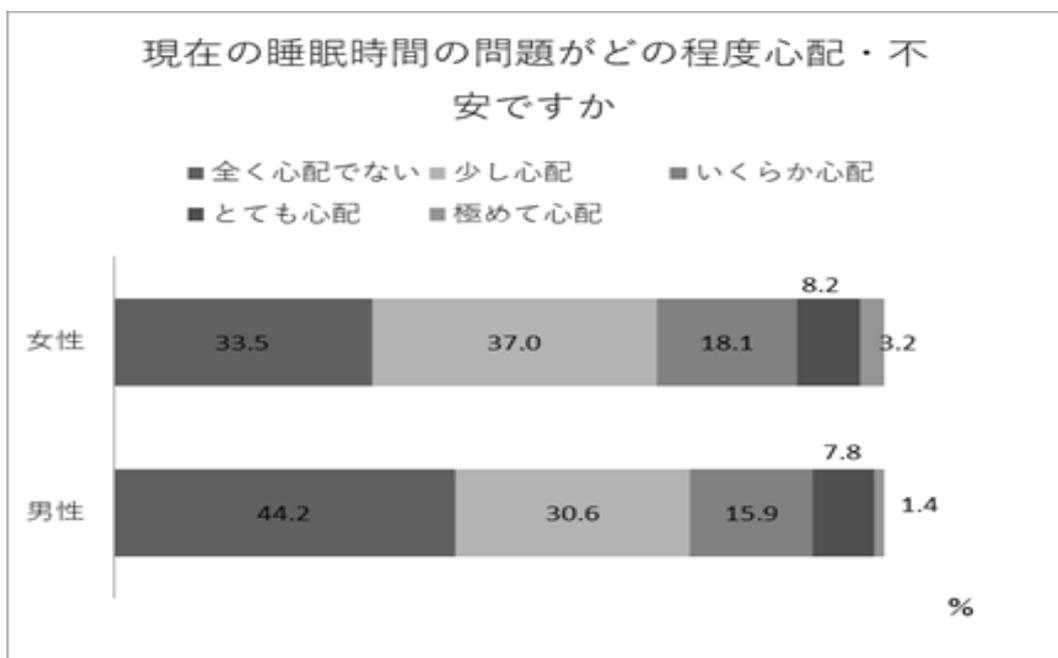
(図 5 2 : 他の人から見て、睡眠時間の問題があなたの生活の質を妨げている程度はどのくらいですか (n=1585))



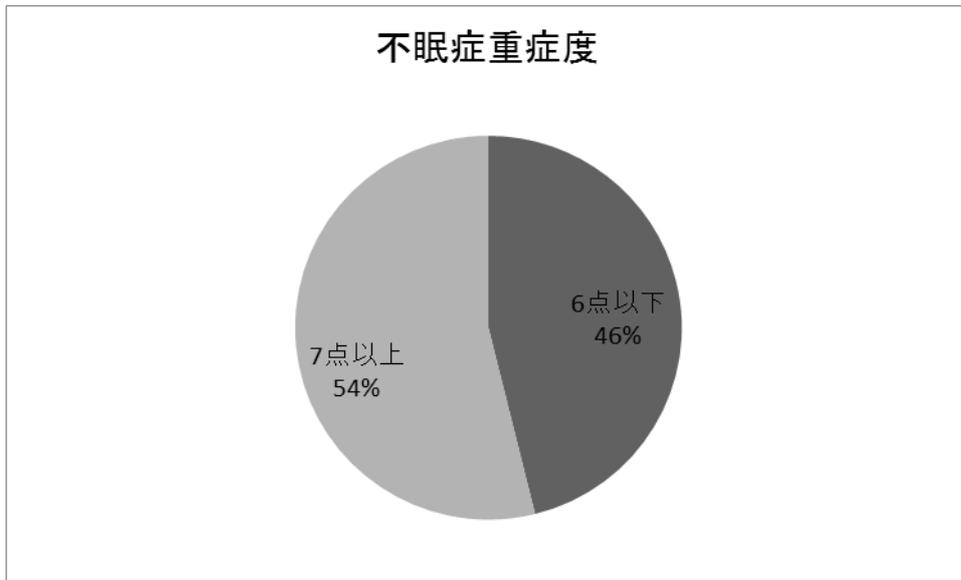
(図 5 3 : 男女別、他の人から見て、睡眠時間の問題があなたの生活の質を妨げている程度はどのくらいですか(男性 : n=841, 女性 : n=744))



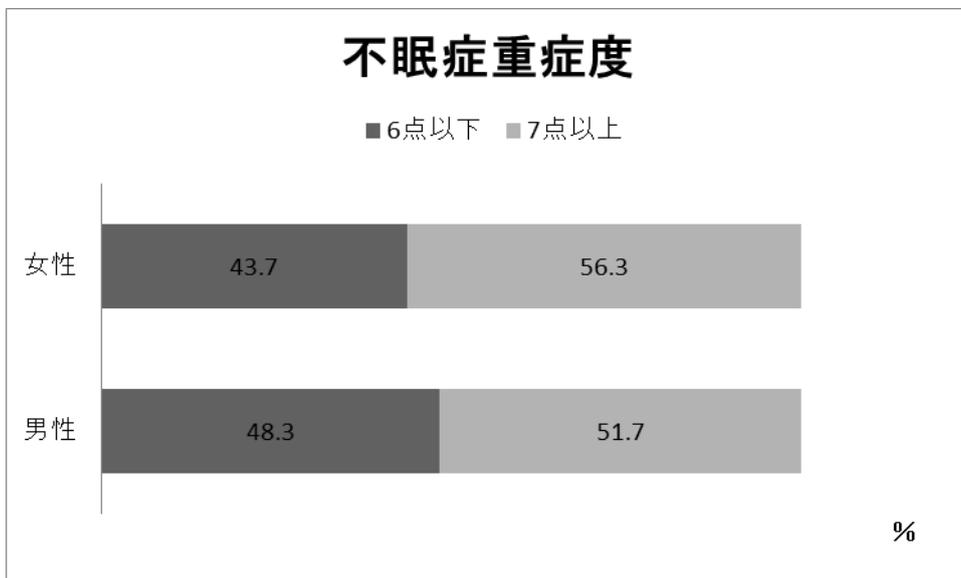
(図 5 4 : 現在の睡眠時間の問題が、どの程度心配、不安ですか (n=1585))



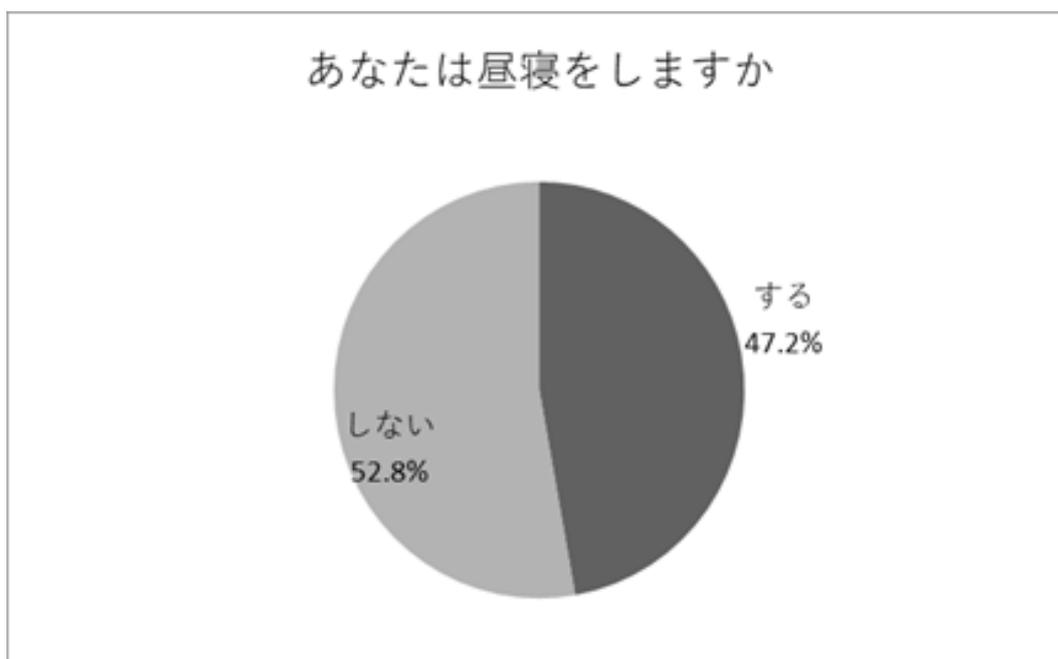
(図 5 5 : 男女別現在の睡眠時間の問題が、どの程度心配、不安ですか (男性：n=841, 女性：n=744))



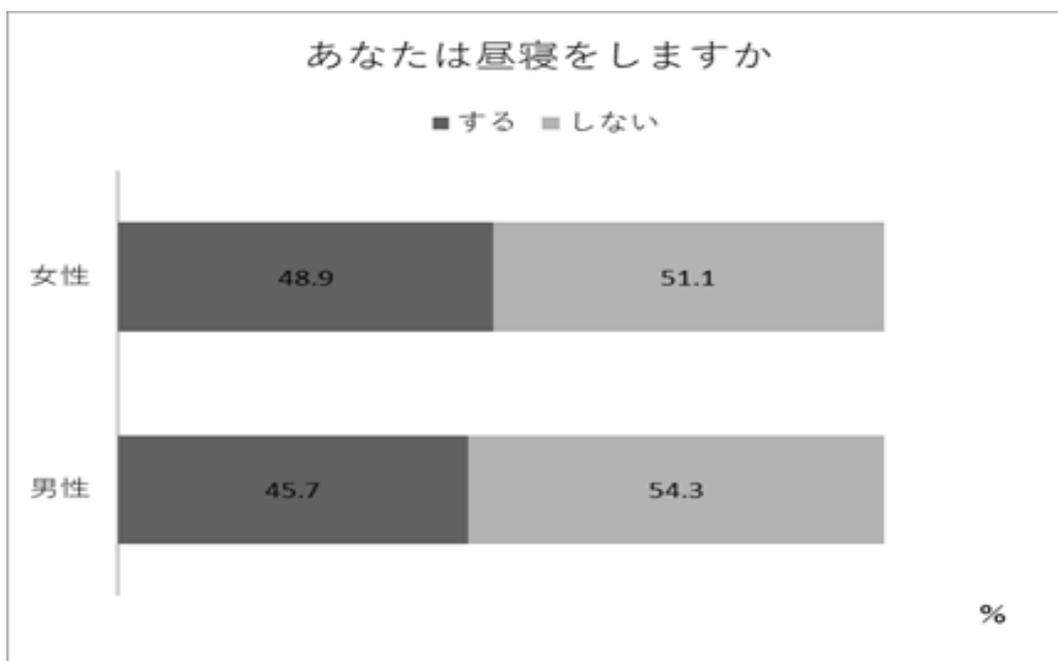
(图 5 6 : 不眠症重症度(n=1585))



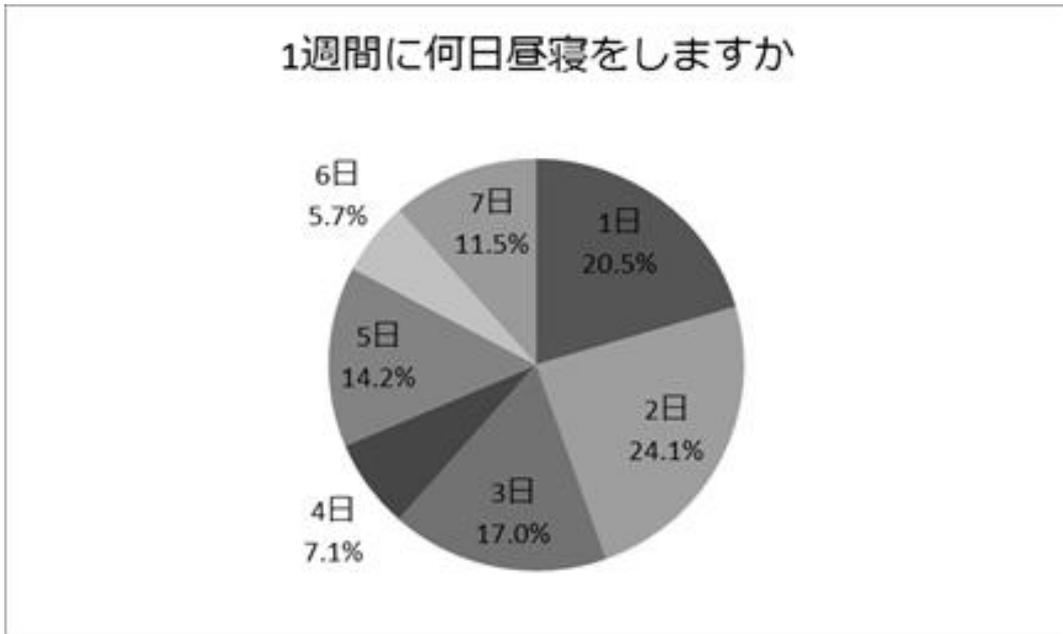
(图 5 7 : 男女別不眠症重症度(男性 : n=841, 女性 : n=744))



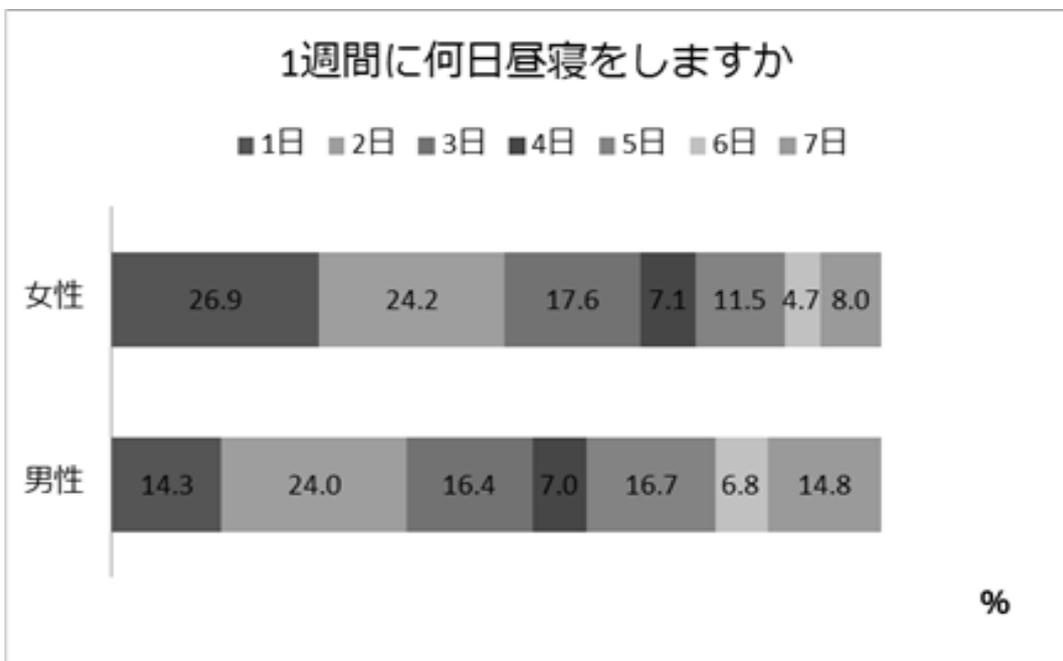
(図 5 8 : あなたは昼寝をしますか (n=1585))



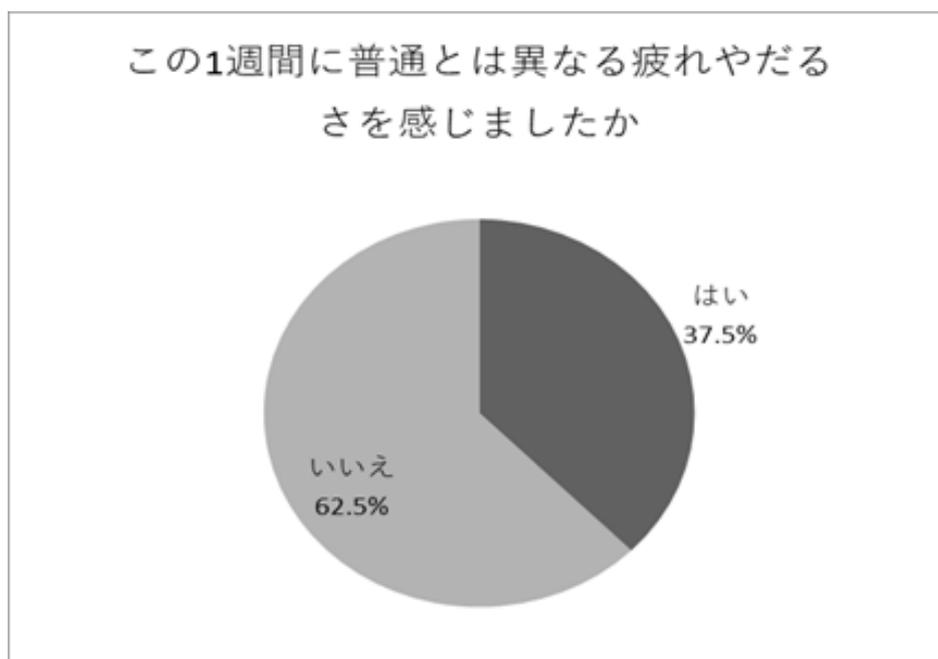
(図 5 9 : 男女別あなたは昼寝をしますか(男性 : n=841, 女性 : n=744))



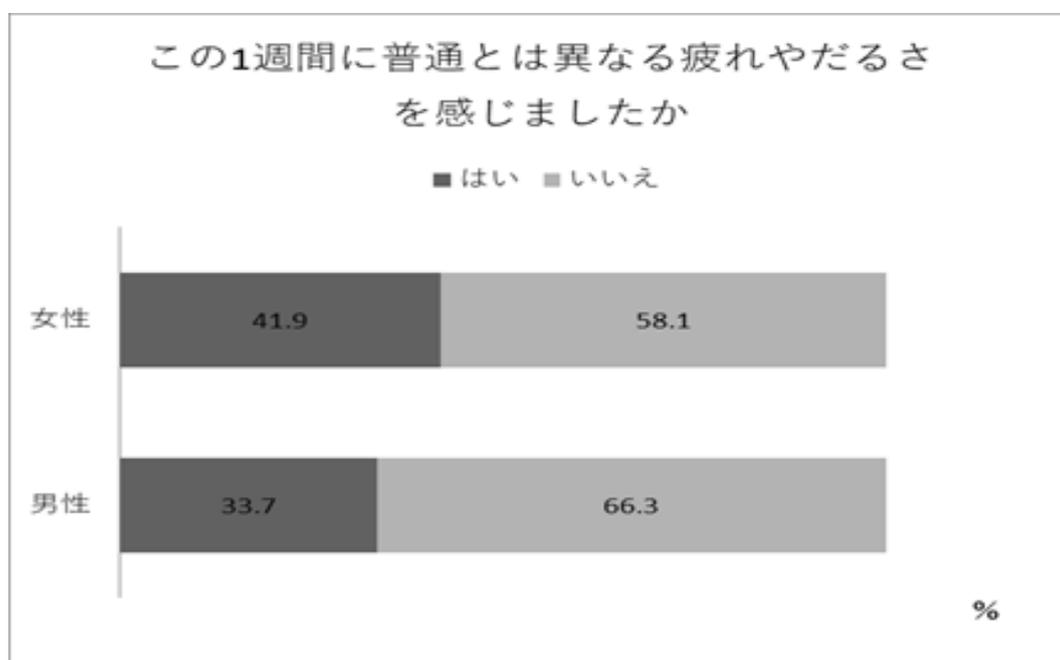
(図 6 0 : 1 週間に何日昼寝をしますか (n=748))



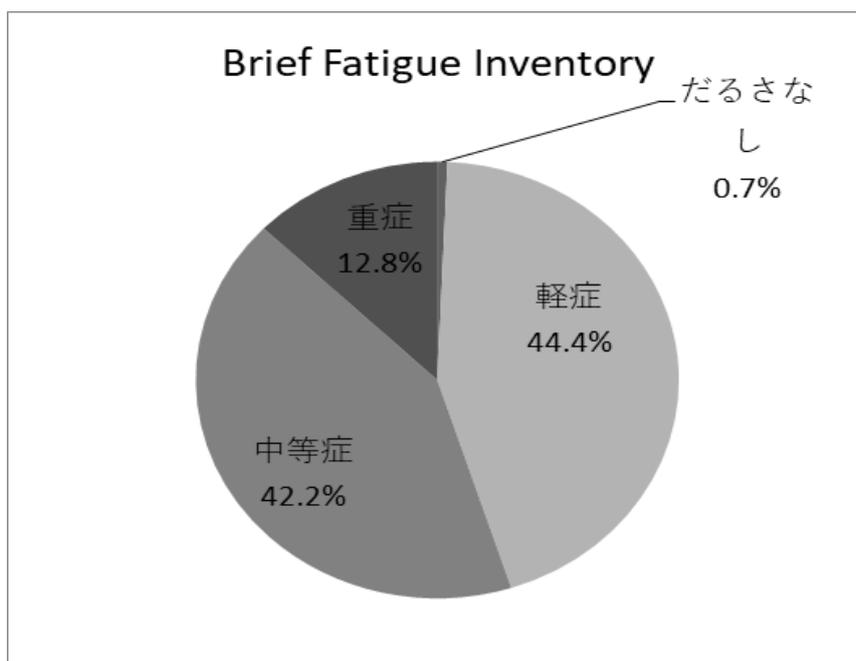
(図 6 1 : 男女別 1 週間に何日昼寝をしますか (男性 : n=384, 女性 : n=364))



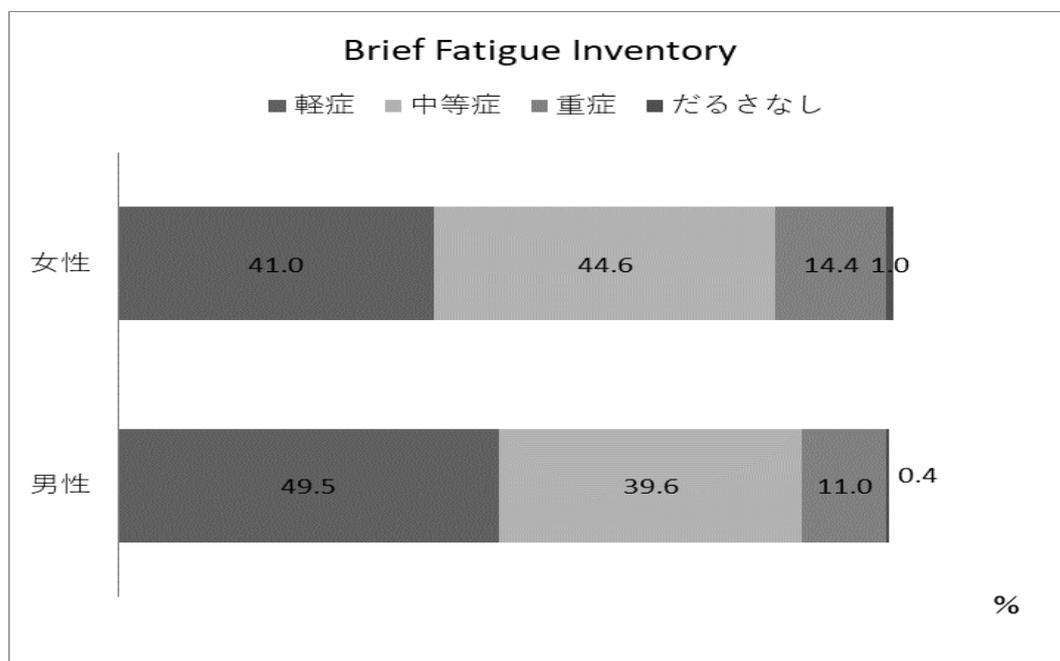
(図 6 2 : この 1 週間に普通とは異なる疲れやだるさを感じましたか (n=1585))



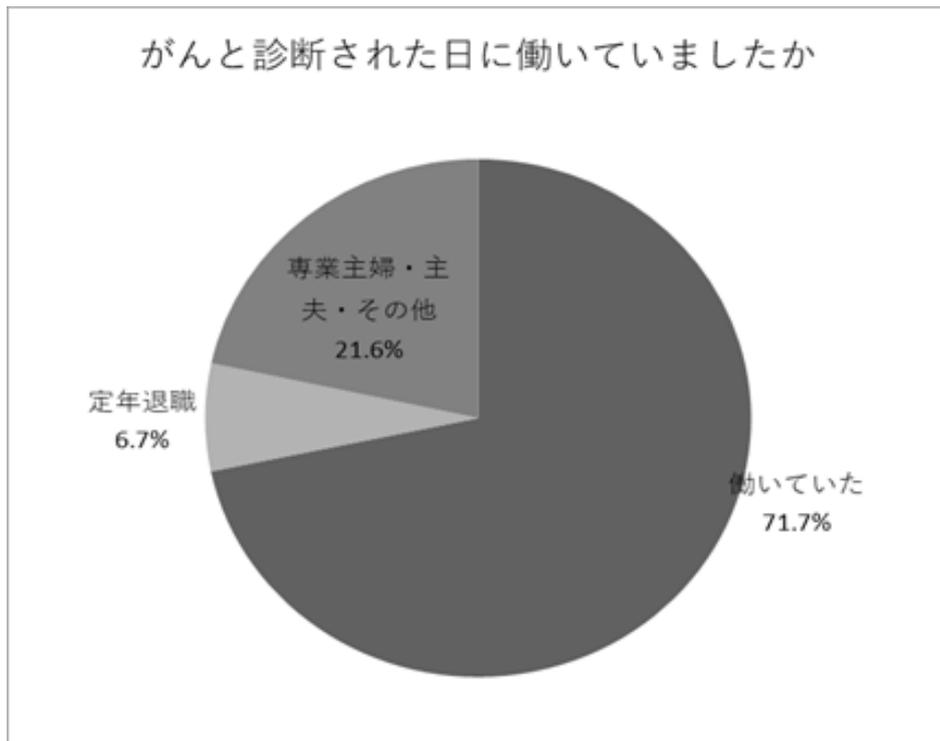
(図 6 3 : 男女別 この 1 週間に普通とは異なる疲れやだるさを感じましたか(男性:n=841, 女性:n=744))



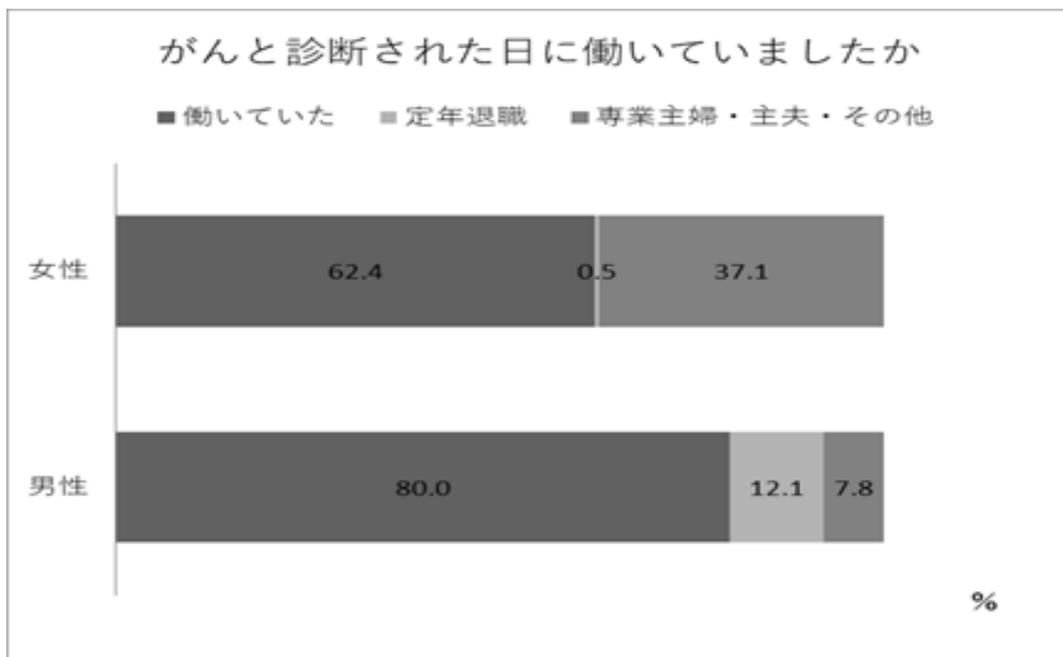
(図 6 4 : Brief Fatigue Inventory(n=595))



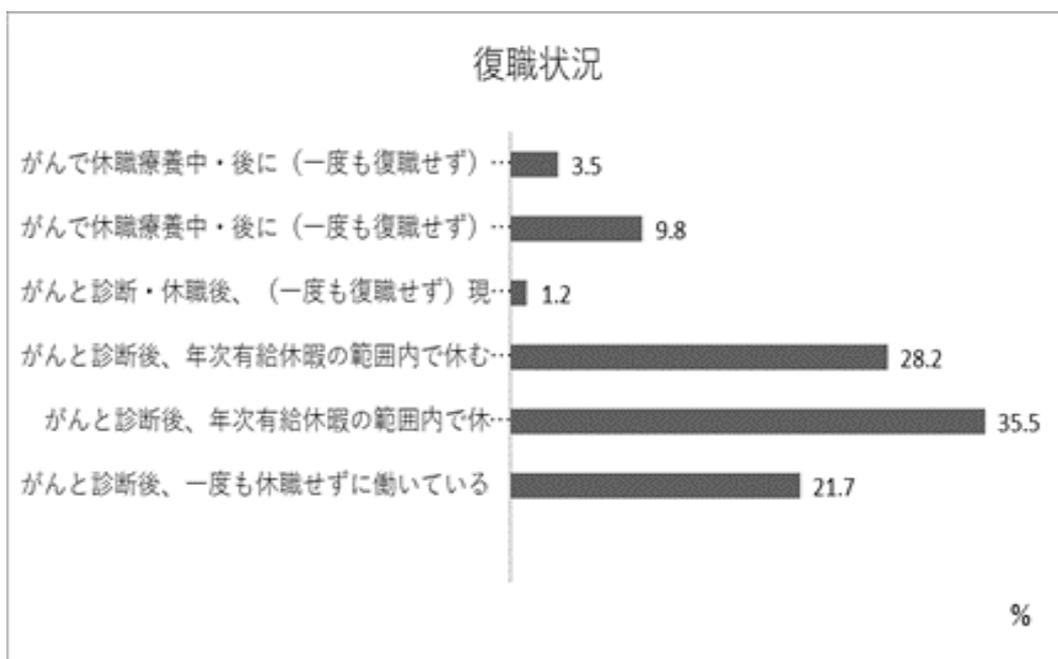
(図 6 5 : 男女別 Brief Fatigue Inventory (男性 : n=283, 女性 : n=312))



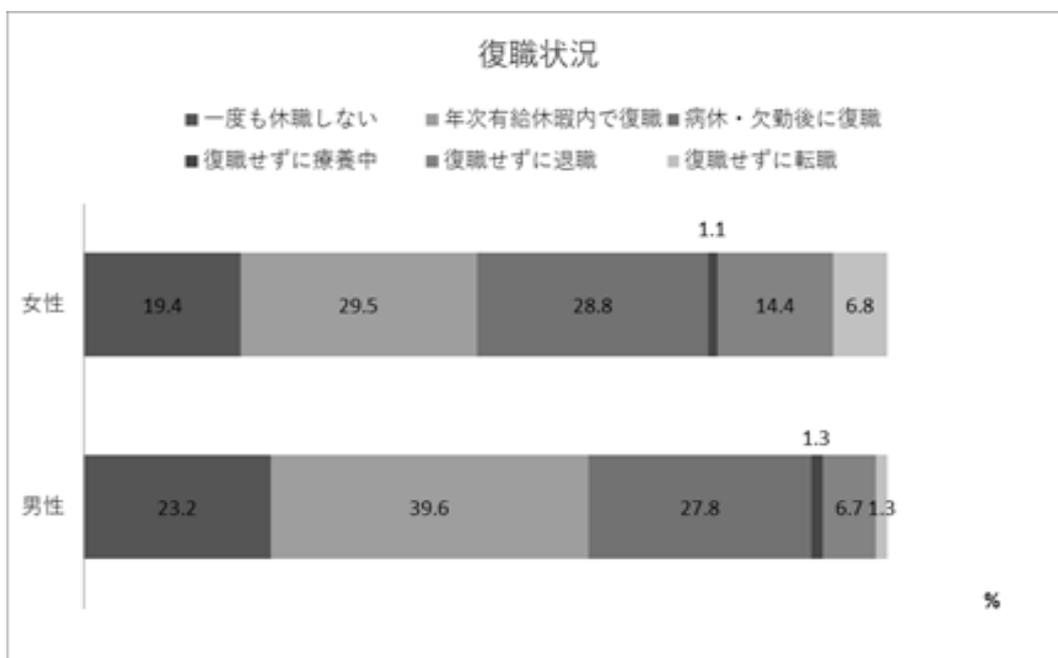
(図 6 6 : がんと診断された日に働いていましたか (n=1585))



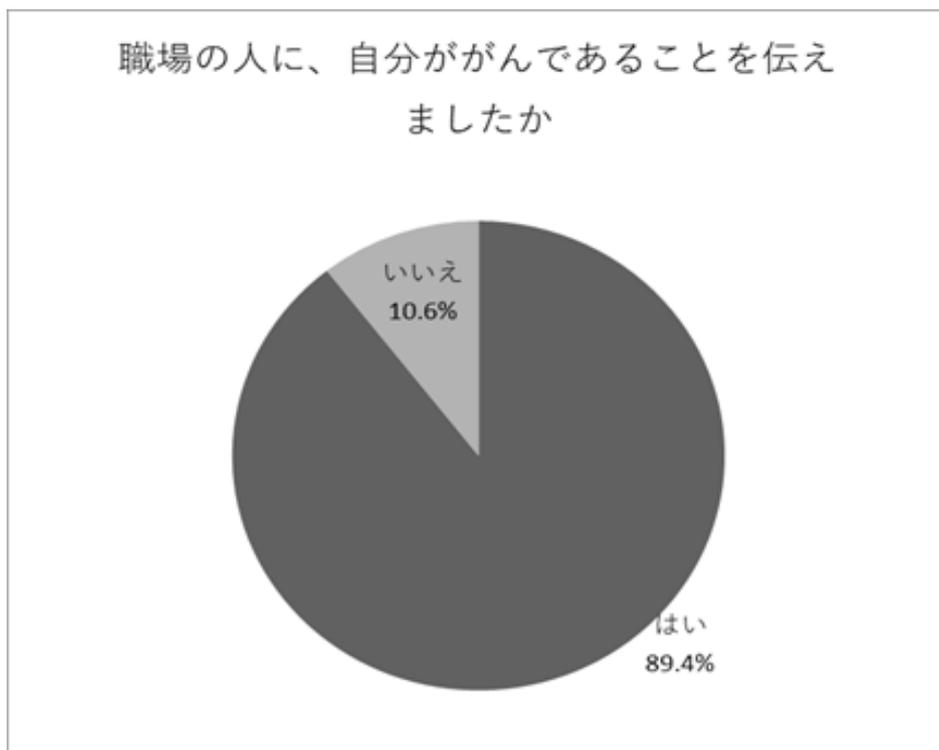
(図 6 7 : 男女別がんと診断された日に働いていましたか(男性：n=841, 女性：n=744))



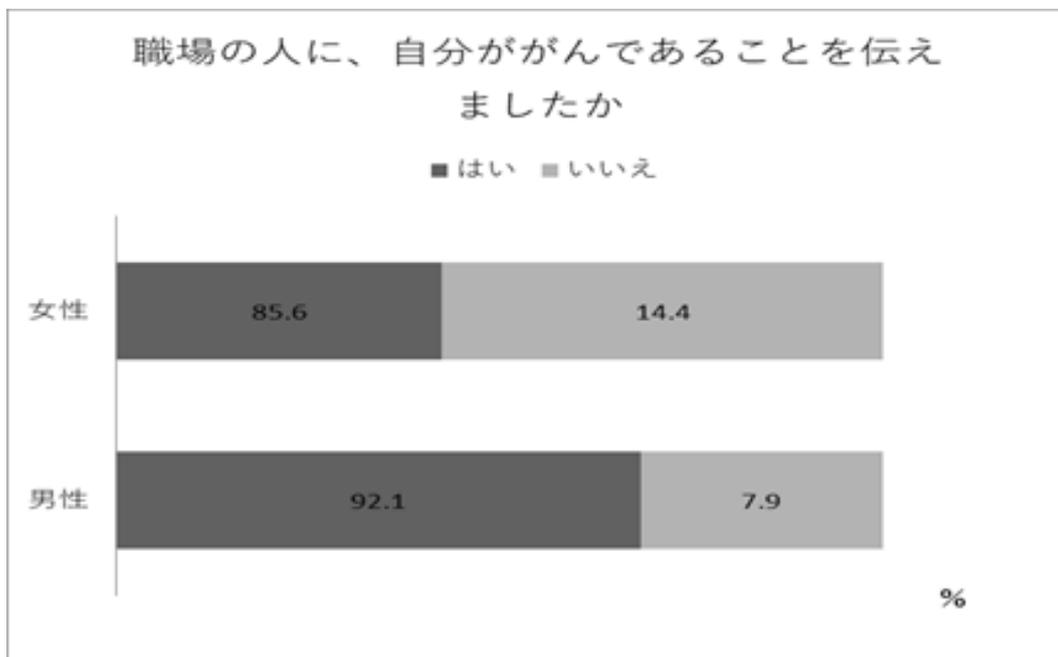
(図 6 8 : 復職状況 (n=1127))



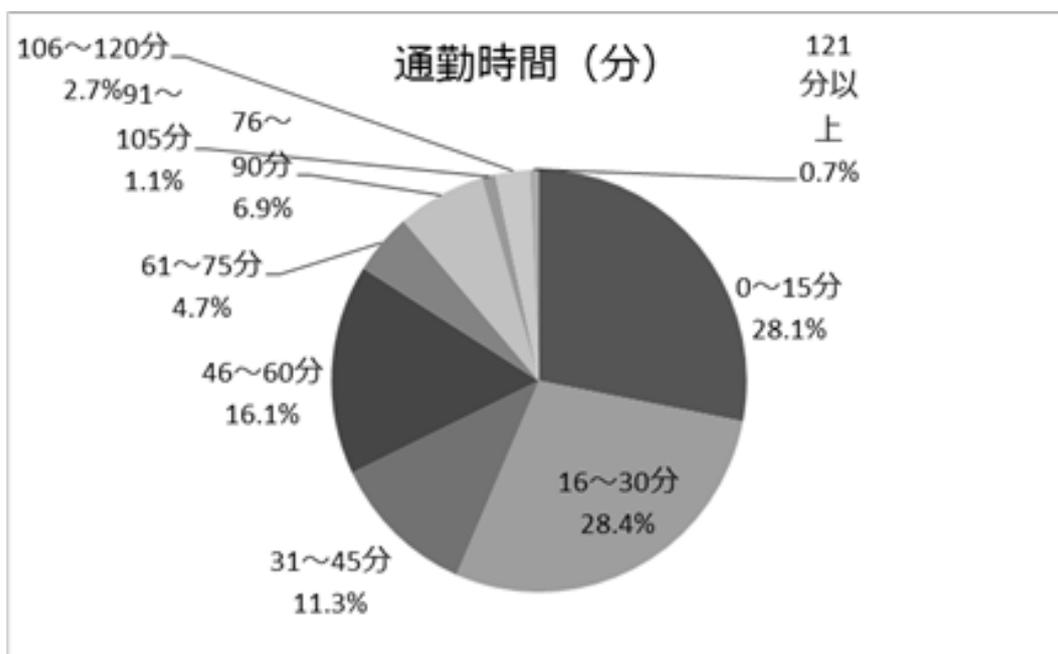
(図 6 9 : 男女別復職状況 (男性 : n=669, 女性 : n=458))



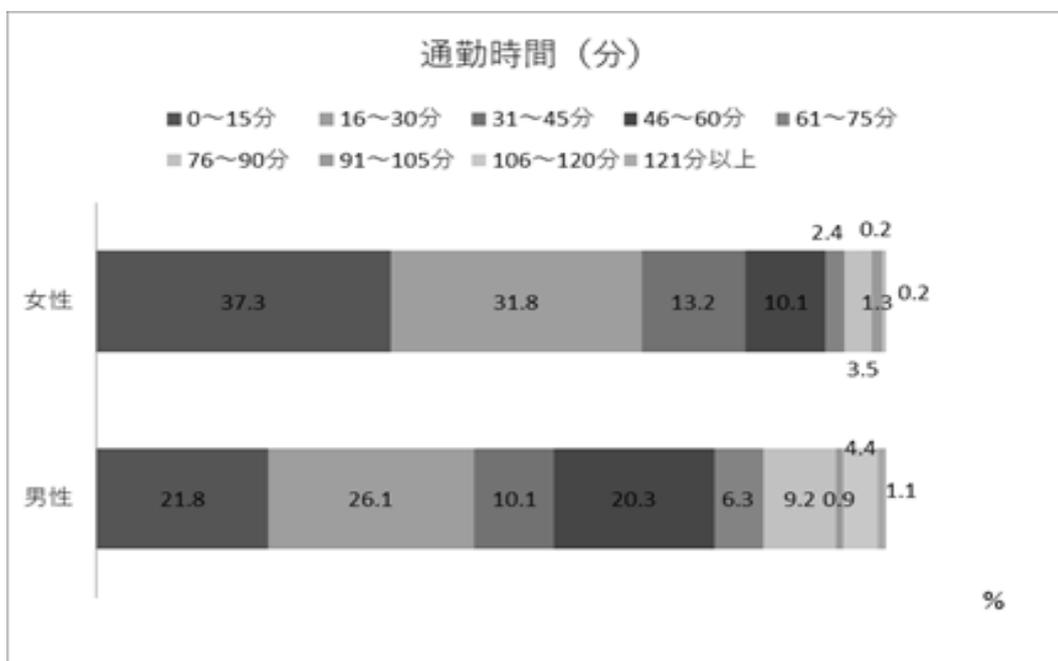
(図70：職場の人に、自分ががんであることを伝えましたか (n=1127))



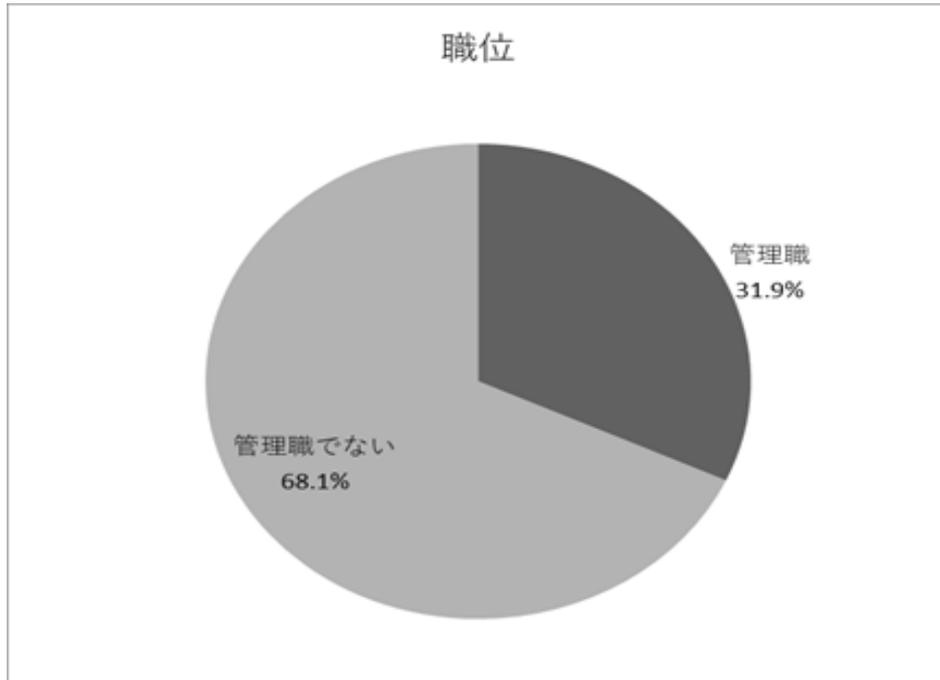
(図71：男女別職場の人に、自分ががんであることを伝えましたか(男性：n=669, 女性：n=458))



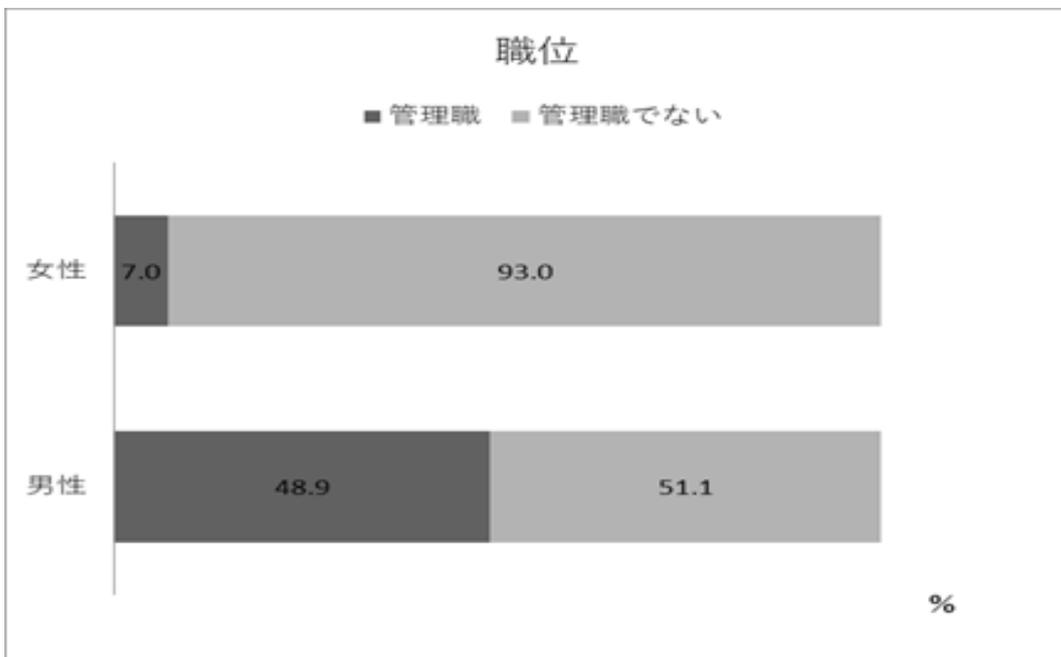
(図 7 2 : 通勤時間 (n=1127))



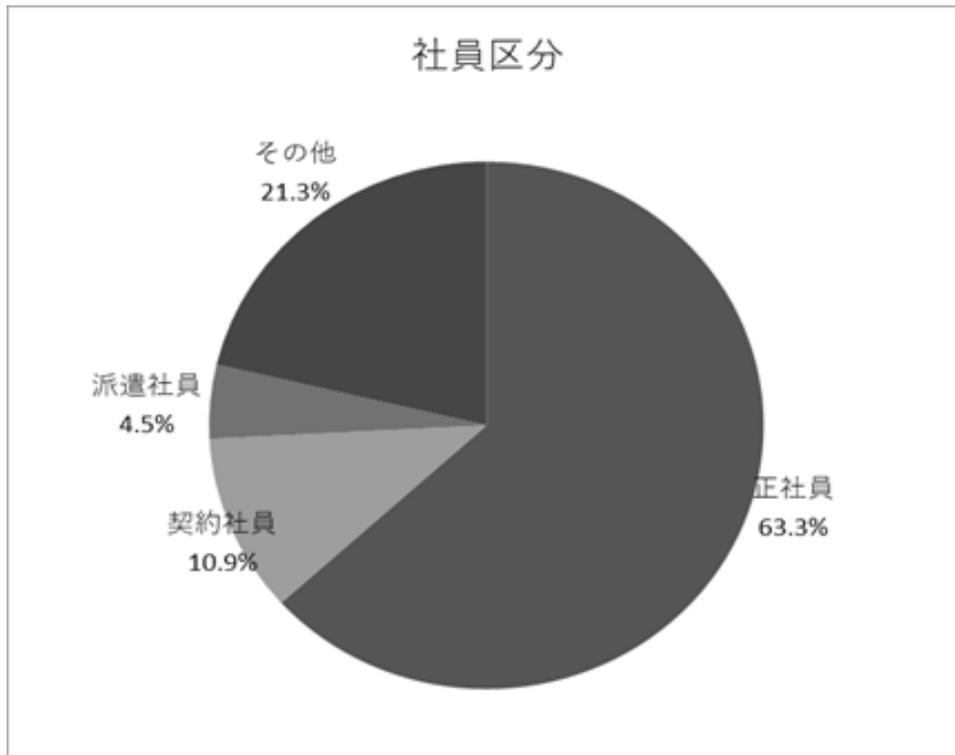
(図 7 3 : 男女別通勤時間 (男性 : n=669, 女性 : n=458))



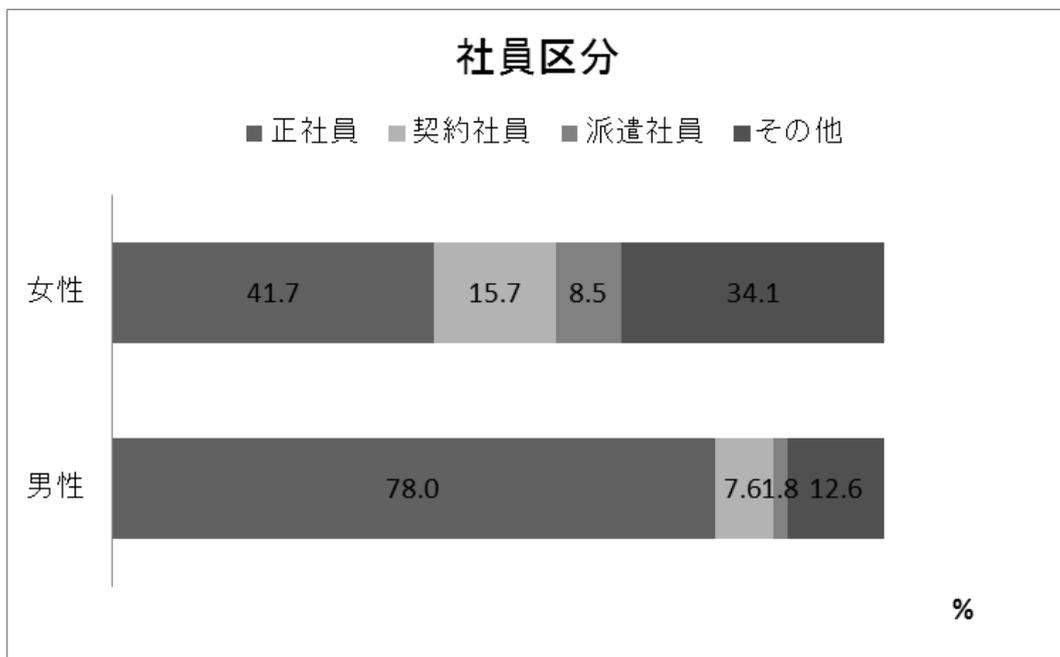
(図 7 4 : 職位 (n=1127))



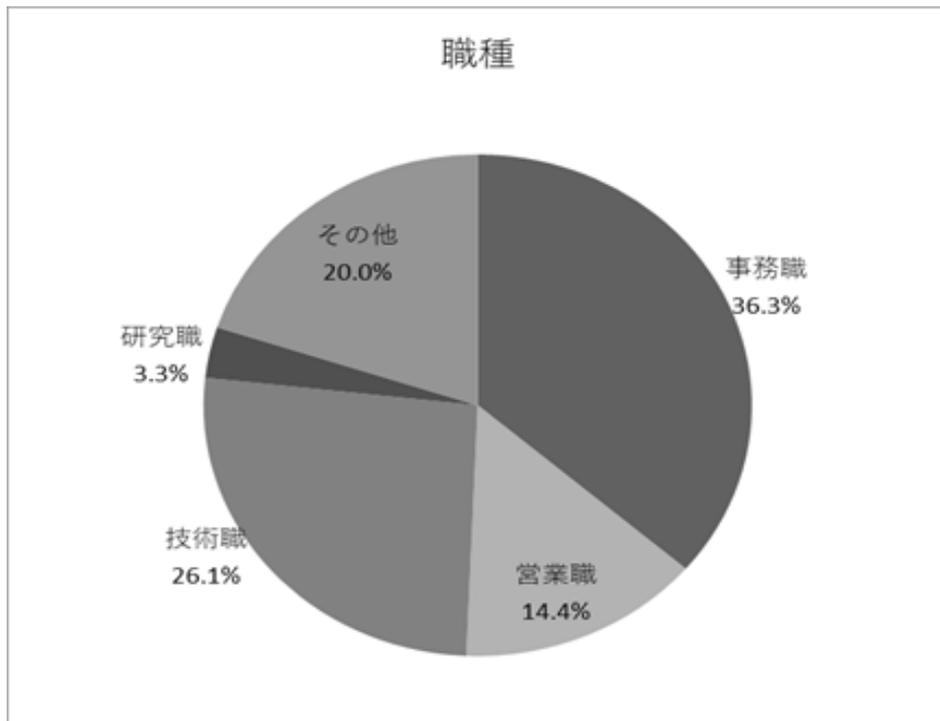
(図 7 5 : 男女別職位(男性 : n=669, 女性 : n=458))



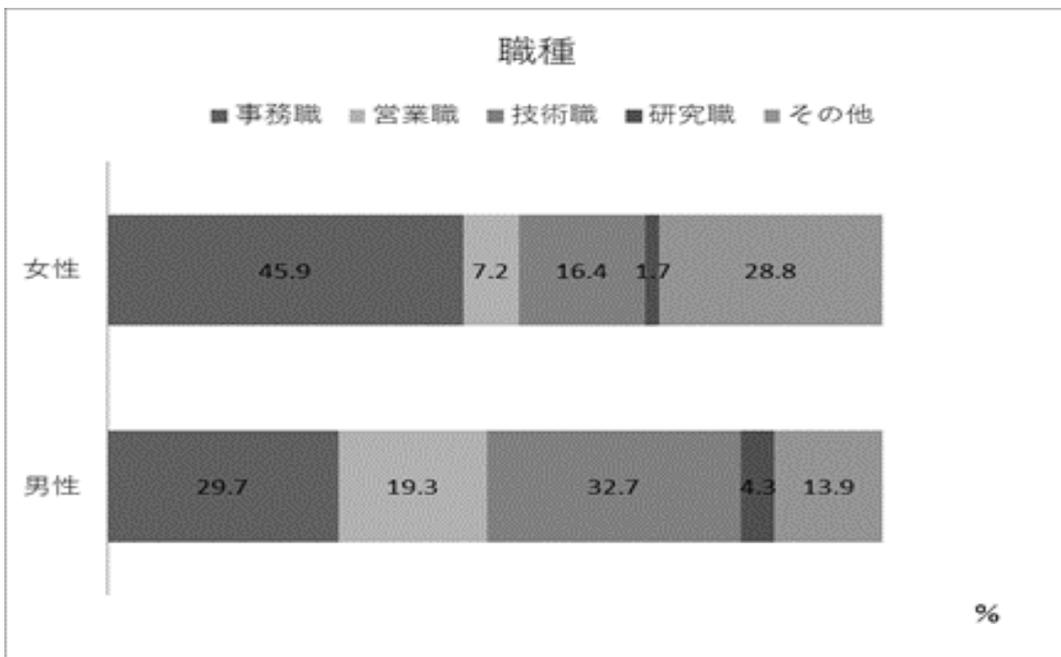
(図 7 6 : 社員区分 (n=1127))



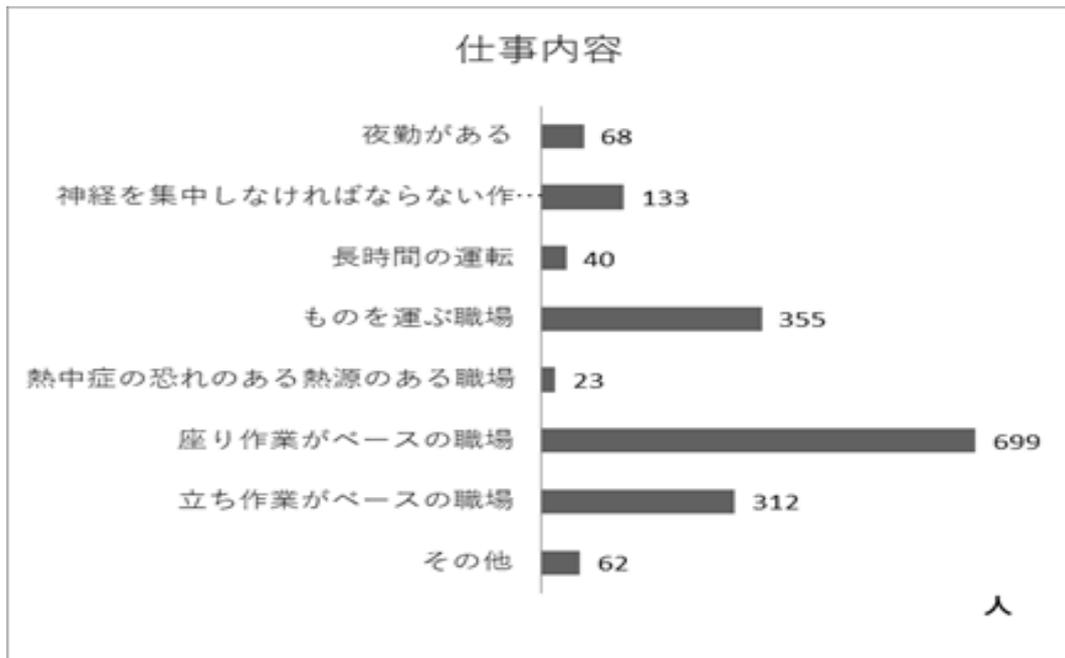
(図 7 7 : 男女別社員区分 (男性 : n=669, 女性 : n=458))



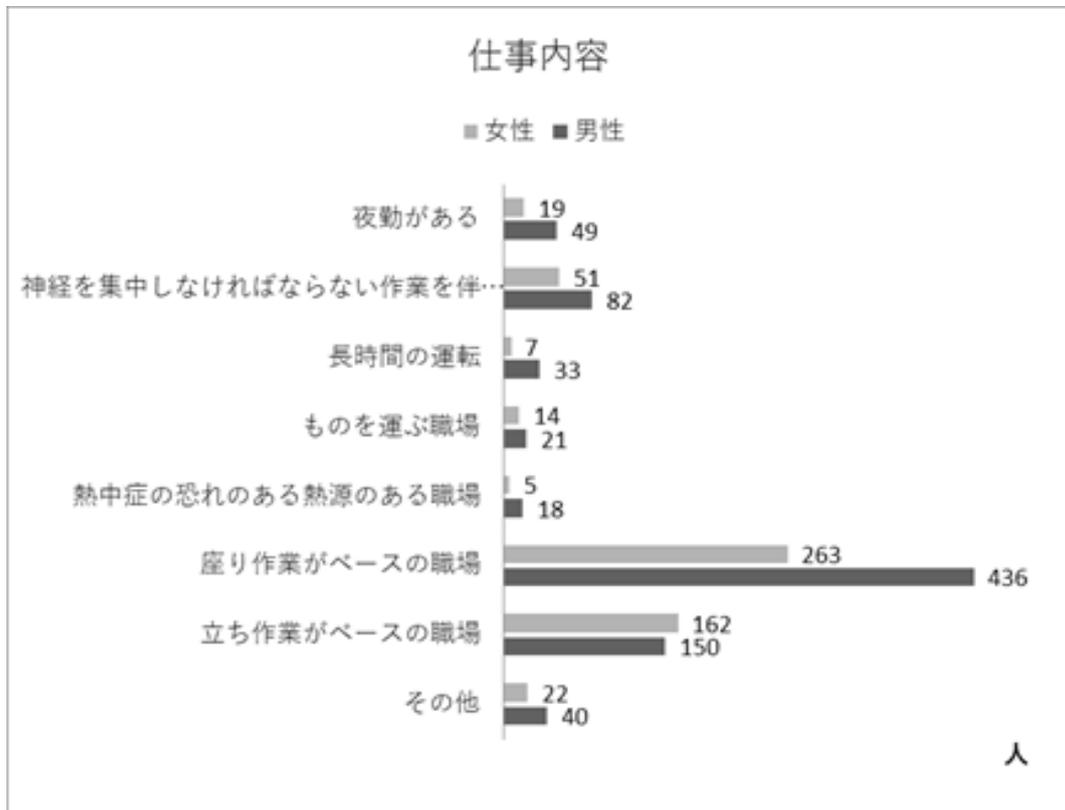
(図 7 8 : 職種 (n=1127))



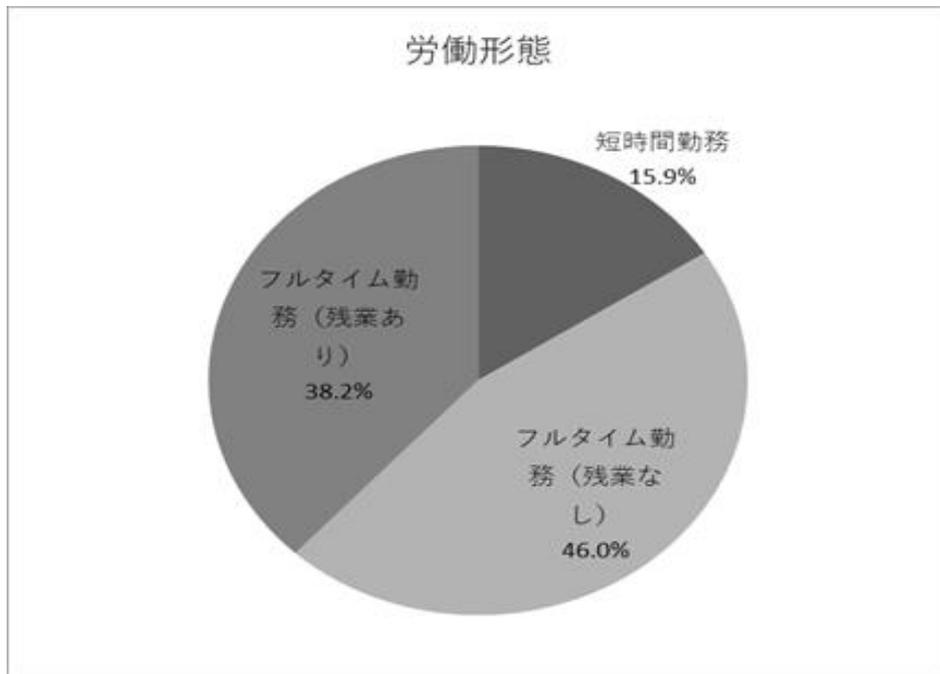
(図 7 9 : 男女別職種(男性 : n=669, 女性 : n=458))



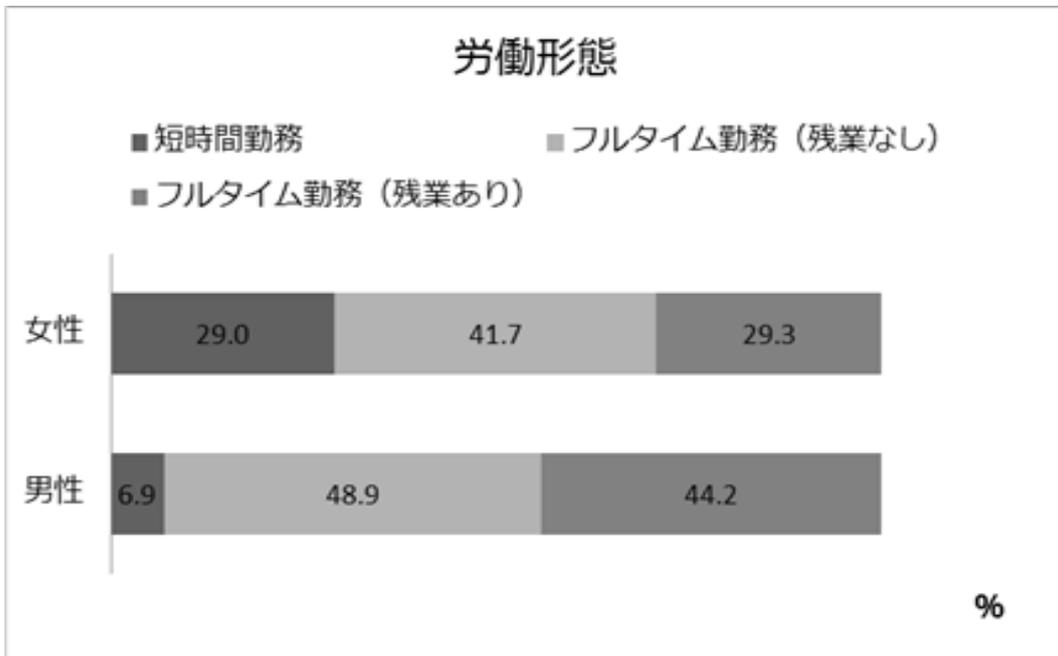
(図 8 0 : 仕事内容 (n=1127))



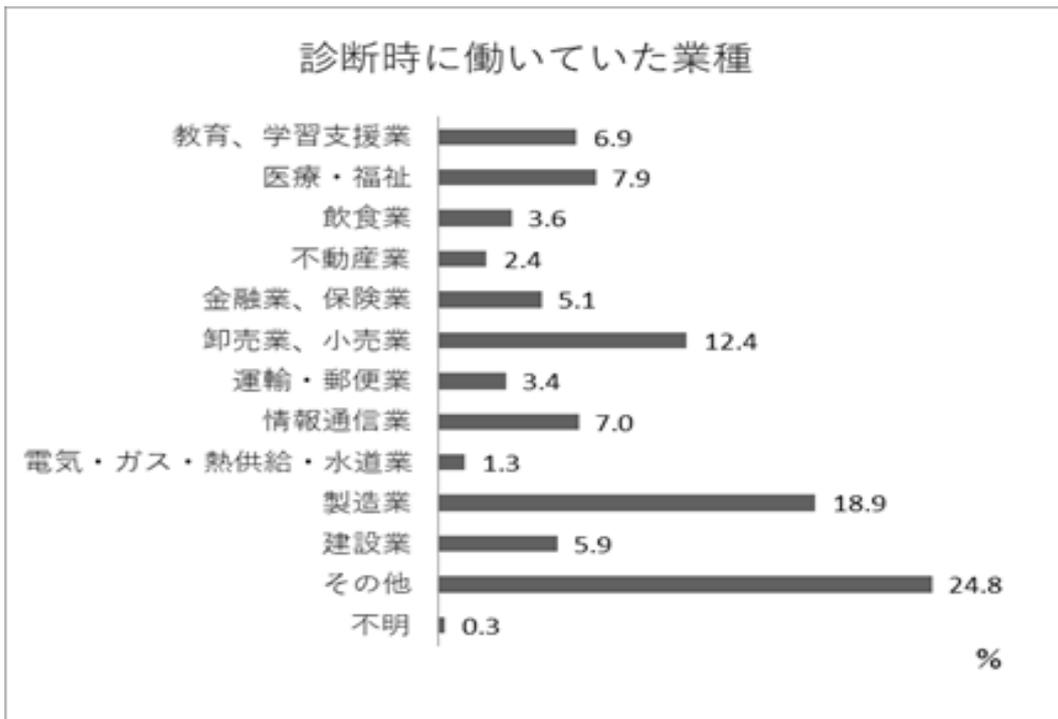
(図 8 1 : 男女別仕事内容 (男性 : n=669, 女性 : n=458))



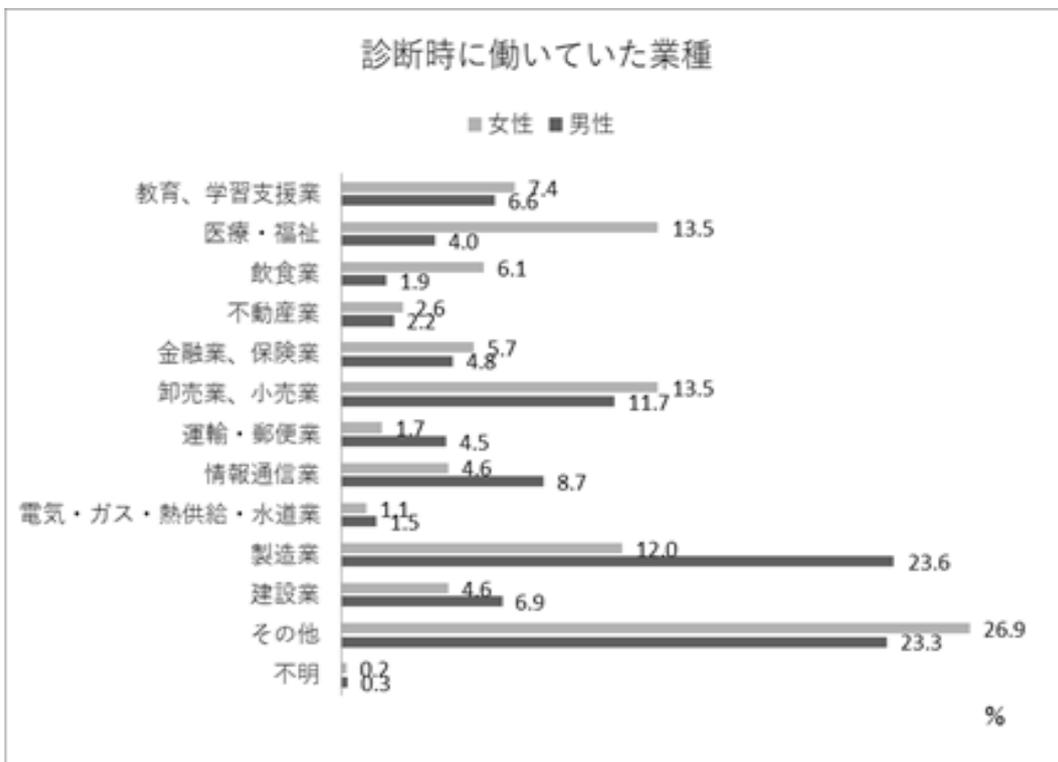
(図 8 2 : 労働形態(n=1127))



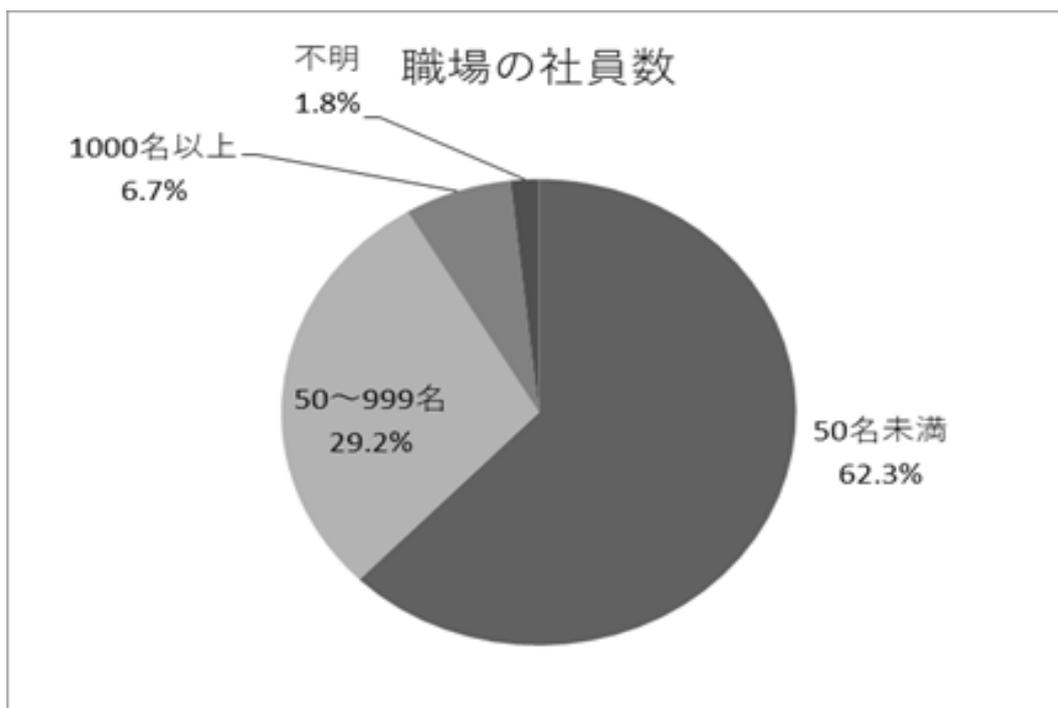
(図 8 3 : 男女別労働形態 (男性 : n=669, 女性 : n=458))



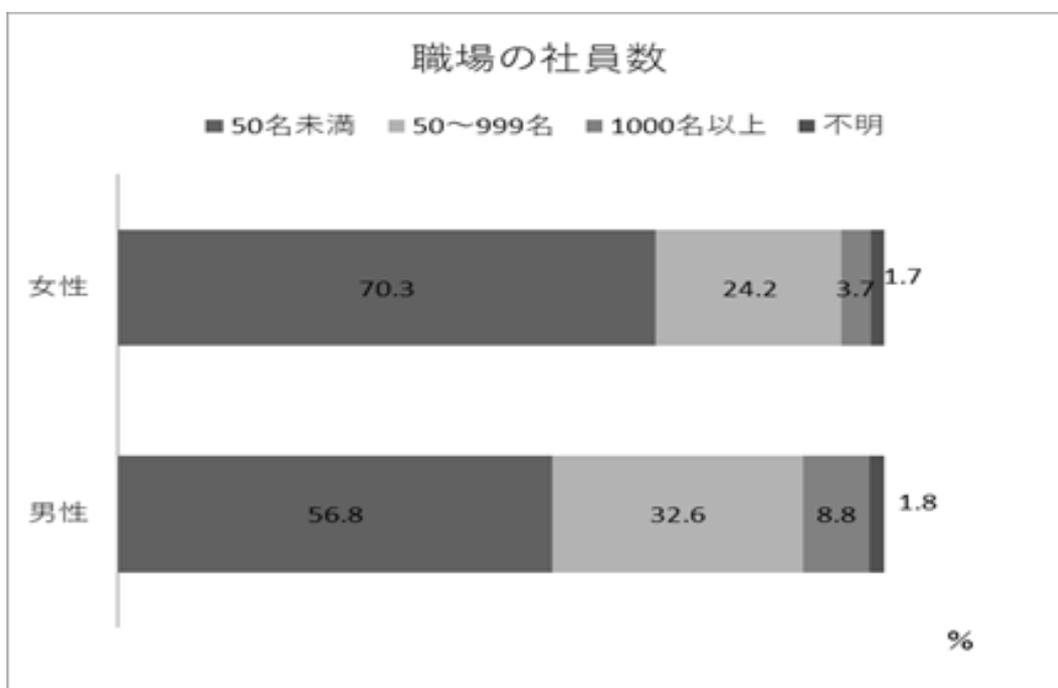
(図 8 4 : 診断時に働いていた業種 (n=1127))



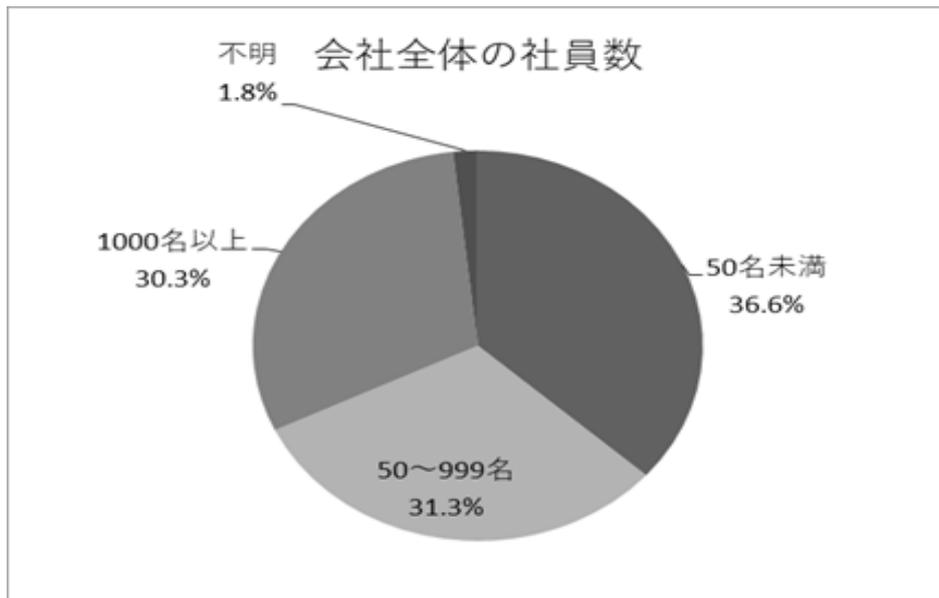
(図 8 5 : 男女別診断時に働いていた業種(男性：n=669, 女性：n=458))



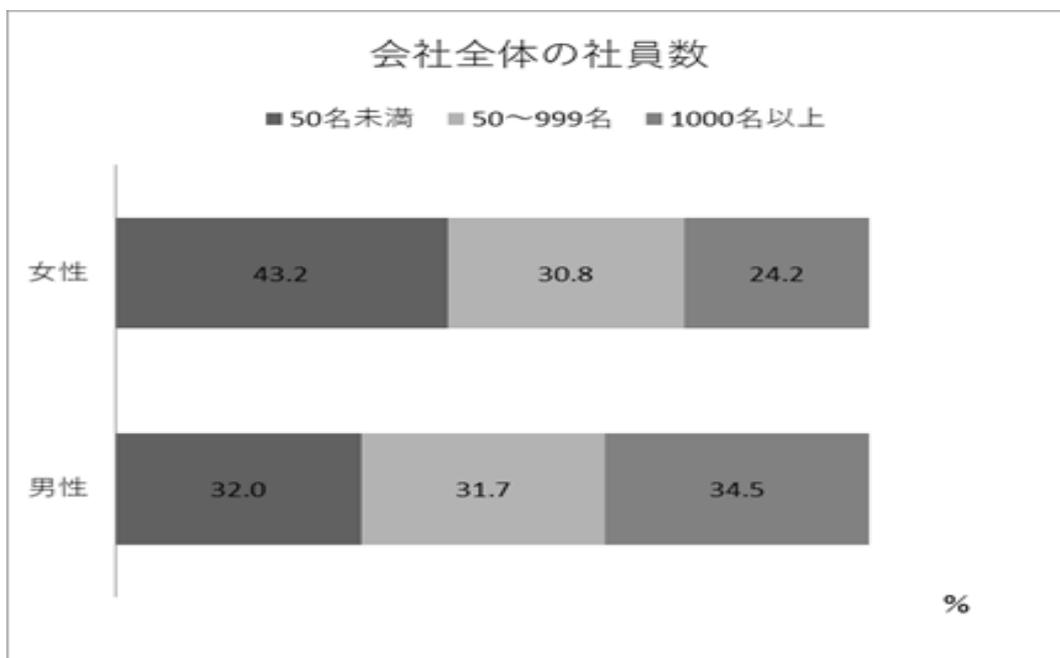
(図 8 6 : 職場の社員数 (n=1127))



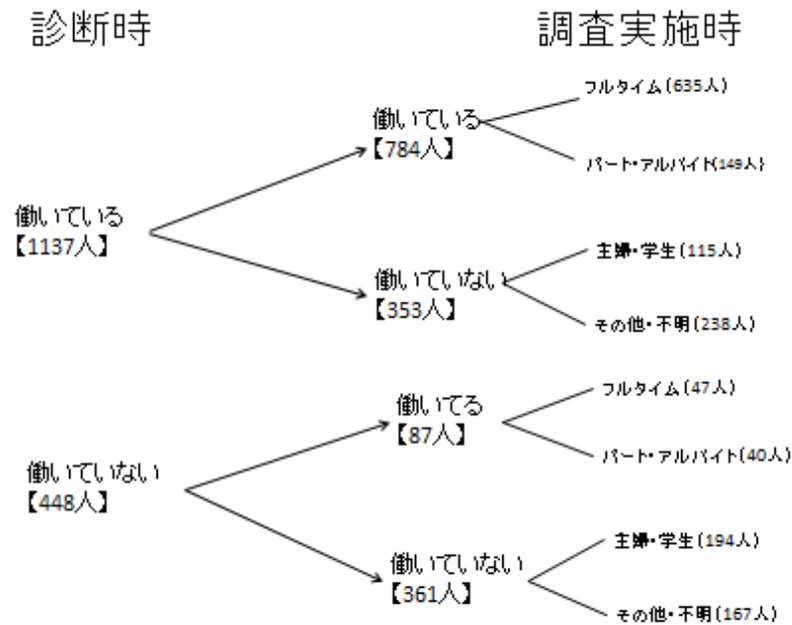
(図 8 7 : 男女別職場の社員数 (男性 : n=669, 女性 : n=458))



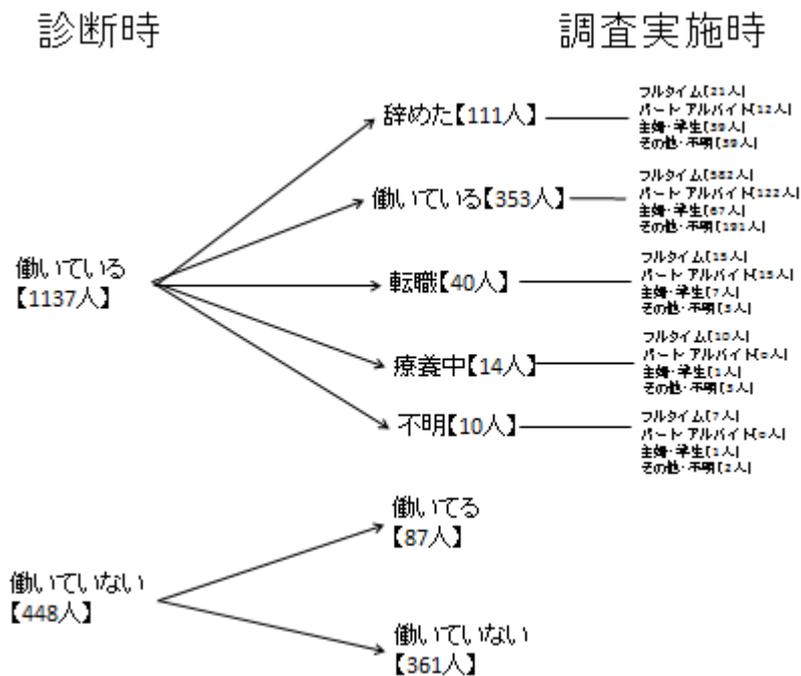
(図 8 8 : 会社全体の社員数 (n=1127))



(図 8 9 : 男女別会社全体の社員数 (男性 : n=669, 女性 : n=458))



(図 9 0 : 回答者の就労状況)



(図 9 1 : 診断時に働いていた人の復職状況)